

16  
24

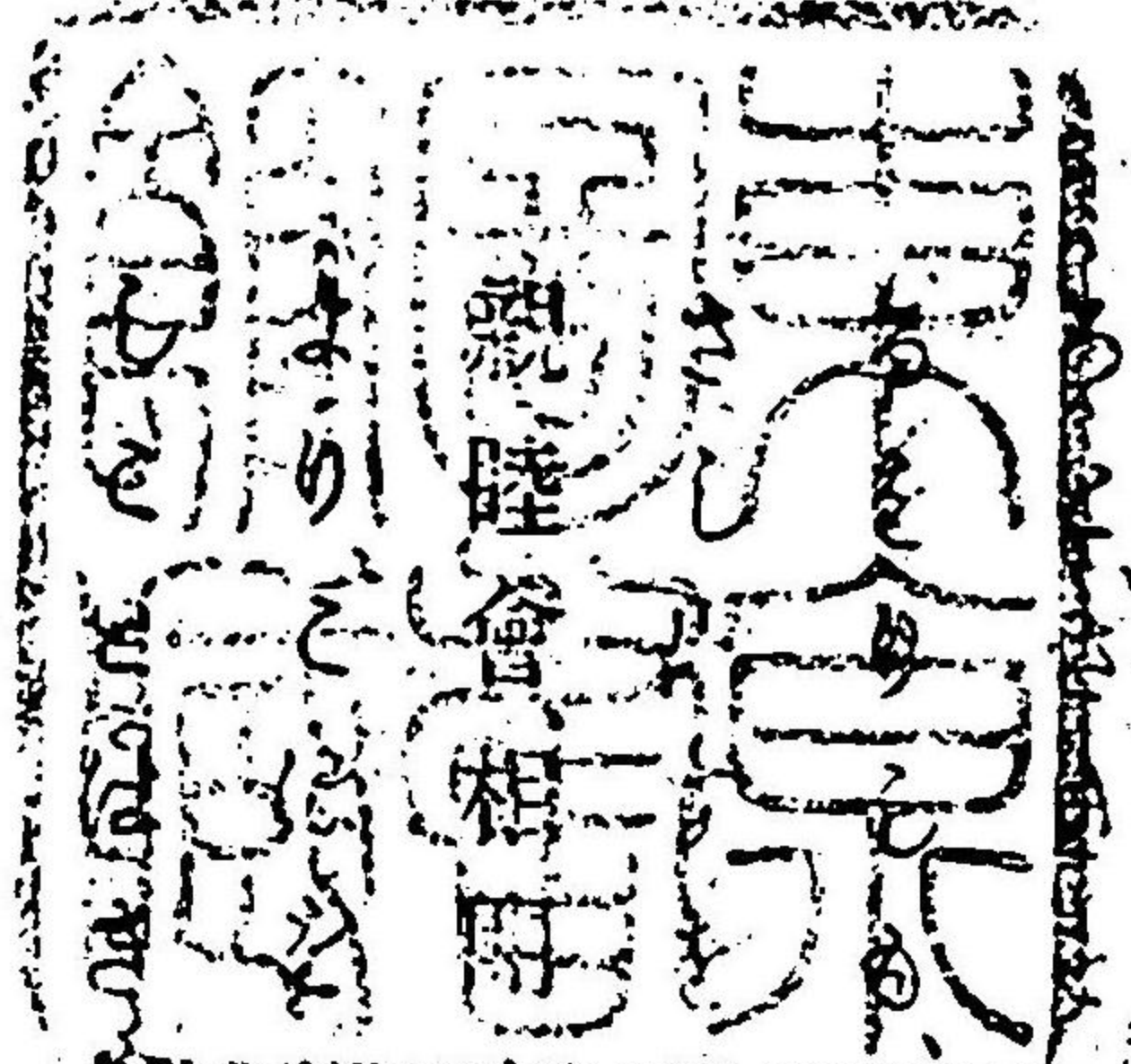
相馬  
事件  
裁判  
明細  
録

第一卷



序

百草園の主人、南の窓ひらさて、軒端の梅



めたるを何こゝろなくなが  
立脚まをれる書生、端書ま  
見れば、今春、上野櫻雲台に於て、志好  
親睦會、相  
につき、是非、出席を幹事とあるに  
より、  
もうし、曾て、あはたの親睦會あり  
たれを、志好の親睦會はこよい始  
めてなり、いかなる活劇あらむ、明日の新聞雜報  
にはこよなきうめぐさならむ、それを親しく

は、うらなりて、まのあたり見るさへ法樂なりと  
二  
たもひて、その時刻をはかり車走らせて至れば、  
人々はや席にみちて、かたみに盃とりかはした  
り、こはれくれたりと、席の末より見わたせば、い  
つれも髪を結ひて、大小さへれのく、傍にたき  
たるは、いとかめしくて、明治の世の人どもを  
もへらす、主人は、かゝる席にいそたることは、生  
れてこのかた、始めてなれば、幹事によりて上席  
より、人々の名をとひかけたり、二つ巴の紋つけ  
たる羽織まなかしてしとけなくゑひたるは、誰

そ大星由良之助君なり、そのかたはらに顔うち  
しかめ居たるは誰そ、小野九太夫君なり、その右  
に白髪頭ふりたてたるは、伊達安藝君なり、その  
白髪翁に盃させるは、原田甲斐君なり、甲斐君を  
へたててすはれる隠居殿は、戸田大炊君なり、そ  
の隠居に議論ふさかけ居るは、大槻藏人君なり  
隠居翁に並ひたる世捨人は、仙石家の家老友鷲  
翁なり、翁にむかひたるは、仙石左京君なり、とど  
へは答ふる人何れも古の人ならぬはなし、書物  
の中、舞臺の上ならではかゝる人に親しくまみ

ゆるは、いといとめつらしと思ふに藝者下婢さ  
へそのさまむかしめきたり、名をとへは、た輕た  
初なといふ、まして飯櫃はこぶたうな、名は政  
岡とぞいふなる、いよくあやしめて吾手に持  
たる盃の膝にこぼるゝも、しらでまもり居たる  
に右の人々かたみにたちて演説なとす、あるは  
慷慨、あるは悲憤、あるは罵詈、あるは讒謗、あたか  
も衆議院の論戦を見るが如し、既にして絃歌さ  
かりに湧き、盃盤狼籍たり、一隅たちまち論議を  
はしめ、つひに喧嘩となりぬ、加勢するもの仲裁

四

するもの、打重りて一かたまりとなり、女さけび、  
徳利たふれ、火鉢くつがへり、洋燈きぬて、世界は  
闇黒となりぬ、主人きもをつぶして、ひそかに目  
をひらき見れば、こはそもいかに、今まで櫻の雲  
の臺ウチナと見つる家は、破れたる御簾に格子あけた  
るいとひろくなる御所とかはりぬ、大星君と  
見つるは、纓たてゝ衣冠いかめしくきなしたる  
人となり、原田君と見つるは、腹巻に太刀をひた  
る人となり、戸田の隠居と見つるは、笏たゝした  
る人となり、そのほか前の人々、いろくのもの

五

六  
どかはり、藝妓、女どもと見つるは、口さけ髪さか  
りて、たそろしきわけものとなりぬ主人、幹事の  
袖にすがりて、たそるくへは、こゝは相馬の  
古御所にて、上席に居たまふは、平親王將門公、か  
れは秀郷朝臣、これは興世王、など世はますく  
古になりかはりぬ、さるほどに將門公つと立あ  
かりて演説す、其聲雷のごとく、關八州を震動す、  
主人またも磐梯山の破裂かと、ふとたどろきさ  
むれば春の空はのくとあけわたりにて、かきの  
かなたに鶯の聲一つ二つ、

たまく日本書行、この書を持ち來りて主人に  
序をもとむ、よりて一場の春夢を記し、これにお  
くりつ、

明治二十七年銀婚式前七日  
百草園主人識

明治二十七年三月下旬

日本新聞社編輯部

緒言

本日吾國の耳目を聳動し、喧傳海外に及びたる相馬事件の大疑獄も、今回の燃犀を以て其真相を照出し、毫も秘伏する所の者なく、遡りて毒殺事件に關する豫審の顛末及参考人二百餘名の陳述、家宅搜索に獲たる證據物も、依て多年衆議院の速記に従事して、高名なる新井田次郎氏が畢生の力を致して速記せる、公判廷の陳述辯論より前後の豫審廷に於る一切の調書等、一も洩す所なく逐次編纂して、餘輿の爲め被告人の肖像及び棠陰居士の評を加へ、相馬の裁判明細録と題し、以て古今未曾有の大疑獄の落着と報し、聊か世の警誡に供するものあらんことを欲す。

明治二十七年三月下旬

編者誌



此訟事ニ  
致シテ多  
年モテ風  
挽ク下ナ  
ク天ノシ  
耳メ動セ  
シメタル  
ガ如ク死  
モ剛シク  
織ルハ  
ノと男一  
リノ男一  
ナ個

被告人	後藤新平	同	堀内松十郎
同	同	同	岸小三郎
同	同	同	飯田宏太郎
同	同	同	芳澤孝太
同	同	同	芳賀直賢
同	同	同	山浦橋馬
同	同	同	青木辰雄
同	同	同	岸本育辰
同	同	同	大岡倉
同	同	同	板倉育辰
同	同	同	町井鐵之助
同	同	同	岡嶋宗三郎
同	同	同	江間俊一郎
同	同	同	宮古啓三郎
同	同	同	菊地武夫
同	同	同	三宅碩夫
同	同	同	菊地武夫
同	同	同	三宅碩夫
同	同	同	錦織下同シ

被告人	帆足清萃	辯護士	鳥居斷八
同	同	同	青木八重
同	同	同	磯部四郎
同	同	同	大塚成吉
同	同	同	齊藤孝三
同	同	同	坂本浪重
同	同	同	武藤浪重
同	同	同	森

○公判第一回

明治二十七年二月十二日午前十時十五分開廷裁判長、檢察官、書記、各被告人、各辯護士一同着席

○青木辯護士 御開キ前ニ一應請求致シマス、  
 ○裁判長 開ク前ニ何ノ請求カ、  
 ○青木辯護士 私ハ帆足清萃ト山口淳ノ辯護人デゴザイマスガ、本件ニ就テ請  
 求致シタイコトハ、同人ノ被告事件ハ誣告ノ方ニハ固ヨリ毫モ關係ハナイノデ、  
 辯護人ノ方デハ簡單ノヤウニ考ヘマスカラ、成ルヘクハ誣告事件ノ方ト分離サ  
 レテ、先キニトカ或ハ其間ニナリ御取調ヲ願ヒタイ、ソレハ被告本人モ懇望致シ



先テ争フ  
毎日出カ  
認ニ出カ  
ケル者ハ  
何ソ退風  
セサル

マサルシ、辯護人モ其ノ方ガ都合カ宜シイト思ヒマスカラ一應此事ヲ申請致シ  
マス、

四

○裁判長 檢察官ノ御意見ハドウデス、

○檢察官 本官ノ考デハ、成程只今青木辯護士ノ言ハレタコトハ尤モノヤウニ  
モ考ヘラレマス、併ナカラ元ト此事件ニ牽連シテ起ツタ事件デアリマスカラ、矢  
張此方モ一緒ニ開イタ方ガ正當デアルト考ヘマス、併ナカラ此誣告事件ニ就キ  
マシテハ、大分時日ヲ經ルデアラウト考ヘマス、其間ニ被告人及ヒ辯護人カ此所  
ニ居ルト云フノモ甚タ退屈デアラウト考ヘマスカラ、一應此今日ノ公訴ノ事實  
ヲ陳述シ了ツテカラ、誣告事件ノ取調ノアル間ハ帆足ナリ他ノ被告人並ニ辯護  
人ハ、此法廷ニ來ラレナクトモ差支ハナカラウト思ヒマス、ソコデ帆足モ或ハ其  
他ノ事件ヲ聞ク場合ニ至リテ此方カラ豫メ通知シテヤツテサウシテ來テ貰ツタ  
ラ宜カラウト思ヒマス、

○裁判長 此方ノ考ニモ、サウ思ツテ居ツタノデアアル、何レ此誣告事件ト云フモ  
ノハ、連モ一席ヤ一席デ取調ベ了ルコトハ六ヶ敷カラウト考ヘマス、其間ニ帆足  
ノミナラズ渡邊モ矢張同様ノコデアツテ、其被告人ナリ辯護士ナリガ利害ノ關  
カラウト考ヘマス、

○青木辯護士 サウ云フ御都合ナラバ拜承致シマス、

○裁判長 ソレデ以テ公判ノ手續ニ違フト云フ考モナイコトデアリマス、ソレ  
デ異議ハナイカ……毎日關係ノナイノニ出テ來ルノモ氣ノ毒ナヤウナコトデア  
ルカラ……

○青木辯護士 委細承知シマシタ、

○裁判長 ソレデハ是ヨリ開廷致シマス、

○高梨辯護士 私ハ錦織剛清ノ外ニ岡野寛及ヒ小山とさノ辯護ヲ委任致サレマ  
シタ、只今マデハ錦織一人タケニ止ツテ居リマシタガ、岡野寛及ヒ小山とさノ兩  
人ニ就テモ辯護ヲ致シマス、

○裁判長 承知致シマシタ、

○被告(錦織剛清) 御審問ノ前ニ一寸申上テ置キタイ、

五

俗ニ云フ  
厄年デハ  
ナイカ

○裁判長 先ツ住所姓名ヲ承ラウ、其方姓名ハ……、

六

○被告錦織剛清 錦織剛清、

○問 年齢ハ、

○答 當年四十年デス、

○問 何月ノ何日生レ、

○答 三月十五日ト覺ヘマス、

○問 身分ハ、

○答 士族、

○問 職業ハ、

○答 職業ハ別ニ御坐リマセヌ、書畫ヤ刀劍ノ鑑定ヲ致シマスガ全体ハ書工デ  
ゴザリマス、

○問 原籍ハ、

○答 目下ハ埼玉縣北足立郡指扇村八十七番地、寄留ハ麻布區并町百三番地ニ  
寄留ヲシテ居リマス、

○問 生レハ、

善ク劍ヲ  
相スルヲ  
ナ知ルト  
云フ而シ  
テ眞實チ  
判スルチ  
能ハサル  
カ如シ  
モアル

山口淳ハ  
法官公  
ノ歴ニ

○答 生レハ福島縣磐城郡宇多中村二百八番地デゴザリマス、

○裁判長 被告山口淳年齢ハ、

○被告(山口淳) 三十四年ニナリマス、

○問 何月ノ何日生レ、

○答 八月六日ト覺ヘマス、

○問 身分ハ、

○答 士族、

○問 職業ハ地方裁判所ノ判事デアッタナ、

○答 ハイ、

○問 勳位年金ヲ有シテ居ルカ、

○答 アリマセヌ、

○問 位ハ、

○答 正七位、

○問 籍ハ、

○答 以前ハ牛込區西五軒町四十三番地デゴザリマシタガ、併シ私ガ本件ニ就  
七

一言肝ニ  
徹ス

テ入鑑以來轉居致シマシテ、市ヶ谷加賀町二丁目十七番地ニ移ツタサウデアリ  
マス、

○問 生レタ所ハ、

○答 新シ橋近傍デアリマス、

○問 原籍ハ矢張東京府カ、

○答 左様、

○裁判長 次ハ後藤新平年齢ハ、

○被告人(後藤新平) 年ハ三十九年デ六月ノ四日生レ、

○問 豫審ノ方ノ決定書ニハ三十七年六月トアルガドウカ、

○答 ソレデハ……三十八年六月四日生レデアリマス、

○問 左様カ、身分ハ、

○答 平民デゴザリマス、

○問 職業ハ、

○答 職業ハ醫師デゴザリマス、

○問 内務省ノ衛生局長ヲ奉職シテ居レタカ、

自己ノ年  
齡ヲ憶マ  
ル能カ惶  
カ

○答 ソレハ當時ハ非職デゴザリマス、拘引ニナリマシタ時ハ現職デアリマシ  
タガ……

○問 位ハ、

○答 從五位デゴザリマス、

○問 勳位年金ハアリマスカ、

○答 勳位年金ハアリマセス、

○問 原籍ハ、

○答 巖手縣膽澤郡水澤町、一番地不明デアリマス、

○問 當時ノ住居ハ、

○答 東京府下麻布區東町四十八番地、

○問 豫審ノ方デハ二十四番地トアルガ、

○答 左様デス二十四番地デアリマス、

○問 生レタ所ハ、

○答 生レタ所ハ矢張原籍ノ土地ニ生レマシタ、

○裁判長 其次ギノ姓名ハ、

又番地ヲ  
憶マル愈  
目盡カ

○被告人(岡野寛) 岡野寛、  
○問 年ハ、  
○答 五十歳デ正月生レ、  
○問 何日生レカ、  
○答 日ハ分リマセヌ、  
○問 身分ハ、  
○答 平民、  
○問 職業ハ、  
○答 辯護士、  
○問 原籍ハ、  
○答 茨城縣河内郡長竿村二百番地、  
○問 當時ハ何處ニ、  
○答 東京府下日本橋區上植町四番地寄留、  
○問 生レタ所ハ、  
○答 原籍デゴザリマス、

○裁判長 被告人山田重兵衛年ハ幾歳ニナル、  
○被告人(山田重兵衛) 五十年、  
○問 何月何日生レ、  
○答 九月十三日、  
○問 身分ハ、  
○答 平民、  
○問 職業ハ、  
○答 洋服業兼刀劔商、  
○問 籍ハ、  
○答 日本橋區吳服町六番地、  
○問 生レタ所ハ、  
○答 小日向水道町、  
○裁判長 次ニ小山とき年ハ幾歳、  
○被告人(小山とき) 二十六年、  
○問 何月何日生レ、

- 答 十二月二十五日生レ、
- 問 身分ハ、
- 答 平民デゴザリマス、
- 問 職業ハ、
- 答 無職業デゴザリマス、
- 問 其方ハ錦織剛清ノ妻デアルナ、
- 答 左様デゴザリマス、
- 問 籍ハ何處ニ在ルカ、
- 答 埼玉縣北足立郡指扇村八十七番地、
- 問 生レタ所ハ、
- 答 原籍ノ所ニ生レマシタ、
- 裁判長 ソレカラ其方ハ何ト云コカ、
- 被告人(渡邊直賢) 渡邊直賢、
- 問 年ハ、
- 答 四十歳、

- 問 何月何日生レ、
- 答 二月八日生レ、
- 問 身分ハ、
- 答 平民デゴザリマス、
- 問 職業ハ、
- 答 鍛冶職、
- 問 籍ハ何處ニアル、
- 答 群馬縣北甘樂郡小幡村番外五十五番地、
- 問 生レタ所ハ、
- 答 モト西丸下、
- 問 今ハ、
- 答 本挽町三丁目三番地デアリマシタガ、今ハ轉居致シマシテ芝森元町一丁目二十五番地山本……方、
- 裁判長 其次ハ帆足清幸、
- 被告人(帆足清幸) ハイ、

○問 年齢ハ幾歳、  
 ○答 五十二歳、  
 ○問 裁判所ニ出テ居ル履歴ニハ弘化四年生レトアルガ、ソレデハ四十八歳ニナルガ少シ違フヤウダナ、ドチラガ宜シイカ、  
 ○答 矢張五十二歳ノ方ガ宜シイト考ヘマス、  
 ○問 ソレナラソウデ宜イ、身分ハ、  
 ○答 士族、  
 ○問 ソレカラ根室地方裁判所ノ判事デアッタナ籍ハ何處ニアル、  
 ○答 長崎縣南高來郡神代村四百二十三番戸、  
 ○問 生レタ所ハ、  
 ○答 矢張全所デアリマス、  
 ○裁判長 何カ錦織剛清ハ開廷前ニ言ヒタイコトガアルサウダガ、  
 ○被告人(錦織剛清) 申請ヲ致シマスガ御許容ニナルヤ否ヤハ分リマセヌガ、實ハ私ノ辯護人大岡ハ當時選舉地ニ出張致シマシテ、三月十日頃デナケレバ歸京致サヌト云フコトデゴザリマス、實ハ本件ノコトハ最初ヨリ大岡辯護士ハ度々

々辯護ニモナツテ居ラレ、且ツ巨細ノ一ハ御承知デゴザリマス、依テ今般ノ御開廷ニ就キマシテモ、非常ニ大岡辯護士ガ居ラレヌト云フト不利益ノ一モアラウカト存ジマス、又大岡辯護士カ居リマスルト相被告諸君ニ於キマシテモ利益ト考ヘラレルコトガ大ナルモノデアリマス、ドウカ大岡辯護士ガ歸京マデ四週間ノ延期ヲ願ヒタイト思ヒマス、併シ私共許リ延期ヲ願フト云フ譯ハ甚ダ良心ニ背キマスルヤウデアリマスガ、斯ク被告諸君ニ於テモ御同感デアリ、各辯護士諸君モ御同感デアリマスナラバ、誠ニ私ニ取ツテ満足ニゴザリマス、一寸此事ヲ申請致シマス、



○阪田辯護士 私ハ後藤新平ノ辯護人デアリマスガ、新平ニ此書類ヲ貸シタイト思ヒマスガドウカ御許ヲ願ヒタイ、

○裁判長 ソレハ公廷内デカ、

○阪田辯護士 公廷内ダケデ貸シタイノデス、此間差入レルコトガ出来マセヌダツタカラ、

○裁判長 ソレハ宜シイ、

○被告錦織剛清 モウ一應願ヒマス、本件誣告ノ第一ニ主トナルモノハ詰マリ謀殺事件デアリマス、先般來辯護士トモ面會ノ上、種々御相談ニハナリマシタガ彼ノ誣告ナルモノ、主トナルヘキモノハ所謂謀殺事件デアリマス、其謀殺事件ノ豫審中ニ御取調ニナツタ全部ノ書類ヲ寫取ルト云フモノカ、或ハ朗讀ト云フモノカラ御許可ヲ願ヒマス、其所以タルヤ……、

○裁判長 チヨット待ツテ……、其書類ハ檢察官ノ方カラ七日ノ日ニ所屬書類必要ト……本件ノ審理上必要ト認メラレ、附屬書類トシテ差廻スト云フコトデ七日ノ日ニ全部此方ニ廻ツテ居ル、

○被告錦織剛清 左様デスカ有難フゴザリマス、就キマシテハソレヲ自分ノミ

ナラズ各被告諸君ノ辯護士諸君ニモ、寫取リト云フモノカ但シハ御朗讀ヲ仰キタイ考ヘデアリマス、

○檢察官 只今錦織剛清カラニタ廉ノ申請カゴザリマシタ、成程第一点ノ辯護士ノ件ニ就テハ被告人ハ甚タ氣ノ毒ノヤウニ考ヘル、又辯護人モソレニ附ケテ自分ガ辯護ヲシタイト云フモノデアルカラ、辯護ヲシタイノハ十分ノ精神デアテウト考ヘラレマス、併ナカラ選舉地ニ行クト云フコトニ就テハ辯護人ノ他ノ用ニ過ギヌコトデ、本件ニハ別ニ關係ガナイト思ヒマス、シテ見ルト云フト必ズシモ大岡デナケレバ、ドウシテモナラナイコトデモナイト考ヘマスカラ、此件ノ申請ハ御許シナキヤウニ願ヒマス、又第二ノ謀殺事件ノ書類ニ就キマシテハ、本官ヨリ或ハ朗讀ヲ請求スルト云フコトモアリ、裁判長ノ方デモ朗讀ヲ命セラル、カモ知レマセヌカラ、是レハ寫取リト云フヨリハ朗讀ヲシタ方カ宜カラウト考ヘル、

○被告人(錦織剛清) 檢察官ノ御意見ニ就テ今一應述ヘマス、御朗讀ヲ仰キマスルハトチラデモ宜シイヤウナモノデアリマスガ、成ルベク寫取リヲ請求致シタネト云フモノハ、自分ガ岡田豫審判事ノ御調べヲ受ケマスル際ニ、既ニ岡田晴橋ハ此誣告事件ヲ十分ニ取調べテ居ラヌト認メル、所謂其方ヲ取調べル如ク

嚴重ニシテ取調ヘタリナラバ、本職ハ恐クハ謀殺ノ證據ヲ發覺シタカモ知ラナ  
イガ、併ナカラ本件ノ如ク嚴重ニ取調ヲナサヌデ誠ニ後慢ニ過ギザル取調ヲナ  
シテアルト云フコトヲ、豫審廷ニ於テ岡田豫審判事ガ明言サレタコトガアル、  
是ハ各被告諸君ノタメニモ非常ニ利益ニナリマスカラ、自分ハ各辯護士ニ寫取  
ヲ御許可アラシメテ願ヒマス、

○高橋辯護士 謀殺事件ノ書類ニ就テハ只今錦織ヨリ請求ガアリマシタ、裁判  
長ノ御達ニ依リマスレハ本月七日ニ附屬書類トシテ悉皆廻ツタト云フコトアリ  
マス、檢事ノ御意見ハ朗讀ト云フコトゴザリマスガ、御審理ノ都合デ臆寫ヲ願  
ヒマスル餘暇位ハ出ヤウト存ジマス、併ナガラ今日以後萬一引續イテ御開廷ニ  
ナリマシテ臆寫ヲスル餘暇ガゴザリマセヌケレハ、止ヲ得ス朗讀ヲ願ツテ速記  
者ニ速記ヲサセルコトニ願ツテモ宜シウゴザリマスガ、御審理ノ都合デ成ルベ  
クハ臆寫シ得タル、丈ケノ餘暇ヲ御與ヘテ願ヒタイト考ヘマス、

○裁判長 ソレデハ先ツ報告事件ノ檢察官ノ陳述ダケヲ先キニシテ其陳述ノア  
ツタ後ニ只今ノコトヲ決定シヤウト思フ、

○檢察官 是ヨリ事實ノ申立ヲ致シマス、本件ハ豫審ノ決定書ニ依テ公訴ヲ求

我起ス錦  
織剛清傳

メタ譯デアリマスカラ、豫審決定書ノ事實ニ依テ大要ノミヲ陳述シヤウト思ヒ  
マス、錦織剛清、山口淳、後藤新平、岡野寛、山田重兵衛、小山とさノ誣告被  
告事件デアリマス、山口淳ハ此外ニ官吏收賄詐欺取財ノ二項ガアリマス、渡邊  
直賢ハ官吏收賄、帆足清萃ハ詐欺取財ノ件デアリマス、被告錦織剛清ハ幼年ノ  
頃ヨリシテ府下ニ遊學致シマシテ、中頃歸郷シ、又再ヒ出京シタモノデアリマ  
ス、然ルニ錦織剛清ノ舊主君タル從四位子爵相馬誠胤ハ、明治十年六月頃ヨリ  
シテ瘋癲病ニ罹リ、イロ／＼ノ治療方法ヲ施シタレトモ、毫モ其効カナクシテ、  
益々病勢ガ募ツテ參ツタ、ソレデ當時相馬家ニ合扶ノ職ヲ勤メテ居ツタ志賀直  
道、青田剛三ガ大ニ之ヲ憂ヒマシテ、相馬家ノ總親族ハ勿論、誠胤ノ父充胤ノ承  
諾ヲ得マシテ、明治十二年六月頃ニ宮内省華族部長局ノ許可ヲ得スシテ、同六  
月十四日カラシテ誠胤ヲ相馬邸ノ一室ニ柵ヲ設ケテ閉居セシメ、又明治十七年  
頃ヨリ或ハ東京瘋癲病院、或ハ東京府立癲狂院、或ハ帝國大學第一醫院、又其  
間ニ於テハ相馬邸ノ一室ニ看病人ヲ附ケマシテ、其自由ヲ拘束シテ置イタノデ  
アリマス、被告剛清ハ東京府下ニ流寓シテ居ル間ニ、右ノ相馬家ガ誠胤ニ對ス  
ル處置ヲ見マシテ、是ハ相馬家ノ合扶等カ共謀シテ相馬家ノ財産ヲ左右シ、又誠



狂ヲ疑フ  
ノ人ヲ以テ  
セラル
  
第一訟敗  
第二訟敗
  
 胤ノ相馬家ノ家政ニ關係スルヲ防クノ一ノ方法デアツテ、其實ハ相馬誠胤ハ病人デハナイ、病人デナイモノヲ明治十二年以來一室ニ置キ、或ハ病院ニ置クト云フコトハ即チ擅ニ監禁シタル事柄デアルト云フコトヲ考ヘマシテ、明治十六年ノ暮ヨリシテ或ハ相馬家ニ參リマシテ誠胤ニ面會ヲ求メ、或ハ病院ニ至ツテ面會ヲ求メ、或ハ醫師ヲ引連レテ病院ニ行クトカニ云フヤウナ種々ノ方法ヲ以テ、誠胤ノ監禁ヲ解カント考ヘタ、然ルニ相馬家ニ於キマシテハ一モ剛清ノ請ヒヲ容レナイ、却テ警察官ニ訴ヘルト云フヤウナガアツテ、到底剛清ノ目的ヲ達スルト云フコトガ出來ナイ、ソコデ被告剛清ハ明治十六年ノ十二月ニ、即チ相馬家人家令家扶志賀直造青田綱三富田深造等ニ對シテ、相馬誠胤ヲ擅ニ監禁鎖錮スルモノデアルト云フノ趣意ヲ以テ、私擅監禁告發ヲ東京輕罪裁判所ニ提起シタモノデアリマス、然ル所右ノ告發ハ擅ニ監禁シタモノデナイト云フ檢事ノ意見ニ依テ棄却サレタ、ソコデ剛清ハ間モナク警視廳ニ向ツテ又同一ノ告發ヲ起シタ、是モ採用ニナラナカツタ、ソレカラシテ種々ノ事柄ヲ爲シテ、相馬家ニ對スルコトヲ研究シテ居マシタケレドモ、終ニ良イ工夫ガ出ナイ、ソコデ明治十七年ニ至リマシテ丁度相馬誠胤ガ、マダ東京瘋癲院ニ在ツタ時ニ、誠胤ノ委任

法ヲ私書ニ  
テ私書ニ  
僞造スル  
ト謂フベ  
キカ  
第三訟敗  
ラシテ刑セ
  
再ヒ法  
犯ス自ラ  
以テ忠ト  
爲スカ
  
 狀ヲ僞造シマシテ、同年七月ニ矢張相馬家ノ令扶青田綱三、志賀直道等ニ對シマシテ、私擅監禁ノ告訴狀ト云フモノヲ東京輕罪裁判所ニ提出ラシタノデアアル、然ル所審理ノ末其告訴ハ棄却ニナツタノミナラス、却テ被告剛清ハ私書僞造ノ所爲アルモノトシテ拘留ノ身トナリ、審理ノ末明治十九年三月八日東京輕罪裁判所ニ於キマシテ、重禁錮一月罰金二十圓監視六ヶ月ニ處セラレタノデアリマス、斯ノ如ク被告剛清ハ是等ノ刑罰ヲ受クルニ至ツタケレバ、尙ホ最初ノ考ヲ失ハスシテ相馬家ヲ攻撃スルノ念慮ト云フモノハ却テ一層強クナツタ、ケレバ外ニ良策ガナイモノダカラシテ、彼レ私ニ謂ヘラク誠胤ヲ奪ヒ取ツテ自分ガ給養シテ見ヤウト考ヘテ、明治廿年ノ一月、其時ハ丁度誠胤ガ東京府立癲狂院ニ在ツタ時デアリマス、ソレデ一月二十日ニ或ルニ三ノ同志ヲ語ラヒマシテ、東京府立癲狂院ニ夜中侵入シテ私ニ誠胤ヲ誘出シ、誘出シテ同夜被告後藤新平方ニ連レテ參リマシテ、同所ニ於テ相馬誠胤ノ錦織剛清ニ對スル總理代人ノ委任狀ト云フモノヲ署名捺印セシメテ、翌日誠胤ト共ニ熱海ニ參ツタ、熱海ニ參リマシテ五六日滯留シテ居マスト、丁度相馬家ヨリ誠胤ガ熱海ニ居ルト云フコトヲ嗅ギ附ケテ追手ヲ向ケタト云フコトガ剛清ノ方ニ報知ガアツタ、ソコデ剛清ハ

再日利セ

大獄ノ發

誠胤ヲ連レタ儘静岡ノ方へ参リマシテ、静岡ニ於テ豫テ相馬家カラノ通知ニ依  
テ警察官ノ捕押ヘル所トナツテ、誠胤ハ其儘取戻サレ、被告剛清ハ又拘留サレ  
マシテ、同年ノ三月十一日ニ東京輕罪裁判所デ重禁錮二月ニ處セラレタ、斯ノ  
如ク被告剛清ハ相馬家ニ對スル運動ノタメニ、殆ト二回モ處刑ヲ受ケタ、併ナ  
カラ相馬家ニ對スル考ハ——即チ運動ハ少シモ止ミマセズ、却テ曩キニ後藤新  
平宅ニテ得マシタル總理代人ノ委任狀ヲ持チマシテ、相馬家ノ令扶及ヒ相馬順  
胤等ニ對シマシテ屢々民事ノ訴訟ヲ起シテ、殆ト十數回ニ及ンテ居マス、又一  
面ニハ相馬家カラシテ訴ヘラレタコトモ數回ニ及ンデ居リマス、斯ノ如ク相馬家  
ト剛清トノ交渉ト云フコトハ非常ナモノニナツテ、漸ク紛擾ノ度ヲ高メテ來マシ  
タ、然ルニ明治廿五年一月頃ニ至リマシテ、被告剛清ヨリ相馬順胤ニ對シテ起  
シタル假處分當否口答辯論申請ノ訴訟事件ガゴザリマシテ、ソレガ起訴トナツ  
テ控訴院ニ訴訟ガアル間ニ、明治廿五年二月十九日東京控訴院民事第四部ヨリ  
シテ本人相馬誠胤ヲ取調ルノ必要アリトシテ、誠胤ニ同年三月三日午後一時ニ  
出廷スベキ召喚狀ヲ發シタ、所カ同召喚狀ハ二月廿日ノ午後ニ相馬家ニ着シタ、  
然ルニ誠胤ハ二月十九日ヨリシテ突然糖尿病ヲ發シマシテ、治療ノ末終ニ養生

君ナシテ  
訟廷ニ立  
タシメン  
トス忠臣  
ト謂フベ  
キカ  
之ヲモ  
アベク  
カ何レ  
カ怒ア  
ンカ  
ラザラ

ガ叶ハスシテ同年二月二十二日ノ午前六時ニ死去シタ、ソコデ被告剛清ニ於キ  
マシテハ自己ガ相馬家ニ對スル訴訟ニ依テ誠胤ヲ喚出ス必キヲ見タカラシテ、  
控訴院ニ召喚ヲ乞フタ所ガ、病ヲ發シテ誠胤ハ死シタ、其死シタト云フモノハ或  
ハ相馬家ノ令扶等ガ誠胤ノ出廷ニ先チテ、之ヲ謀殺シタノデハナカラウカ、即  
チ毒藥ヲ以テ殺シタノデハアルマイカト云フ疑ヲ持ツテ居ツタ、ソコデ其死因  
ヲ確ムル所ノ必要ガアル所カラシテ、詰リ所轄警察署ハ勿論警視廳裁判所等ニ  
向テ誠胤ノ死体解剖ノ願ヲ出シマシタ、又一面ニ向ツテハ誠胤ノ死因ニ就テ疑  
カアルト云フ所カラシテ、麴町區裁判所ニ向ツテ誠胤ノ葬儀差止ヲ申請シタノ  
デアアル、然ルニ解剖願ノコトハ、當時誠胤ノ死ハ病死ナリト云フノデ解剖ノ必  
要ナシト云フコトニ相成リ、所轄警察署ハ勿論裁判所ハ其申請ヲ却下シタノデ  
アル、從テ剛清ガ申請シタル葬儀差止メノ申請モ亦剛清ノ敗訴ニ至ツタ、斯ノ  
如ク誠胤ノ死ニ就テ疑ヲ持ツテ居マシタケレトモ、詰リソレヲ如何ニモスルコ  
トガ出來ナイ、出來ナイカラ其念慮ヲ止メマシテ他日證據デモ現ハレタトキニ  
ハ、之ヲ告發シヤウト云フ考ヘヲ持ツテ居ツタ、然ルニ相馬家ニ於キマシテハ  
誠胤ノ死後一子秀胤ガアルニモ拘ラス、順胤ヲ相續人トシテ相馬家ヲ相續セシ

メタ、ソコデ被告剛清ニ於キマシテハ、誠胤ノ子ガアル以上ハ誠胤ノ子即チ秀胤ガ相續スルノガ當然デアアル、然ルニ順胤ヲ相續セシメタルハ矢張令扶等ガ陰謀ノ結果デナイカ知ラヌト云フ疑念ヲ起シマシテ、ドウシテモ秀胤ヲ立テナケレバナラヌ、甚ダ相馬家ノ處置ハ不當デアアルト云フノ考ヲ起シマシタ、ソコデ其當時以來ノ目的ト云フモノハ、豫審決定書ニモアル通りノ譯デアツテ、ドウカ證據ヲ集メテ誠胤ノ謀殺ノ告發ヲ致シ、秀胤ヲ以テ相馬家ノ相續人ト致スノ考デアツタノデアアル、

是ヨリズツト以前ニ於キマシテ被告剛清ハ明治二十四年ノ十一月ニ、即チ先刻述べタ所ノ相馬誠胤ノ總理代人ノ委任狀ヲ偽造シタモノト認メラレテ、被告剛清ハ豫審ニ付セラレタコトガアル、然ルニ當時豫審ノ掛リ判事ハ被告山口淳デアツタ、剛清ハ山口淳ノ取調ヲ受ケマシテ間モナク免訴放免ト相成ツタ、當時被告剛清ハ右ノ豫審決定書ヲ以テ誠ニ公明ノ決定デアルト云フ考ヲ起シマシテ即チ免訴放免ノ後其謝辞ヲ述ベルタメ被告山口淳ヲ訪問シタコトガアル、ソコデ剛清ハ山口淳ニ面會ノ上右ノ免訴放免ノ謝辞ヲ述ベマシテ、種々ノ話シヲ爲シタル末、山口ガ相馬邸ニ右ノ被告事件ノタメニ相馬誠胤ヲ取調ヘタコトガアル

ル、其取調ヘタ所ノ有様ヲ聞キ、尙ホ相馬家ニ對スル自分ノ意見ヲ述ベマシテ、剛清ハ山口淳ニ向ヒマシテ、何方ガ正當デアアルカト云フノ判斷ヲ乞フタ、然ルニ被告山口淳ハ剛清ノ意見ヲ賛成シマシテ、ソレハ如何ニモサウデアルト云フノ答ヲ得タ、ソコデ剛清ハ非常ニ喜ヒマシテ、何卒意見ガ正當デアアルナラバ助カラシテ貰ヒタイ、將來ニ於テモドウカ助ケテ呉レト云フコトヲ乞フタ、然ルニ山口淳ハ何處マデモ盡力スルデアラウト云フ所カラ、被告剛清ハ非常ニ喜ビマシテ尙ホ將來ニ於テ山口淳ノ助力ヲ得ルタメニ、特ニ山口ニ向ヒマシテ今般貴下ガ免訴決定ノ裁判ヲサレタノハ、自分ガ深く感銘スル所デアアル、ソコデ他日私ハ元來東久世通禮ニハ懇親デアアルカラ、公明正大ト云フ額ヲ書イテ貰ツテ獻上シヤウト約束シテ、其ノ日ハ山口方ヲ去リマシタ、右ノ如ク被告剛清ハ圖ラズモ被告淳ガ自分ノ意ニ賛成シテ、將來ニ向ツテ助ケテヤラウト云フノ約束ヲ得タモノダカラ、尙ホ相馬家ニ對シテ種々ノ運動ヲナサント考ヘテ居ル際ニ當ツテ、丁度前ニ述べタ通り相馬誠胤ハ二月ノ二十二日ニ死亡シテ仕舞ツタ、死亡シテ仕舞ツタ折柄ニ謀殺ノ告發又ハ秀胤ヲ相續セシメタイト云フ考ガアリマシタモノデアアルカラ、一層山口淳ヲシテ助力セシムルノ必要ヲ感ジマシタ、ソ



當時宮内大書記官ヲシテ居ツタ、櫻井純造ト云フモノカラシテ、被告剛清ハ相馬誠胤ノタメニ頗ル忠義ヲ盡シテ居ルガ、ドウカ盡力シテヤツテハ呉レマイカ下云フ頼ミモアリマシタノデ、ソレカラシテ新平ニ於キマシテハ幾分カ身分アル人ノ言フタ話デアルカラ、ソレカラシテ、被告新平ハ、戸塚文海其他ノ者ニ就テ種々研究ヲシテ見タ所ガ、剛清ノ言フ所モ信用サレル点ガアル、ヤウニ爲ツテ來タ、ソコデ同人ハ以來ハ裁判醫學上ノ研究トシテ、右ノ相馬事件ヲ大ニ研究ヲシテ居ツテ、且ツ剛清ノ運動ヲ助ケテ居ツタ、然ル所被告後藤新平ハ明治二十三年ニ至リマス、官ヨリ外國へ派遣ヲサシテ獨逸國へ出發ヲシタ、ソレガタメニ、剛清ト新平トノ間ハ一時中絶ニナツテ其後ハ殆ンド書面ノ往復モ無イヤウナ有様デアアル、然ルニ被告新平ハ明治二十五年ノ六月ニ至ツテ獨逸國ヨリ歸朝ヲシタ、歸朝シタニ依ツテ、被告剛清ニ於テハ、尙ホ相馬家ニ對スル運動ヲナスニハ被告新平ヲモ加ヘルノ必要ヲ感ジタ、ソコデ同年ノ八月頃カラ屢々新平方ヲ訪ヒマシタ、丁度新平ガ外國滯留中ニ於テ自分ガ相馬家ニ對シテ、相馬家財産假處分ノ民事訴訟ヲ提起シタトカ、或ハ剛清ノ被告事件トカ、誠胤ノ死去ニ於テ葬儀差止トカ、或ハ解剖願ヲシタトカ云フコトヲ細大漏サズ詳カニ新平ニ

餅屋ハ餅  
屋流石  
ハハ  
者

告ゲマシタ尙ホ誠胤ノ死亡ニ就テハ謀殺ノ疑ガアル、就テハ證據ヲ得テ告發ヲスルト云フノ考デアルカラ、ドウカ助力シテ呉レト云フノデアツタ、併ナガラ新平ニ於キマシテハ、剛清ノ言フコトヲ信用セスシテ、謀殺ト言ツテモ今日ハ昔トハ違ウカラ、ソナコトガアツタトシテモ、其證據ガ容易ニ上ルモノデハナイカラ、ソナナ詰ラナイコトハシナイ方カ宜カラウト言フテ剛清ヲ諭シタ、ソレデ剛清ニ於キマシテハ誠胤ノ死後順胤ヲ立テタノハ甚ダ不都合デアルト言フタレバ、被告新平ニ於キマシテハ説諭ヲシタガ、剛清ニ於キマシテハ少シモ其説ニ服サルノミナラズ、却テ憂愁憤慨ノ言ヲ以テ新平ニ説キ込シタ、尙ホ新平ノ心ヲ動かスタメニ、當時警察醫長ノ山根正次ガ誠胤ノ死後相馬家ニ臨檢シテ檢分ヲスル際ニ、誠胤ノ屍体ノ鼻口カラシテ出タ所ノ血液ガアルカラ、右ノ血液ヲ分析シテ見タ所ガ、幾分カ疑フベキ所ガアルカラ、當時解剖ノコトヲ主張シタケレバ或ル事情ニ依ツテ差止メラレタ、是モ謀殺ノ疑ノ證據デアルト云フヤウナコトヲ申シマシテ、新平ノ意ヲ漸ク動かシマシタ、依テ新平ハ山根ニ面會シテ聞イタ所ガ、其通リデアルト云フ所カラ錦織ノ言葉ハ虚デナイト云フヤウナコトヲ頭ニ持ツテ來マシタ、然ルニ被告新平ニ於キマシテハ、右ノ山根正

次ノ話シ位テハ逆モ謀殺事件ノ告訴ヲ起スコトハ穩當デナイ、ソレデアルカラ  
 シテ寧ロ謀殺ノ告訴ヲ起スヨリ秀胤ヲ相續セシムルガ必要デアラウソレヲ先キ  
 ニシテヤツタナラバドウデアラウト云フ意見デアリマスカラ、被告剛清ニ於キ  
 マシテモ、此意見ニ同意ヲシマシテ、秀胤誘出ノ計畫ニ至リマシタ、ソレテ一面  
 ニハ山口淳ニ向ツテ、其事ヲ内通シテ置イテ、ソレカラシテ被告剛清ハ明治二十  
 六年ノ一月以來、専ラ此事即チ秀胤ヲシテ相馬家ヲ相續セシムルコトニ就テノ  
 運動ニ從事シテ居マス、然ルニ右着手ニ就キマシテ、被告後藤新平ハ秀胤ヲシテ  
 相馬家ヲ相續セシムルハ、先ツ秀胤ヲ相馬邸ヨリ誘出シテ他ノ場所ニ隠匿ヲシ  
 テ置イテ、是ニ教育スル間ニ、即チ秀胤ニ向ツテ御前ノ父ノ誠胤ハ病死シタノデ  
 ハナイ、實ハ合扶ノタメニ毒殺サレタモノデアルト云フコトノ言語ヲ以テ、誠胤  
 ガ毒殺サレタト云フ復讐ノ感ヲ腦隨ニ染ミ込マシテ、然ル後ニ相續ノ争ヒヲ  
 ナシタナレハ必ズ目的ヲ達スルデアロウト云フヤウナ意見デアリマシタ、ソコ  
 デ被告剛清ハ右ノ新平ノ意見ニ賛成ヲシマシタ、當時新平カ嘗テ名古屋ノ愛知  
 病院ニ在リマシタトキニ其配下ニ引用シテ、特ニ恩顧ヲ加ヘタル菅野虎太ト云  
 フモノガ大阪ニ滞在シテ居ル其者ニ向ツテ、新平ヨリ書面ヲ發シタ、其書面ノ

趣キハ今度秀胤ヲ誘出シテ隠サウト思フ、就テハお前別ノ方デ養育ヲシテ呉レ  
 ルコトハ出來マイカト云フノ趣意デアル、然ル所菅野虎太ノ方カラハ、承知シ  
 タ同意ヲスルト云フノ返事ガ來タ、來タノミナラズ特ニ秀胤ヲ受取ラシムルタ  
 メニ妻ヲシテ東京ニ上京サセタ、依テ新平剛清ニ於テハ屈強ノ車夫數名ヲ雇ツ  
 テ相馬邸ノ近傍ヲ日々徘徊サセテ、而シテ秀胤ガ外出ノ時機ニ乗ジテ之ヲ奪取  
 ツテ、サウシテ大阪ノ方ニ送ラウトシタ、所ガ相馬家ノ警戒ガ嚴重ナルタメニ  
 終ニ行ハスシテ虎太ノ妻ヲ一時大坂ニ歸シタ、歸シテ靜ニ時機ヲ窺ツテヤツタ  
 方ガ宜イト云フノデ車夫ナドノ雇モ解イタト云フヤウナ有様デアアル、即チ誘出  
 ノコトハ相馬家ノ警戒ガ嚴重ナルタメニ靜カニヤルト云フコトデアツタ、其後同  
 年六月中旬ニ被告剛清ハ日本橋區室町三丁目一番地ノ鰻屋デ丸木事山中さの下  
 云フモノ、家デ、被告淳ト會合ヲシタ、其席ニ於テ被告剛清ハ淳ニ向テ曩ニ新  
 平ト計畫シタ秀胤誘出ニ就テノ手續ヲ一々話シマシタ、且ツ言フノニ曩ニ謀  
 殺事件ノ告發狀ヲ提出スルコトヲ話シテ置イタガ、證據ガナイカラシテ訴ヘタ  
 所ガ直グ…………ソレデ謀殺ノ件ニ就テハ遺ラナイトニシタ、就テハ秀胤ヲ奪ヒ  
 受リ…………秀胤ノミナラズ東明しけマデ奪ヒ取ツテ、米國公使ニ託シテ養フ積



タカラ、剛清ハ其後山口淳ノ許ニ至ツテ、ソレカラ裁判所ノ實況ヲ尋テ所ガ、  
 マタ自訴狀ハ見ナイト云フコトデアツタ、ソコデ尙ホ被告淳ヲ丸木ニ呼寄セマ  
 シテ、自訴狀提出後ノ模様ヲ尋テ所ガ、最早謀殺ノ告發ヲシテモ差支ハナカ  
 ラウト云フ淳ノ意見デアツタ、ソコデ愈ヨ告發ヲ提起スルニ就テ相談ノ必要ガ  
 アルカラ、同年ノ七月八九日頃ニ被告剛清ハ被告新平ノ麻布ノ宅ヲ尋テ、同所  
 ニ於キマシテ新平ト淳ハ初對面テアリマスカラ自分等ガ互ニ關係シタ事柄ヲ話  
 シテ、其話ガ段口ト進ミマシテ是迄新平ガ剛清ノコトデ盡シタルコトノ手續ヲ  
 話シ、尙ホ自訴狀ノコトニ及ンダ所ガ、被告新平ハ剛清ニ向ツテ、斯様ナ賄賂  
 ノ事柄ヲ澤山ニ書クナラバ、自分ニ一應見セテ呉レ、バ宜シイ、是ハ甚ダ輕卒  
 デアツタ、ドウモ此人ハ輕卒デアルカラ困マル……ソレカラ自訴狀ハ果シテ  
 法律上ノ制裁ヲ受クベキモノデアルヤ否ヤ、無論無名テアルカラ自訴ノ効ハナ  
 イ、併ナカラ裁判所ハ無論搜索スルテアラウト云フノテ、ソレカラシテ種々ノ  
 相談ヲシマシテ、愈ヨ謀殺ノ告發ヲ起スト云フコトニ極マツテ、同夜ハ殆トキ  
 一時頃ニ散會ヲシタ有様デアアル、右ノ如ク愈ヨ被告剛清等ニ於キマシテハ、謀  
 殺ノ告發狀ヲ提起スル、提起スルニ就テハ代理人ヲ擇フガ必要デアアル、ソコテ

輕卒  
 而シテ未  
 大悉サテ  
 所アリ

迷感チカ  
 ケルト云  
 フテ事ナ  
 トスル者  
 ハアラザ  
 ルナリ

イロ／＼考ヘテ見タガ自分等ノ希望ニ相當シタ代理人ガナイカラ、豫テ知合デ  
 アル所ノ被告辯護士岡野寛ニ右ノ趣ヲ話シテ、ドウカ告發代理人トナツテ呉レ  
 ト云フノ相談ヲシタ、ソコデ岡野寛ニ於テハドウモ自分一人テハ困マル、何人  
 カ外ノ人ヲ入レテ呉レ、ソレカラ又自分ハ此件ニ就テハ擔當ハ出來ナイ、外ノ  
 人テナケレバ困ルト云フテ再三再四辭シタガ、剛清ノ言フノニ、お前ニ決シテ  
 迷惑ハ掛ケナイカラドウカ頼ム、尙ホ警視廳ニハ血液ガ保存シテアツテ、之ヲ  
 分析シタナラバ直チニ其毒殺タルコトガ分ルカラ、ドウカ頼ム、ト云フノテ終  
 ニ岡野寛ニ承諾ヲサセマシタ、ソレカラ剛清ガ自ら携ヘテ來タ自訴狀ナルモノ  
 ニ依ツテ、謀殺告發狀ヲ起草シタノデアアル、ソコデ岡野寛、錦織剛清ハ即チ本人  
 代人ト連署シテ、明治二十六年七月十七日ニ東京地方裁判所檢事局ニ、相馬順  
 胤外七名ニ對シテ謀殺ノ告發狀ヲ提起シタノデアリマス、告發狀ハ本官ニ於テ  
 朗讀スル筈デアリマスガ書記ニ朗讀ヲサセマス、(書記朗讀ス別項相馬謀殺事件  
 ノ項參觀)

○檢察官 即チ此謀殺ノ告發狀ニ自訴狀ヲ參考トシテ提出シタノデアリマス、  
 然ルニ右ノ謀殺告發狀ハ同月十八日ヲ以テ東京地方裁判所檢事ニ於テ、之ヲ棄



却シタノデアル、所ガ矢張被告剛清岡野寛ニ於キマシテハ、兩名署名捺印シテ、同月二十日ニ東京控訴院ノ檢事長ニ向ツテ右同一ノ告發狀ヲ差出シタ、其告發狀ノ前ト違フ所ハ、地方裁判所ノ檢事正ガ棄却シタノヲ告發狀ニ陳述書ヲ加ヘタノデアツテ、參考トシテ自由新聞ヲ添ヘテ差出シタ、控訴院檢事長ニ於キマシテハ是ハ即チ起訴スベキモノデアルト云フノニ依ツテ、同月二十二日ヲ以テ東京地方裁判所ノ檢事ニ命令ヲ下シ、是ハ起訴シテ相當ノ處分ヲ爲スベキモノデアルト云フノデアアル、ソレ故ニ東京地方裁判所ノ檢事ニ於キマシテハ、同月二十四日ヲ以テ起訴ノ手續ニ及ビ豫審ヲ求メタノデアアル、所ガ丁度當時ハ暑中休暇ニ當リマシテ、豫審判事ニ於テハ大半ノ人ハ休暇ヲシテ居ル、然ルニ被告山口淳ハ丁度出勤ノ番ニ當ツテ居ツテ、當時出勤ヲシテ日々事務ヲ取扱ツテ居ツタ、ソコデ右ノ謀殺告發事件ハ山口淳ガ擔當スベキ順席デアツタ、然ル所山口淳ニ於キマシテハ、前ニ述ベル通り既ニ錦織剛清等ト共謀シテ、殆ト謀殺ノ告發ヲ提起スルニ就テ發頭人ト云ハル、位ノモノデアアルカラ、自ラ其取調ヲ擔當シタナラバ、或ハ自分ノ隠謀ガ露顯シハセスカ、又一面ニ於キマシテハ自分ノ注意ニ依ツテ、告發狀ヲ出シタコトデアアルカラ將來ニ於テ露ハル、コトガア

ルカモ知レナイ、又ソレニ自分ガ自ラ關係シテ居ツテハ、種々ノ事柄カラシテ自分ノ利益ヲ營ムコトガ出來ナイト云フ考ガ起ツタカラ、終ニ自分ハ病氣ノタメ轉地療養ヲシナケレバナラヌ、又嘗テ私書偽造ノ被告事件ニ就テ、錦織ヲ取調ベタコトガアルト云フ二廉ヲ持チマシテ、淳ハ擔當ヲ辭シタノデアアル、辭シタケレドモ此事件ヲ他ノ人ニ擔當サセテハ、其取調ニ干渉ヲシテ其間ニ利益ヲ營ミ、又ハ剛清等ト相談スルコトガ出來ナイ、ソコデ豫テヨリ親密ニ交際シテ居ル所ノ岡田晴橋ニ向ツテ、此事件ヲ擔當センコトヲ相談シタ、丁度岡田ハ、いんふるゑんざニ罹リマシテ役所ヲ引イテ居ツタ、引イテ居ツタ所ヘ能々淳ハ出掛ケテ來テ、是非此事件ヲ擔當シテ呉レト云フコトヲ迫ツタ、ソコデ岡田晴橋ハ終ニ當事件ノ擔當人トナツタ、ソコデ山口淳ハ岡田カ此事件ヲ擔當スルコトニ相成ツタカラ、自分ハ暫ク經ツテ鹽原ノ温泉ニ轉地療養ニ行キ、終ニ此謀殺事件ハ同月二十六日ヨリ岡田晴橋カ擔當スベキ豫審事件ト相成ツタ、既ニ謀殺事件ハ起訴ト相成ツタモノデアアルカラ、山口淳ハ裁判所ニ居テ被告等ト通謀シテ居ル故ニ、書面ナドノ往復ハ極メテ秘密ニシナケレバナラズ、又偽名ヲ以テシナケレバナラヌコトニ取極メテ置イタ、ソコデ丁度八月ノ二十日頃ニ相成リ

マシテ、剛清カラシテ偽名ノ書面ヲ以テ、日本橋區室町ノ鰻屋丸木方ニ呼寄セ  
 タ、同所ニ於テ淳ハ豫審担当ノコトニ就テハ、岡田晴橋ニ自分ガ命シラ擔任セ  
 シメタコト、並ニ岡田晴橋ハ自分ガ懇意デアルカラシテ、巧ミニ補助ノ名儀ヲ以  
 テ干涉シテ居ル、ソコデ本件ノ事實ニ就テハ細大トナク知り得ル譯デアルカラ、  
 裁判所ノ内部ノコトハ悉ク通知シテヤラウ、併ガラ屢々面會ヲシテハイケナイ、  
 本件ノタメニハ故ラニ避ケテ、大事ノ起ツタトキデオケレバ面會ハスマイト云  
 フコトニ定メタ、其後豫審ニ於テハ、殆ト夜ヲ日ニ繼クト云フ有様デ着々進行  
 シテ居ル、ソコデ被告淳ハ本件ニ就テ何カ事柄ガアリサヘスレバ、必ズ被告剛  
 清ニ通知ヲスルト云フ有様デアツタ、ソコデ被告剛清ハ山口淳ノ内通ニ依リマ  
 シテ、殆ト日々ノ如クニ豫審判事ニ上申ヲシテ居ル、又自分自ラ出ナイトキニ  
 ハ岡野代人ヲシテ、種々謀殺事件ノ事柄ヲ上申セシメ、或時ハ書面マテモ出シ  
 テ申立テタコトガアル、斯ノ如ク剛清ハ自分自ラ上申ヲシ、又代人ヲシテ屢々  
 上申ヲ爲サシメ、一面ニハ山口淳モ内部ニアツテ種々ノコトヲ爲シテ、此謀殺  
 事件ノドウカシテ成立スルヤウニ奔走ヲシタノデアアル、ケレドモ豫審ノ進行ス  
 ルニ從テ、段々ト謀殺ノ證據ガ上リマセヌ、上ラヌモノダカラシテ、斯ウ云フ

風ニナツテハ甚タ自分等ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイ、就テハ何カ檢事デモ  
 攻撃シナケレバナラヌト云フ譯デ、當時諸新聞ニ於テ續々出マシタ所ノ、相馬  
 家令扶等ガ工藤檢事正ニ面會ノ如キ、即チ淳ノ通知ニ依テ續々攻撃ヲシタノチ  
 アル、即チソレ等ノコトヲヤツテ見タガ、謀殺事件ノ證據ハ一ツモ上ツテ來ナ  
 イ、ソコデ剛清等ハ殆ト失望ノ極ニ達シタノデアアル、然ル後主任豫審判事岡田  
 晴橋ニ於キマシテハ、或日山口淳ニ向ツテ相談ヲシタコトガアル、ソレハ謀殺  
 ノ證據ト云フモノハ、本件ニ就テハ殆ト見ルベキモノガナイ、併大カラ相馬誠  
 胤ヲ監禁鎖錮シタト云フニ就テハ頗ル見ルベキモノガアル、就テハ謀殺事件ハ  
 免訴シテ、監禁事件ハ輕罪公判ニ移サウト云フ考デアルト云フコトヲ申シテ淳  
 ニ相談シタノデアアル、所ガ山口淳ニ於キマシテハ大ニ之ヲ賛成シタ、賛成スル  
 ト同時ニ被告剛清等ニ通ジマシテ、謀殺事件ニ就テハ證據ガナイ、證據ノナイ  
 モノヲ無理ニハ起セナイ……然ルニ剛清ニ於キマシテハ、既ニ謀殺デハ行カ  
 スト極メテ居ル有様デ非常ニ困ツテ居ル、ソレデアリマスカラ尙ホ新平ニ此事  
 ヲ告ケタ、新平ニ於キマシテハ監禁罪ヲ成立セシメヤウトスルニハ、人爲ノ瘋  
 癲則チ鎖錮スベカラサルモノヲ鎖錮シタナラバ、眞ノ瘋癲トナルカ否ヤ、又誠

胤ノ如キ不具ノ妻ヲ持ツテ居ルナラバ、瘋癲トナラウカ否ヤト云フコトヲ、其鑑定書ノ中ニ入レテ置クコトカ必要デアルト云フコトヲ山口ニ通知シテ、此事ヲ加ヘサセル考デアツタ、ソコデ十月ノ十五日ニ向島小梅ノ田の面ニ於テ剛清淳ト會シマシタトキニ、後藤新平カラシテ之ヲ山口淳ニ話シタ、尙ホ翌十六日ニ其鑑定書ニ記入スベキ事項ヲ書面ニ認メテ麻布生、又人ノ名前ヲ以テ山口淳ニ郵送ラシタノデアアル、

右ノ如ク被告人等ハ此監禁罪ヲ成立セシメタイ考テアツタガ、ソレハ認メナイト云フコトデアツテ、而シテ謀殺事件ノ如キモ無論證據ガナイモノトシテ、同年十月廿四日ヲ以テ終ニ免訴ト成相タ、ソコデ被告等ハ即チ証告ノ處爲アルモノトシテ告發サレタモノデアリマス、コレガ即チ本件ノ全体ニ就テノ事實デア

ル、是カラ被告岡野寛其他ノ被告人ニ就テ事實ノ陳述ヲ致シマス、岡野寛ハ辯護士デアリマス、被告剛清カ相馬順胤外七名ノ謀殺事件ノ告發書ヲ提起スルニ當ツテ、岡野寛ハ被告剛清ノ代理ヲ受ケマシテ代理人トナリ、被告錦織剛清ト署名捺印ヲシテ、明治廿六年七月十六日ニ東京地方裁判所ニ謀殺告發狀ヲ提起シ、其

後自ラ告發狀ノ成立ニ努メテ居ツタ、所ガ、二十六年ノ十月上旬ニ當ツテ、錦織剛清ヨリ彼ノ謀殺事件ノ基本トシテ書テアル所ノ自訴狀ハ、自分ガ拵ヘタモノデアアル、事實ヲ構造シテ拵ヘタモノデアルト云フマモ明ニシタ、然ルニ岡野寛ハ之ヲ承知シタノニモ拘ハラズ、當代理人タルヲ辭セズシテ之ヲ續ケマシテ、尙ホ剛清ガ計畫運動ヲ幫助シタモノデアリマス、

被告山田重兵衛ハ、刀劔ヲ商賣トスル所カラ、被告剛清ガ刀劔ノ鑑定ニ巧ミナル故ニ、商業上明治二十年ノ頃カラシテ剛清ト懇意ニナリマシタ、然ルニ剛清ガ鑑定ニ述ベマシタ通り、相馬ノ謀殺事件ガ起ツテヨリ以來剛清ノタノ諸方ヨリ郵送スル義捐金ヲ取次キ、又ハ剛清ノ依頼ニ依テ金ヲ貸ストカ、或ハ預カルトカ云フヤウナラシテ剛清ノ運動ヲ助ケテ居マシタ、然ルニ明治二十六年ノ十一月五日ニ至リ、剛清ハ突然重兵衛方ニ參リマシテ、自分ガ豫テ通謀シ居ル所ノ豫審判事山口淳ガ通り四丁目ノ島村ト云フ料理屋ニ待ツテ居ル、就テハ金ヲ三百圓同人ニ遣ラナケレバナラヌカラ、ドウカ三百圓持ツテ來テ呉レ、尙ホ山口淳ニハ將來ノ爲メニ面會ヲシテ置テ呉レ、面會ヲスルニ就テハ何か手土産ガ無クテハ困ルカラ、何か持ツテ來テ呉レト云フノデ、重兵衛ハ之ヲ承諾シテ、金

剛清な  
男、道程  
テ金ガ無

三百圓ト外ニ後藤光義作ノ目拔ヲ持テ參ツタ、丁度淳ガ待テ居ツテイロノ謀殺事件ノ話ガアツタ末ニ、三百圓ノ金ハ剛清ノ手ヲ經テ山口淳ニ渡シマシタ、ソレデ同所ニ於キマシテ剛清ト淳トノ謀殺事件ニ就テノ協議ガアツテ、尙ホ將來ニ於テハ山田重兵衛ヲ以テ……勿論重兵衛ト淳ハ初面談デアアル、ケレモ將來淳ト剛清ノ兩人間ノ金錢ヤ書面ノ取次ヲスルニ就テハ、淳ト重兵衛ノ間ヲ舊知巳ノ如ク装フテ置カナケレバナラヌ、從來ヨリ惡意デアツタ如ク装フト云フコトヲ其席ニ於テ約束ヲシ、尙ホ其通謀者トナツテ謀殺事件ハ全ク剛清ガ構造シテ出來タモノデアアルト云フ話ヲ聞キマシテ、其情ヲ知リナガラ重兵衛ハ金ノ取次ヲシ、或ハ手紙ノ取次ヲシ、或ハ兩人間ニ密使ノ役ヲ勤メテ、則チ本件ニ就テハ被告剛清ト淳トノ運動ヲ幫助シタモノデアリマス、ソレカラ被告小山トさハ剛清ノ妻デアリマシテ、嘗テ前ニ述ベル通り被告剛清ガ種々ノ運動ヲナシ居ルト云フコトヲ聞キマシテ、とさハ是レ則チ剛清ガ全ク忠義ノ志ヲ持ツテ主家ニ盡スデアラウト云フニ感シテ頭ニ持ツテ、剛清ニ金五百圓ヲ無名テ送ツタガアル、然ルニとさハ其後ニ至リマシテ、剛清ノ舉動ヲ慕フテ明治二十五年ノ九月頃ニ至リ自ラ請フテ剛清ノ妻トナツタ、其後ハ實家ノ

方カラ多額ノ運動費ヲ持ツテ來テ之ヲ助ケ、或ハ種々ノ事柄ニ就テ剛清ノ議ニ與リマシタ、丁度二十六年ノ七月中ニ彼ノ謀殺事件ノ告發狀ノ事實ヲ知リナガラ即チ剛清ガ構造シタモノデアアルト云フコトヲ知ツデ居ルニモ拘ハラズ、尙ホ剛清ノ處爲ヲ助ケテ其運動ヲ幫助シタモノデアアル、右ノ事實ハ即チ被告事件全体ニ就テノ事實デアリマスガ、是カラシテ山口淳ノ本件ニ對シテ爲シタル詐偽取財、及ビ官吏收賄ノ事實ヲ述ベヤウト思ヘマスガ、最早時刻……

○裁判長 ソレデハ一時休憩致シマス、

○被告人(後藤新平) 裁判長ニ御願致シマスコトガゴザリマス、是丈ケノ書類ヲ此處デ拜見スルコトハ中々難イコトデアリマスガ、勿論一々見マセンデモザツト拜見ヲシテモ參考ニナルコトデゴザリマス、私ハ耳ヲ病ンデ居ルコトハ豫テ申立テ、置キマシタガ、ソレヲ努メテ一方ニハ伺ヒ一方ニハ拜見スルト云フコトハ困難デアリマスカラ、ドウカ之ヲバ檻ニ御下渡ヲ願ツテ見ルト云フコトハ行キマホマイカ、私共ニ拜見ヲシテ宜シイノヲソレヲ許サスト云フハ何か上ニ御差支ガアルト云フノデアリマセウカ、

○裁判長 ソレハソウ云フ譯デモナイガ、マダ此方デ檢閲ヲシテ居ラヌカラ、今直グニ許スト云フ譯ニハ行カヌ、

○被告(後藤新平) ソレデハ寫シテ以テ檢閲ヲ願フコトニシタナラバ……………、

○裁判長 ソレハ一應評議ヲシテ……………、

○坂田辯護士 私ハ後藤新平ノ辯護人デアリマスガ、一言申上タイト思ヒマス、只今マデノ慣例ニ依リマス、随分一件書類ハ御下渡ニナツテ居ルヤウデアアル、勿論サウ云フコトハナイトシテモ敢テ實害ハナイト考ヘマスシ、舊來ソノ慣例上許シテアルコトデアリマスレバ、成ルベク不都合ノナイ限リハ御許ヲ願ヒマス、

○裁判長 元來被告人ガ請求シ得ルモノハ銘々請求スルコトガ出來ルカ、全体ニ關シテ居ルコトハ法律ノ明文ガナイヤウデアアル、ソレ故被告人ヨリ一應貸下ダラ請求シタガ其節許サスト云フコトニシテ置イダノデアアル、併シ此席デ見ルニハ別段差支ハナイト考ヘルガ、尙ホ只今ノ申立ニ就テハ何レ協議ノ上決定ヲ與ヘルデアラウ、

○飯田辯護士 當辯護人ノ考ヘハ法律ニ明文ノナイコトハ認メテ居マスガ、コレマデ無イコトデハナイ、慣例ニナツテ居ル——慣例ガアルヤウデアリマスカラ、ド

ウカ御差支ガナケレバ御許シテ願ヒタイ、別ニ害ガナイコトデモアラウトモ思ヒマスカラ……………、

○裁判長 宜シイ、此謀殺被告事件ノ全部ノ書類ガ廻ツテ居ルコトハ先刻モ違シテ置イタガ、尙檢察官ノ方カラ錦織剛清ガ變ニ相馬家ニ對シテ、或ハ葬儀執行ノ差止願ノ申請トカ、若クハ損害賠償、又ハ債權假差押ノ申請トカ、其他澤山ニ出テ居ル、是モ此方ニ廻ツテ居ル、私書偽造事件ノ書類ト云フヤウナモノモ廻ツテ居ルカラ、是ハ被告人並ニ辯護人ニ心得ノタメニ達シテ置ク、

○高橋辯護士 サウ云フモノ、寫取リヲ願ヒマス、

○被告人(錦織剛清) ドウカ御取寄ヲ願ヒマス、其中ニ山口ガ豫審判事奉職中私書偽造事件ヲ取調べマシタ、其節相馬誠胤ノ口供ガアル筈デアリマス、ソレハ本件ニ大ニ關係ガアルト思ヒマスカラ……………、

○裁判長 ソレハ此處ニアル、ソレカラ檢事山本辰六郎ガ以前相馬誠胤ヲ取調ヘテ調書モアル、

○被告(錦織剛清) ソレカラ控訴院ヘ東久世通禧ニ誠胤ノ監督ヲ請求致シマシタ請願書ガゴザリマス、是モ成ルベク御取寄ヲ願ヒマス、

○高橋辯護士 ソレハ既ニ辯護人ヨリ一通リ御取寄ヲ願フコトニカツテ居リマシテ、尙ホ……

○被告(錦織) ソレカラ誠胤ヲ其邸ニ置ケバ毒殺カ謀殺ヲサレルト云フノモアリマセウ、

○裁判長 ソレカラ二月廿二日ニ呼出ヲスルト云フ……

○被告(錦織) 尙ホ其外ニ精算請求ノ訴ハ三月三日ト心得テ居リマス、ツレガ一枚シカ今日残ツテ居ラヌト云フノハ可笑イ話デアリマセンカ、引取ノ方ハ二月二十二日デ、精算請求ノ訴ハ三月三日デアリマス、是ハ一通ニナツテ居リマスガ、ソレヲ一ツニ豫審判事ハ御調ニナツテ居ル、ソレヲ御取寄ヲ願ヒマス、引續イテ申上マスガ……

○裁判長 イヤソレデハ午后開廷ヲスル、一應休憩ヲ致ス、  
午後零時十分 休憩

○裁判長 是ヨリ開廷ヲ致ス、  
開廷

○檢察官 午前ニ於ヤマシテハ本件ニ關スル全体ノ事實ヲ述ベテ置キマシタガ

是ヨリ山口淳ノ收賄ノ被告事件並ニ詐欺取財ノ被告事件ニ移リマス、  
被告山口淳ハ東京地方裁判所豫審判事ヲ勤メテ居ツテ、右ノ豫審判事ノ官職ヲ利用シ、訴訟事件ニ關係シ金錢ヲ取得セント欲シマシテ、明治二十五年二月頃被告錦織剛清ガ私書偽造被告事件ガ免訴放免トナリマシタ、其放免ノ謝禮トシテ剛清ハ淳方ニ尋子來ツタ時、被告帆足清幸ガ假處分事件ニ就キマシテ被告剛清ヨリ金圓ヲ騙取シタト云フ事實ヲ聞キマシタ、ソコデ剛清ガ相馬家ニ對スル運動ヲ助ケタナラバ、容易ク金ヲ得ラル、デアラウト云フノ考ヲ起シマシタカテ、剛清ノ請ハル、ニ任セテ被告淳ハ剛清ノ運動ヲ助ケルト云フコトヲ承知シタ、然ルニ其後訴訟事件ノ發生スルニアラズンバ、自分ノ目的トスル所ノ金ヲ取ルコトガ出來ヌト云フノ考カラシテ、終ニ先刻來述ベ來ツタ通り詰リ謀殺事件ノ如キハ、却テ已レガ發頭人トナツテ訴訟ヲ提起サセルヤウナ譯デアル、ソレデ其間ニ於テ被告山口淳ハ利ヲ得ントシテ、明治二十六年九月以後ハ被告剛清カラ運動費及ビ探偵費ノ名義ヲ以テ左ノ金員ヲ騙取シ、又岡田晴橋及ビ自分ハ退官ノ后辯護士トナルニ就テ、事務費ニ要スル——即チ辯護士事務所設置費ト稱シマシテ、錦織剛清ヨリ左ノ金員ヲ騙取シマシタ、即チ其事實ヲ舉ゲマスレハ、

收賄金合計二千五百圓ニ對シテハ古帯一本ハナリ甚ダ不倫ナリ

第一、被告淳ハ明治二十六年九月ノ二三日頃、本所區向嶋小梅町十五番地料理店田ノ面事橋本帆平方ニ於キマシテ、相馬順胤外七名カ謀殺事件ノ運動費又ハ探偵費ト稱シマシテ、被告剛清ヨリ賄賂トシテ金五十圓ヲ受ケマシタ、  
第二、被告淳ハ同年同月二十日、日本橋區中洲枕流館ニ於キマシテ、前同様探偵又ハ運動費ト稱シマシテ、被告剛清ヨリ金百圓ヲ受ケタノデアリマス、  
第三、被告淳ハ同年十月五日書面ヲ以テ被告剛清ヲ日本橋區通り四町目五番地料理店島村事加藤善吉方ニ呼ビ寄セマシテ、山田重兵衛ガ持參セシ所ノ金三百圓ヲ相馬順胤外七名ガ謀殺事件運動費ノ名義ニテ剛清ヨリ受取ツタノデアリマス、  
第四、被告淳ハ同年同月五日ヨリ十二日マデノ間ニ於テ、右島村方ニ於テ順胤等ガ殺謀事件ニ關シ被告剛清ト密會ノ折柄、博多ノ古帯一筋ヲ賄賂トシテ取マシタ、  
第五、被告淳ハ同月七八日頃前記ノ嶋村方ニ於キマシテ、右謀殺事件ニ就テ剛清ト面會ヲシタノデアアル、其折、淳ノ曰ク謀殺事件モ段々ト進ンデ來タ、併ナガラ謀殺ノ點ニ就テ證據ガ甚ダ不充分デアルヤウニ思ハル、就テハ之ヲ重罪公判

馬家ニ對シテハ此ノ相馬家ニ對シテハ

ニ移スヤウニスルト、謀殺事件ノ被告共ハ必ず抗告ヲスルニ違ヒナイ、抗告ヲスルト云フコトニナルト相馬家ハ控訴院判事ニ向テ、必ず賄賂ヲ使フデアラウ、賄賂ヲ使ヘバ被告人共ハ無罪トナツテ甚ダ此方ノ不利益トナツテ目的ヲ達スルコトガ出來ナイ、ソレデ岡田晴橋ニ於テモ私擅監禁ノ告發ヲシヤウト云フ際デアルカラ、寧ロ此謀殺事件ノ告發ハ止メテ仕舞フテ、監禁罪ヲ以テ告發スルガ利益デアアル、然ルニ監禁罪ナラバ檢事ノ起訴ヲ要サナケレバナラス、ケレドモ檢事ハ相馬家カラ買取サレテ居ル、言ヲ換ヘテ言ヘバ詰マリ相馬黨デアルカラ起訴ハシナイデアロウ、起訴シナイデアレバ自分モ岡田モ決心ノ上控訴院檢事ニ向ツテ告發ヲナシ、結局本件ヲ公判ニ移ス決心デアアル、併ナカラ此監禁事件ト雖モ公判ニ向テ必ず有罪トナル認メハ附カヌ、ソレデ有罪トナレバ宜イカ、若シ無罪トナル曉ニハ、自分モ岡田モ決心ノ上遣ツタコトデアルカラ、辭職ヲシナケレバナラヌ、辭職ヲスレバ固ヨリ法律家ノコトデアルカラ、辯護士ニナラナケレバナラヌ、辯護士ニナルニハ金ガ要ル、現ニ岡田ノ如キハ負債モアルコトデアルカラ、ソレニハドウシテモ三千圓カ五千圓ノ金ガ必要デアアル、ドウカ其金ヲ拵ヘテ貰ヒタイト云フコトヲ剛清ニ向ツテ申込シタノデアアル、ソコデ剛清ハ今日何モ五千圓ダノ

千圓ノ贈  
賄ニ三  
圓ヲ借  
剛清モ亦  
新平ニ對  
シテ詐偽  
取財ナル  
カ

三千圓ダノト云フ金ヲ積ンデ置クト云フ必要ハナカラウ、御互ヒニ共同シテ遺  
ルコトデアレハ、今金カ千圓モアツタラ宜カラウト云フコト、終ニ千圓ノ金ヲ遣ル  
ト云フコトノ決心ヲ以テ剛清ニ於テ承諾ヲシタ、詰マリ被告剛清ニ於テハ山口ガ  
申述ベタ通リノコトカラシテ、被告後藤新平方ニ至リマシテ、右ノ金ガ必要デア  
ルカラシテ、ドウカ三千圓カ二千圓ノ金ヲ作ツテ貰ヒタイト云フコト頻リニ後  
藤ニ迫ツタノデアル、新平モ終ニ其事ヲ承諾シテ、森文次郎、小林浪五郎ノ兩人  
ヨリ金三千圓ヲ連滞ニテ借用スルコトニ相成リ、十月十五日ニ被告淳、新平、剛  
清ノ三人ハ向嶋ノ田ノ面ニ會合ヲシタ、所ガ淳ニ於テハ尙自分ガ是迄言フタ所  
ノ事柄ヲ確メルタメニ、岡田晴橋ニ話シテ見タ所ガ、岡田モ同シ考ヘデアツテ、  
若シ有罪トナラヌ曉ニハ辭職ヲスル決心デアルト云フテ、尙兩人ニ對シテ信ヲ  
置カシメ、同席ニ於キマシテ金千圓ノ三井銀行ノ引出小切手ヲ受取マシタ、次  
ニ同月ノ十九日被告山田重兵衛ガ錦織剛清ノ使トシテ山口方ニ參リマシタ時  
ニ、監禁罪ハ不日公判ニ附セラル、デアラウカラ、剛清ニ宜シク申傳ヘテ吳レ  
ト重テテ欺キ濟マシテ、同日日本橋區小網町四丁目三番地料理店喜代川亭事渡  
邊伊三郎方ニ趣キ、剛清ニ來テ吳レト云フテ剛清ニ會合シテ、其前向嶋ニ於テ

腐敗ノ一  
シ意味フベ

取ツタル所ノ小切手ヲ剛清ニ返付シマシテ、現金ニテ千二百五十圓ヲ騙取シタ  
ノデアリマス、  
第六ハ同月廿日頃右同様ノ手段ヲ以テ、山田重兵衛ノ手ヲ經マシテ、剛清ヨリ  
金二百五十圓ヲ騙取シタルモノデアリマス、  
右ノ如ク被告淳ハ剛清等ト屢々會合シテ種々ノ謀計ヲ回ラシテ居ツタニモ拘ハ  
ラス、自分ガ腐敗ノ精神カラ尙ホ一面ニハ相馬家ニ通シテ、尙自分ノ利益ヲ得  
ント云フ考ヲ起シマシテ、丁度其時自分ノ縁弟ニ當ル所ノ原田務ハ相馬家ノ親  
族タル織田信敏ノ舊臣デアルヲ幸ヒニ、明治廿六年二月頃淳ハ原田務ヲ尋テ、  
イロ／＼話ノ末、淳ハ原田務ニ向ツテ是迄ノ相馬事件ハ随分重大ナルモノデア  
ツテ、錦織モ相馬家ノ紛紜ハ一層度ヲ高メテ來テ居ル、自分ハ此事ニ就テ十分  
ニ研究ヲシテ置キタイ、就テハ貴下ハ相馬家ニ縁故ガアルデアラウト思フカニ  
ドウカ其顛末ヲ知ツタ人ニ紹介ヲシテ貰ヒタイト頼ンタノデアアル、依テ原田務  
ニ於テハ山口淳ハ現ニ豫審判事デアルカラ、官職上ノ取調デアラウト云フノ考  
ヘカラシテ、丁度其頃同藩人デ井上登美木ト云フモノガアル、其者ノ紹介デ相馬  
家ノ青田綱三ガ兩三日ヲ經テ右井上登美木ナルモノ、刺ヲ持ツテ右山口方ニ尋



子テ參ツタ、青田ハ山口ニ面會ノ上剛清ト相馬家トノ紛擾ノ顛末ヲ逐一申述ヘ  
 タ末ニ、尙ホ此事件ニ就テハ充分ノ御盡力ヲ願ヒタイト請フタ、ソコテ山口ハ前  
 ニ述ベル通りノ次第デアルカラ、何方相馬家ニ通シテ置クガ利益デアルト云フ  
 ノ考ヘカラ、爾來相馬家ノタメニ盡スヤウナリニ相成ツタ、ソコテ被告淳ニ於キ  
 マシテハ一面ニハ剛清ト通シテ居ツテ、剛清ノ計畫ハ悉ク承知シテ居ルカラ、或  
 ハ秀胤奪取リノ策略ガアルトカ何トカ云フテ、頻リニ相馬家ノ爲メニ表面盡力  
 スルコトニシテ居ルガ、其實ハ剛清ノ目的ハ金圓ヲ取ルニアルガ故ニ、裏面ニ於テ  
 ハ却テ剛清ト共謀シテ、相馬順胤外七名ニ對スル謀殺罪ノ告發ヲ提起セシメタ  
 ノデアアル、而シテ謀殺事件ノ豫審ハ着々進行シテ、天下ノ耳目ヲ惹キ天下ノ議論  
 トナルニ乘シテ被告淳ハ始メテ左ノ通りノ金額ヲ相馬家カラ取ツタノデアアル、  
 第一、被告淳ハ明治二十六年七月二十四日相馬順胤外七名謀殺事件起訴ノ當  
 日デアリマス、相馬順胤ハ位記ヲ持ツテ居リマスカラ、宮内省ニ奏請ヲシナ  
 ケレバナラナイ、然ルニ奏請ノ裁可ガナイ前デアルカラ、起訴セスニ置イ  
 タ、然ルニ山口淳ハ青田綱三ヲ自分ノ宅ニ招キ寄セテ、相馬誠胤ノ起訴セラレ  
 タノハ實ハ自分ノ意見ニ依テ遁レタノデアアルト云フコトヲ申述ベテ、青田綱三ヨ

蜂織チシ  
 テ争ハシ  
 △ルノ流  
 夫

リシテ賄賂トシテ金百五十圓ヲ受ケタノデアアル、  
 第二ハ被告淳ハ同年八月九日——九日ト云ヘバ丁度相馬家ニ豫審判事ガ家宅押  
 索ニ出掛ケテ被告人ヲ拘留シタ時デアリマス、此時ハ矢張志賀直道ナルモノガ  
 位ヲ持ツテ居ル故ニ、矢張奏請ノ手續ヲ經ナケレバナラヌ、此間拘留狀ハ其儘  
 ニアツタノヲ岡田晴橋ヨリ借受マシテ、同夜直チニ鳥森町ノ湖月樓ニ至テ、急  
 使ヲ發シテ相馬家ノ家扶心得西内善右衛門ヲ呼ビ寄セテ、呼ビ寄セテ志賀直道  
 ハ拘留ニナラウト思フト告ケマシタカラ、西内ハ大ニ驚イテ、山口ニ向ヒドク  
 カ是非志賀直道マテ御同道ヲ願ヒタイ、ソウシテ尙入檻後ノ心得ナドモ同人ニ  
 聞カシ吳レト云フノデアツタカラ、被告淳ハ善右衛門ト同道シテ志賀直道方ニ  
 乘リ込シタノデアリマス、同所ニ於キマシテ淳ハ拘留狀ヲ示シテ、直道ノ子直  
 温ニ向テ、明日ハ拘留サル、デアラウト云フテ、其節西内善右衛門ヨリ青田綱  
 三ノ依頼ト稱ヘマシテ、金二百圓ヲ差出シタノヲ被告淳ハ賄賂トシテ受取ツタ  
 ノデアアル、  
 第三 被告淳ハ其後志賀直温ト所々ニ密會シ、又ハ書面等ヲ以テ往復シテ居リ  
 マシタノデスカ、同年九月十日頃日本橋區茅場町ノ香川亭ニ於キマシテ、右直

温ヨリ賄賂トシテ金三百圓ヲ受取ツタノデアアル、  
 次ニ帆足清萃ノ詐取財被告事件ニ就テ申述ベマズ、被告清萃ハ嘗テ京橋區裁  
 判所ノ監督判事ヲ勤メテ居リマシタ、明治廿四年六月頃ニ大坂ノ硝子會社ノ工  
 夫長ヲシテ居ル伊藤契信ト云フモノガアリマス、其者ノ紹介ニ依リマシテ……、  
 丁度其頃ハ被告剛清ハ相馬家ニ對シマシテ謀殺告發ノ訴ヲ起シ、又相馬家カラ  
 モ錦織ニ對シテ訴ヲ起シテ、双方紛擾ヲ起シテ居ル最中デアリマス、ソコデ居  
 萃ハ伊藤契信ノ紹介ニ依ツテ、矢張其當時大坂ノ硝子會社ノ長ヲシテ居ツタ所  
 ノ北風丈平ト云フモノト、被告剛清トヲ築地ノ壽美屋ニ於テ會合シマシタ、ソ  
 レカラシテ清萃ハ自分ガ相馬家ト剛清ノ間ニ立ツテ仲裁ノ勞ヲ取り、ドウカ此  
 事件ヲ容易ク纏メテ遣ラウト云フ所カラシテ、種々盡力ヲスルモノ、如クシテ  
 居リマシタ、所ガ丁度其頃剛清ハ相馬誠胤ノ總理代人ノ資格ヲ以テ、代言人鈴  
 木充美ヲ代理人トシテ相馬家ノ家令家扶原田、青田、石川等ニ對シ、精算請求ノ  
 告訴ヲ起シマシタ、ソレト同時ニ相馬家ノ有体動産即チ相馬家ノ金錢ノ出納ニ  
 關スル新舊一切ノ帳簿、同ジク金錢貸借ニ關スル一切ノ書類、有價證券及ヒ現  
 在ノ金銀紙幣類假處分ノ申請ヲナシタ、ソレデ同年同月十三日右ノ有体動産ハ

假處分ノ上、執達吏吉川忠彦ニ於テ之ヲ保管セシムルコトニ相成マシタ、然ルニ  
 右忠彦ニ於キマシテハ、右ノ如ク大切ナルモノヲ藏ムベキ庫カナイ、庫ガナイ  
 カラシテ當時監督判事ヲシテ居ツタ帆足清萃ガ勤メテ居ツタ所ロカラ京橋區裁  
 判所ノ庫ヲ一時借ルコトニナリマシタ、ソコデ清萃ハ右ノ物件ヲ預カルト云フ  
 コカラ——金員ヲ騙取シヤウト云フ考ヘカラ、被告剛清ニ向ツテ今般ノ假處分  
 ニ就テハ、執達吏ニ手数料ヲ渡サナケレバナラス、其手数料トシテ金三百圓ヲ  
 出セト云フコトヲ申シマシテ、其際被告剛清ヨリ北風丈平ノ手ヲ經テ、東久世通  
 禧ヨリシテ帆足清萃ニ宛テタル所ノ金三百圓ノ第十五國立銀行引出小切手一枚  
 ヲ清萃ガ受取ツタノデアアル、尙其ノ差押事件ニ就テハ運動ヲシナケレバナラスハ  
 詰マリ自分ガ運動ノタメニ使ツタ金ハ是々デアルト云フヤウナコトヲ以テ、被告  
 剛清ヲ欺キ金三百圓ヲ受取ツタノデアアル、而シテ疑キニ被告剛清ヨリ受取ツテ  
 置イタ所ノ引出小切手ハ同月十八日ヲ以テ、自ラ裏書ヲシテ署名捺印ノ上實子  
 倫一郎ヲシテ受取ラシメ、自分ノ用ニ費消シテ實際ハ執達吏ニ一文モ拂渡サヌ  
 ノデアアル、  
 右ハ即チ相馬家ニ關係スル一切ノ被告事件ノ事實デアアル、

是カラシテ山口淳ガ河井庫太郎ノ私書偽造事件ニ關係シ、及ビ其他ノコトニ就テ金錢ヲ受ケ、及ビ騙取シタル所ノ事實ヲ申述ヘマス、被告山口淳ハ東京地方裁判所豫審判事奉職中ニ於キマシテ、明治二十五年一月四日頃平素親密ニ交際シテ居ル所ノ帆足清萃ヨリシテ、大森邊リニ散歩ヲシヤウデハナイカト云フ手紙ヲ受取り、淳ハ早速ソレニ同意ヲ致シマシテ、同日清萃ト共ニ新橋ノ停車場ニ行ツタ、所ガ清萃ハ大森ヘハ行カズシテ機濱マテノ切符ヲ買フタノデアアル、然ルニ淳ハ一向之ヲ怪マスシテ汽車ニ乗ジ、清萃ハ淳ヲ平沼專藏ノ本町二丁目ノ宅ニ引張ツテ行ツタノデアアル、ソコデ專藏ニ初メテ面會シテ、ソレヨリ專藏ノ案内ニ依テ横濱ノ佐野茂ト稱スル料理屋ニ行キマシタ、同所ニ於キマシテ專藏ハ淳ニ向ヒマシテ、當時河井庫太郎ガ私印私書偽造詐欺取財被告事件ノ共犯者トシテ取調べヲ受ケテ居ル、山村德藏ガ、豫審判事安藝哲三郎カラ密室監禁ヲサレテ非常ニ苛酷ナル取調べヲ受ケテ居ル、就テハ安藝哲三郎ハ徳川家カラ賄賂ヲ取ツテ斯ノ如ク山村等ニ向ツテ苛酷ノ處爲ヲナスノデアアル、而シテ之ヲ救フ方法ハナカラウカト云フノ話シガアツタ、其時ハ一月四日ノコトデアリマスカラ、酒モ出ル藝妓モ出ルト云フヤウナ譯デ、ソレハ其儘ニ立消トナツタハソレ

カラシテ專藏ハ其後淳ニ面會ヲシテドウカ德藏ヲ救フ術ハナイカト言フタ、ソコデ淳ハ豫テ法律ニ規定スル所ノ忌避ヲ申立テルヨリ外ハナイ、安藝豫審判事ハ法律ニ反イテ苛酷ノ處置ヲスルカラ忌避ノ申立テヲシナケレバナラス、併ナガラソレニハ山村德藏ニ通知ヲシテカラデナケレバナラス……、ソレハ容易イ監獄署内ニ通謀者ガアルカラ、一向心配ハナイト云フ專藏ノ話デアアル、ソレカラシテ被告淳ハ何トカシテ之ヲ助ケヤラト云フ考ヲ起シマシテ、己レガ擔當シテ居ル所ノ松平直應ノ被告事件ニ就テ、山村德藏ヲ參考人トシテ取調べヘタキ旨ヲ豫審判事安藝哲三郎ニ話シテ暫時取調べヘタコトガアル、其審問ノ後ニ豫審廷ニ於テ山村德藏ニ忌避ト云フコトヲ教ヘテ、且ツ判事訴訟法ノ第四十一條ニアルト云フコトヲ紙ニ書イテ見セマシタガ、德藏ハサウニ云フコトヲ知ラヌカラ少シモ感覺ヲ起サナカッタ、ソレデ終ニ仕方ガナイカラ帆足清萃、平沼專藏ト相約シテ、專藏ノ妾宅ナル麴町區三番町四十一番地内倉まん方ニ會合シ、其時來テ居ツタ所ノ飯田榮造ニ淳自身ガ認メタ所ノ忌避申請ノ草稿ヲ渡シテヤツタ、而シテ當時榮造ハ之ヲ警視廳監獄ノ看守ヲ勸メテ居ツタ所ノ渡邊直賢ニ托シテ、直賢カラ密室監禁中ノ山村德藏ノ手ニ忌避申請ノ書面ヲヤツタノデアアル、ソ

地獄ノ沙汰モ金次  
第ト云フ  
所僱以アル

コト山村徳藏ハ忌避ノ申請書ヲ差出シタ、差出シタ所ガ當裁判所ハ右ノ申請ヲ正當ト決定シテ、河井庫太郎及山村徳藏ノ被告事件ハ其星順ニ依ツテ豫審判事名越勝治ノ担当ニナツタノデアアル、所ガ被告帆足清萃カラ山口淳ニ向ツテ、是非彼ノ事件ハ貴下ガ擔當シテ呉レト云フ相談ヲシタ、淳モ亦自分ガ之ヲ担当スル方ガ便利ト考ヘマシタカラ、終ニ其當時ノ上席豫審判事ト共ニ名越勝治ト相談ヲシテ、右ノ被告事件ハ山口淳ノ担当トナツテ、名越勝治ハ他ノ事件ヲヤツタノデアアル、ソレカラ間モナク山村徳藏ヲ責付シテ、同年四月ニ至ツテ終ニ免訴放免ヲ致シタノデアアル、

右ノ如ク被告山口淳ハ、帆足清萃、平沼專藏ノ依頼ニ依ツテ首尾ヨク山村徳藏ヲ免訴放免ヲシタ、其放免後間モナク平沼專藏ハ淳ノ住所ナル牛込區西五軒町ノ邸宅ヲ訪フテ、淳ニ面會ノ上山村徳藏ガ被告事件ニ就テ配慮ヲ受ケタ禮ヲ述ヘテ、其際菓子折ヲ持ツテ行ツテ謝禮シタノデアアル、所ガ元來被告淳ハ金ガ欲シイノデアアル、頻ニ金ガ要ルト云フ話ヲシタカラ、專藏ハ丁度携ヘテ居ツタ所ノ金二百圓ヲ差出シタノデアアル、其後又同年ノ十月頃ニ專藏ハ金二百圓ヲ携ヘテ淳ニ渡シタ、ソレカラ又山村徳藏ニ於キマシテモ、同年ノ六月價十七圓程ノ銀

瓶ヲ携ヘテ淳方ニ至リ、イロ／＼盡力シテ呉レタ所ノ謝禮トシテ之ヲ淳ニ贈リマシタ、

ソレカラ被告山口ハ第四ニ於キマシテ、二十五年六月中、山村徳藏ガ丁度先キノ被告事件ニ就テ盡力サレタ禮トシテ、丁度其頃ニ當ツテ徳藏ハ矢張飯村七郎ト云フモノカラ告訴ヲサレテ偽證事件ガ起リ、豫審判事津曲兼綜ノ擔當デ調ヘラレテ居ル、然ルニ之ガ又拘留サレテ居ツテハ甚ダ困マル、ドウカ助カル道ハナカラウカト云フ相談ヲ淳ニ致シマシタ、被告淳ハ又モ此機ニ乘シテ金ヲ騙取シヤウト云フ目的カラ、同月中神田ノ錦輝館ニ至リ、徳藏ヲ招寄セ現今起訴サレテ居ル偽證事件ニ就キ拘留ナラヌヤウニ盡力ヲスルニハ、告發者ガ悪ルイカ又ハお前ノ方ガ悪イカト云フコトヲ探偵シナケレバナラヌ、其探偵費トシテ七十五圓程差出セト申述ヘテ、終ニ金五十圓ヲ賄賂トシテ取ツタノデアアル、ソレカラシテ淳ハ同年ノ十月十五日頃、徳藏ノ拘留サレタヤウニ取計ツテヤルト申シ欺イテ、金二百圓ヲ徳藏ヨリシテ騙取シタモノデアアル、詰マリ此事件ニ就テハ山村徳藏ヨリ金三百五十圓ヲ欺取ツタ譯ニナル、

第五ニ於キマシテハ被告山口淳ハ明治二十五年十月二十七日、豫審判事瀧川長

致ヨリ平沼專藏告發ニ係ル栢植秀次郎、和田重兵衛ガ詐僞取財被告事件ヲ取調ヘタ、然ルニ瀧川豫審判事ハ此時控訴院ニ轉任ニナツタメニ、自分ガ之ヲ担當シテ、同年十二月二十八日ニ平沼專藏ヨリ金二百圓ヲ賄賂トシテ受取ツタメデアル、ソレカラ翌二十五年ニ華族山崎治敏ヲ被告人ニ加ヘマシテ、專藏ニ利益ナル處分ヲ爲シタ、尙ホ、

第六ニ於テ同年五月十八日其事件ガ豫審終結ヲ爲シ、其後十月八日ニ至ツテ、其利益ヲ爲シテ吳レタ所ノ謝禮及其他ノ訴訟事件ニ就テ盡力シテ吳レタ所ノ謝禮トシテ、金二百五十圓ヲ受取ツタノデアル、

次ニ帆足清萃詐僞取財犯罪ノ事實ヲ申上ケマス、

被告帆足清萃ハ嘗テ木更津ノ裁判所ニ在ル時分ニ、同地ノ商人テ加藤善助ト交際ヲ結ヒ、善助ノ娘なみガ山村德藏ノ妻トナツテ居ル所カラ懇意ニナツテ、ソレカラ又明治十八九年頃カラ、平沼專藏トモ知合ニナリテ、ソレカラ明治廿四年十二月頃ニ至リマシテ、河井庫太郎ノ私書偽造詐欺取財被告事件ノ共犯者ト認メラレ、山村德藏カ密室ニ監禁サレタノデアル、ソコデ德藏ノ妻おみや又坂田榮藏ガ屢々帆足方ニ參リマシテ、ドウカ此事件ニ就テハ早く放免ヲシテ貰ヒ

先ニハ三  
百圓ヲ得  
テ執達吏  
ニ一又テ  
贈ラス四  
山口ヲ五  
ニシテ着  
服ス何ソ  
其手ノヤ  
同シキヤ

タイト云フ所カラシテ、清萃ハ之ヲ承諾シテ、曩ニ述ヘタ所ノ事實ノ通り、被告山口淳ヲ横濱ニ引ツ張ツテ、終ニ忌避ノ申請書ヲ德藏カラ差出サシメタノデアル、ソコデ清萃ハ此機會ヲ利用シテ金ヲ得ヤウト云フノ考ヘカラ、飯田榮造方ニ至リマシテ、ソレ等ノ心配ヲスルニ就テハ金ガ入用デアアル——金ガ入用デアルト云フコヲ申述マシテ、暗ニ山口淳ニ贈ルベキノ意ヲ示シ、全年一月二十八九日頃ニ金三百圓、二月十日頃ニ金二百圓ヲ榮造ヨリ騙取シマシテ、之ヲ山口淳ニ贈ラズシテ自分ガ悉ク着服シテ仕舞ツタノデアリマス、

被告渡邊直賢ハ警視廳ノ監守ヲ奉職シテ居ツタ時ニ、山村德藏ガ河井庫太郎ノ共犯者トシテ監獄ニ拘留サレタ時ニ、右直賢ハ神田錦町三丁目十八番地ニ居住シテ居ル所ノ、山村ノ親戚飯田榮造方ニ到リマシテ、何か山村ニ取次イガアルナラバ取次デヤラウト云フコヲ申込デ、其後丁度先ニ述ベタ通り坂田榮造ガ山口淳カラ受取ツタ豫審判事安藝哲三郎ヲ忌避スベキ申請書ヲ渡邊直賢ニ依托シマシテ、之ヲ密室監禁中ノ山村德藏ニ相渡シ、其後全月二十四日頃飯田榮造方ニ至リ、金十圓、全ジク三十日ニ金十二圓ヲ賄賂トシテ取ツタモノデアリマス、

コレデ事實ノ大要ヲ了リマシタガ、彼ノ相馬家カラシテ被告山口淳ガ取受ツタル賄賂、其外河井庫太郎ノ詐欺被告事件ニ就テ、豫審中ニ於テ之ヲ收受シタモノデアアル、此段モ申述ベテ置キマス、

ソコデ以上ノ事實ニ於キマシテハ、即チ被告事件ニ就テハ相馬順胤外七名ニ對スル謀殺告發狀、及ビ是ニ添付シテアル所ノ東京地方裁判所ニ送ツタ自訴狀、並ニ告發狀ト共ニ提起シテアリマス、及ビ誣告事件ニ就テ各被告人カ豫審廷ニ於テ取調べラレタ所ノ調書、及ビ證人參考人ノ調書、及ビ各被告人ノ宅ヨリ押收シタル書類、其他博多古帯、刀劍、其他證人宅ニ於テ押收シタル所ノ證據書類、其他本職ヨリシテ當裁判所ニ廻シテアル所ノ謀殺豫審調書、及ビ附屬書類トシテ差出シアル所ノ民事書類、其他謀殺事件以前ニ於テ裁判ニ爲ツタ所ノ民事刑事書類、其他一切ノ書類ニ依テ事實明白デアリマス、又其他ノ詐偽取財官吏收賂被告事件ニ付キマシテハ、豫審判事ノ調書及ビ證人參考人ノ書類、又ハソレニ就テ押收シテアル所ノ證據物、及ビ其他一切ノ證據ニ依テ事實明白デアリマス、右ノ事實ニ依テ何卒御審理アラソコヲ請ヒマス、

○裁判長 錦織……先刻相馬誠胤ヲ東久世伯へ監督ヲ頼ムト云フ願ヒテ出シタルニ就テ……二十二日ニ誠胤ノ呼出シヲ控訴院ノ方へ申請ヲシタ其書類ヲ取寄セテ貰ヒタイト云フノカ、

○被告(錦織) ソレハ少シク事實ガ違ヒマス東久世伯ニ引取ノ訴ヲ起シマシタノハ現ニ其謀殺事件ニ關シマスルノデ、私擅監禁ヲ致シマシタ事實ノ參考ニ……

○裁判長 ソレテ其引取ノ申請ニ就テ呼出シニナツタト云フノカ、

○被告(錦織剛清) 自分ハサウ心得テ居リマス、御調ニナツタノハ是ハ三月頃ノコトデアリマス、アリマスガ、併シ謀殺事件ニ就キマシテハ愈々殺サレマシタト云フコト、見ルベキモノハ……、私ニ於テハ殺サレタノデアルト云フコト述ベテアル、訴ハノ書類デアリマスカラ、多少私ノ方ニモ効力ノアルモノデアラウト思ヒマス、

○裁判長 サウスルト二十二日ニ呼出シニナツタト云フコトハ確カニ分カラヌノデアルカ、

○被告(錦織剛清) 今日マデ私ハ二十二日ト承知シテ居リマス、

○裁判長 サウスルト其時分ニ假處分當否ノ申請ガ一ツ、不當後見取消ノ申請ガ一ツ……、

○被告(錦織) 其二ツト外ニ誠胤身分引取ノ訴、此三ツノ申請ガ出テ居ル筈デス、

○檢察官 本官ノ記憶ニ依テ見レバ、錦織ヨリ出シタ申請書ハ、不當後見取消ト、假處分當否ノ申請ノ外ニ何ニモナイト心得テ居リマス、

○被告(錦織) 其外ニ身分引取ノ申請ガアル筈デス、無ケレバナリマセヌ、既ニ謀殺ヲ……、

○裁判長 ソレデハ書類ヲ取寄セテ呉レロト云フコトハ、果シテサウト云フ訴ガアツタカ無カツタカト云フコトハ確メタイト云フノカ、

○被告(錦織) 何ニモ同日ニ私ハ申請シタト心得テ居リマス、其當時辯護人ハ岡村輝彦、菊池武夫、大井憲太郎、和田守菊次郎、植村俊平ノ五人ノモノニ依頼シテ誠胤ノ身ヲ東久世伯ニ監督ヲ移シテ頂キタイト云フコトヲ申請シタニ相違ゴザイマセヌ、

○裁判長 ソレハ矢張一月十八日ニ申請シタニ相違ナイカ、

○被告(錦織) ソレニ相違ゴザイマセヌ、

○裁判長 ソレニ就テ口頭辯論ガアツタカ、

○被告(錦織) ソレハ慥カ口頭辯論ハゴザリマセヌデ主人ハ没シテ仕舞マシタ、

○裁判長 ソレデ一月二十二日ニ本人ヲ呼出シタイト云フハドウ云フ譯カ、

○被告(錦織) 私ハ實ハ主人ヲ御呼出下サルノハ口頭辯論ノタメニ御呼出ト心得テ居リマスガ、併シ開イタコトニナリマシタカ否ヤハ伺ヒマセヌ、

○裁判長 サウシテ見レバ一應取調テカラ決定ヲシテモ差支ハアルマイ、ソレカラ錦織ヨリ最初ニ申立テタ大岡辯護人ガ三月一日マデハ差支ルカラ、ソレ迄延期シテ呉レト云フノ請求ハ開届ケヌコトニ致ス、ソレカラ又其ノ方ナリ又高橋辯護人ヨリ謀殺事件ノ書類ヲ寫取リタイト云フコトハソレハ許スコトニ致ス、

○被告(錦織) 有難フゴザリマス、

○裁判長 ソレカラ後藤新平并ニ其辯護人カラシテ書類差入ノ願ヒヲ出シタ、ソレハ事實發見上差支ナカラウト思フカラ、相當ノ手續ヲ經テ願出タナラバ、一應檢閲ノ上差許スコトニ致ス、

○被告(岡野寛) 岡野寛ヨリモ御願申シタイコトガアリマス、自分ノ方ヘモ差

入ヲ願ツタノデアリマスガ、檢事局ニ於テハ夫ハイケナイト云フコトデアリマシタガ、ソレモ同様ニ願ヒマス、

○裁判長 ソレモ同ジコトダカラ宜シイ、次ニ書類ノ謄寫ハドウスルカ、

○高橋辯護士 此事件ハ大事件デアリマシテ、是非引續イテ御審理ヲ願ハナケレバナルマイト思ヒマス、ドウカ都合ヨクヤリタイト思ヒマスカラ、御審理ノ都合ヲ伺ヒマシテ……、

○裁判長 審理ハ續ケテヤリタイ考ヘデアル、ソレデ大分書類ノ寫取ニ手間ガ掛ルヤウデハ進行ニ差支ヲ生ジヤウト思ヒマス、

○高橋辯護士 サウ致シマスレバ明日カラ四五日御猶豫ヲ願ヒマシテ、其間ニ謄寫ヲ致シタイト心得マス、

○飯田辯護士 私ノハ少シ考ヘガ違フ、其謀殺書類ハ御審理中必ず御備付ガ必要デアレバ格別デスガ、若シサウデナケレハ一方ニ於テハ被告人ノ審問ヲサレマシテ、其間ニ謄寫ヲ願ツタナラバ、遲滞ナク運ンデ至極都合ガ宜カラウト思ヒマス、願ハクハ御差支ガナケレバ願ヒタイ

○檢察官 今飯田辯護人ノ請求デアルガ、ソレハ甚ダエケシカラウト思ヒマス、

随分必要ノコトデアルナラバ、此處へ備付ケテ置カナケレバナリマスマイカラ、公判ニ移ルガ宜カラウト思ヒマス、

○青木辯護士 何レ其書類ハ證據書類トシテ提出シタノデアル、證據書類ノ御調マデニハ寫取ルコトガ出来ヤウト思ヒマス、

○裁判長 ソレハ何レ此書類ニ就テ考ヘル積リデアル、

○飯田辯護士 一應被告人ノ御調ガアラウト思フ、ソレカラシテ證據調ニ就テ御審問ガアラウト考ヘル其證據調ニ就テ御審問ノ時ハ無論必要デアルガ、一應事實ノ陳述ヲサセルニ就テハ、或ハ此書類ノ必要ガナイデハナカラウカト考ヘル、ソレハ今日ハ迎モ了ルマイト思フ、明日ハ御開廷ガナイサマデアリマスカラ、明後日ニ涉リマセウ、明後日デモ了ラナケレバ又延ビマセウカラ、其間ニ差急イダナラバ随分謄寫モ出来ヤウト思ヒマス、

○高橋辯護士 我々ノ考ハ飯田辯護士トハ大ニ其考ヲ異ニシテ居ルノデアル、當証告罪ニ就キマシテハ、先キニ錦織ヨリ告發ヲシタ、其當否如何ト云ヘルコトノ御取調ヲ願ツタナラバ、此事件ハ容易ク分ルデアラウト思フ、故ニ此謀殺事件ノ豫審ニナリマシタ事實ニ就テ、御審理ヲ願フノハ最モ必要デアルト思フ、



ソレ故ニ是非共前ニ謄寫ヲ願ハナケレバナラヌ考ヘデアリマス、詰マリ檢事ノ意見ト同様デアリマス、

○裁判長 ソレデハ當方ニ於テハ、審理上ノ都合ガアルカラ、速ニ辯護人ニ寫取ラセテ、ソレカラ審理ヲスルコトニ致ス、其ノ方ガ却テ宜カラフト思フ、

○高橋辯護士 ソレデハ今日ヨリ御許ヲ願ヒマシテ、出來ルダケ精々早く寫シ取リマス、二三日ノ内ニ寫シ取ルヤウニ……

○裁判長 ソレデハ今日ハコレデ閉廷ヲシマス、

午後二時二十五分

閉廷 (以下第二卷ニ續ク)

○偽證事件

本項ハ錦織、山口等ガ密會セル待合香川亭ノ主婦、及ヒ平沼專藏ガ山口、帆足等ニ會セル偽證事件ノ公判ナリ、豫審調書ハ參考トシテ末項ニ載ス、

○加藤わか偽證被告事件公判 (結了)

明治廿七年二月十七日午前十時十分開廷裁判長、陪席判事、檢察官、書記、

被告人、辯護士、一同着席

○裁判長 是レヨリ開廷致ス、加藤わか

○被告(加藤) ハイ、(問)年齢ハイクツカ、(答)三十八歳デアリマス、(問)生レ

タノハ何月ノ何日ダ、(答)十一月ノ二十二日、(問)身分ハ、(答)平民、(問)職業

ハ、何ラシテ居ルカ、(答)待合デゴザリマス、(問)何ハ……戸籍ハ何所ニアルカ、

(答)日本橋區南茅場町四十一番地ニアリマス、(問)生レタ所ハ、(答)京橋區デア

リマス、(裁判長)后ニ尋チルカラ……、(被告)ハイ、

○裁判長 ソレデハ檢察官公訴ノ理由ヲ……、

○檢察官 是ヨリ公訴ノ事實ヲ陳述致シマス、本件ハ偽證被告事件デアリマス、

被告加藤わかハ數年前ヨリシテ被告山口淳ト知合ノ中デアリマス、然ルニ明治

二十六年十一月十三日十四日ノ兩日ニ亘リマシテ、被告錦織剛清、被告山口淳

等七名ガ証告被告事件ニ就キマシテ、證人トシテ東京地方裁判所ノ豫審廷ニ呼

出サレタ、而シテ豫審廷ニ於キマシテハ式ニ從ツテ宣誓ヲナシ、二回豫審判事

西川漸ノ取調ヲ受ケマシタ、然ルニ被告わかハ嘗テ山口淳カラ二百五十圓借リ

タコトガアル、ソレガタメニ山口淳ヨリシテ、錦織剛清ト香川亭ニ會合シタコ

六十九

法廷ニ非  
ラサレバ  
頗ル實ノ  
ナル婦人

トハ決シテ言ツテ呉レルナ、口外シテ呉レルナト言ハレタ、其依頼ヲ固ク守リ  
マシテ、同人即チ山口淳ヲ曲庇スルタメニ二十六年七月以來、山口淳ト錦織剛  
清ト數回香川亭ニ會合シタコトノ事實ヲ知リナガラ、其事實ヲ隱蔽シマシテ、豫  
審判事西川漸ノ尋問ニ對シテ山口淳ハ七月以後書生体ノモノヲ連レテ、チヨツ  
ト一度立寄ツタル外ハ一度モ來タコトハナイ、又山口淳ハ錦織剛清ト一回モ會  
合シタコトハナイ、ト云フ偽リノ陳述ヲシマシテ偽證ヲナシタルモノデアアル、  
右ノ事實ハ被告錦織剛清外數名ノ尋問調書、及ビ被告山口淳ノ調書、其他當地  
方裁判所ニ於テ被告あかノ尋問調書、及ビ當被告事件ニ付證人トシテ取調タ所  
ノ五十嵐某ノ調書、其他參考人等ノ調書、及ヒ二百五十圓ノ借用證書等ニ於テ  
明カナコトデアリマス、即チ刑法第三百十八條ノ第三項ニ該當スル所爲デアル、  
何卒此項ニ依テ御審理アランコトヲ希望致シマス、  
○裁判長 被告ハ是迄處刑ヲ受ケタコトハナイカ、(被告加藤あか)ハイ、ゴザリ  
マセヌ、(問)何ハ……其待合ト云フノハ何時カラ營業シ始メタノカ、(答)二十一  
年カラデゴザリマス、(問)二十一年カラ開業シタト云フノデアアルカ、(答)ハイ、  
左様デアリマス、(問)山口淳ト云フ人ハ知ツテ居ルノカ、(答)ハイ、(問)何時

判官ノ語  
氣儘シイ  
重忠さま

カラ、(答)明治二十四年カラ知ツテ居リマス、(問)二十四年ノ春邊リカラカ、  
(答)ハイ、左様デ……、(問)何カ、其二十四年ノ春カラ大概、月ニ何邊位行ツタ  
カ、(答)大概、月ニ二三度ツ、入ラツシヤイマシタ、(問)毎月二三度位ツ、來ル  
月モゴザリマス、(問)連レガアルカ又一人テ來ルカ、ドツチガ多イ子、(答)大概  
御一人ガ多ウゴザイマス、(問)錦織ト云フ人ハドウダチ、知ツテ居ルカ、(答)  
錦織ト云フ御方ハ一向ニ私ハ存ジマセンデゴザリマス、先日豫審デ御突合せニ  
ナリマシテ、其節能ク考ヘマシタ所ガ、成程一二度御出ニナツタ御方デアルト云  
フコトヲ思付キマシタヤウナ譯デ……一向存ジマセヌデゴザリマス、(問)サウ  
スルト何カハ豫審ニ於テ突合せニナツテ、其時ニ初メテ錦織ト云フコトヲ知ツ  
タト云フノカ、(答)ハイ、(問)初メテ顔ヲ知ツタト云フノカ、(答)イ、エ左  
様デハ……、(問)サウスルト豫審デ突合せニナツテ始メテ、アレガ錦織ダツタト  
云フコトガ分ツタノカ、(答)ヘー、(問)其人ハ……錦織ト云フ人ハドウダチ、  
度々來テ居ルカ、(答)度々ハ參リマセンデゴザイマス、錦織サンハ豫審デ御突  
合せニナツタトキニ、度々行ツタト仰ツシヤリマシタガ、私ハ頓ト覺ヘテ居マ

センドゴザリマス、(問)ケレドモ錦織ト云フ人ハチヨット一度見テモ、サウ忘レ  
 サウモナイヤウナ人デアルカラ、大概分ツテ居リサウナモンダツタガ……、(答)  
 一度私共ニ御出ニナツタトキ  
 ト大層面相ガ變ツテ居リマシ  
 タカラ、チツト……、(問)現ニ  
 其人ノ來テ居ルノハ何遍見テ  
 居ルカ子、(答)左様デ、本當ニ  
 見マシタノハ二度デ……、(問)  
 本當ニ見タノハ二度カ子、サ  
 ウスルト其二度來タノハ何時  
 ヲ々ノ何日頃デアルカ子、(答)  
 左様デゴザリマス、昨年ハ私  
 ハ脚氣ノタメニ暫ク患ツテ居  
 リマシテ、別段御坐敷ヘモ出マセンデゴザイマスカラ、頼ト其何時ノ何日ト云  
 フ覺ヘハゴザイマセヌ、豫審デモ申上マシタ通り一應調ベマシテ申上ヤウト云



七十二

左様  
 是ハ  
 恰モ  
 別ノ  
 氣ノ  
 誤レ  
 サレ  
 ノ  
 素性  
 ノ  
 知ル  
 ミル

ツテ最初ノ日ハ宅ヘ戻リマシタデゴザリマス、何デモ夏頃デゴザリマス、(問)去  
 年ノ夏カ、(答)ハイ、左様デゴザリマス、(問)二十六年ノ夏カ、(答)ハイ、(問)何  
 月頃カイ、(答)六月頃デゴザリマシタカ七月頃デゴザリマシタカ、覺ヘハ頼ト私  
 ニハゴザリマセヌ、(問)山口カラ金ヲ二百五十圓借リテ居ルカ、(答)ハイ、御借  
 申シタノハ餘程アトノコトデアリマシテ、昨年御返済申シマシタ、(問)ソレデニ  
 十六年ノ十一月ノ十三日ト十四日トニ錦織剛清、山口淳、其他五名都合七名ノ  
 証告事件ニ就テ、證人トシテ豫審判事ノ呼出ヲ受ケテ出頭シタノカ、(答)ハ  
 イ、左様デゴザリマス、(問)其時分ニ山口淳ガ錦織剛清ナド、會合シタコトガア  
 ルカト尋テラレタ所ガ、サウ云フコトハゴザリマセント答ヘタガサウカ、(答)左  
 様デゴザンス、(問)サウ云フ時ニドウ申立ヲシタカ、(答)私ハ昨年ハ患ラツテ居  
 リマシタモノデアリマスカラ、餘リニ階ニ出マセンテ、女中ニ任セテ置キマシ  
 タカラ頼ト御答ヲスルコトハ出来マセヌ、(裁判長)ウム……、(被告)御答ヲスル  
 コトハ……昨年ハ入ラツシヤイマシタガ、當年ハ餘リ入ラツシヤイマセヌト申  
 シマシタ所ガ、行カナイコトハナイ、二三度行ツタト云フ證人ガアルト云フコ  
 トノ仰セデゴザリマシタガ、ソレハ覺ヘテ居マセヌカラ、宿ヘ戻リマシテ篤ト

調ベテ申上マスト申シテ其節ハ戻リマシタ、(問)宿へ歸ツテ篤ト調ベテ申上マ  
 スト言ツテ歸ツタト云フデハナイカ、(答)へー、左様デゴザリマス、(問)ズレカ  
 ラ歸ツテドウシタ、(答)心覺へノ帳面ヲ調ベマシテ申上マサル積リデゴザリマシ  
 タガ、御搜索ガゴザリマシテ御封印ヤ何カ、附イテズザリマシタカラ、女中達ニ  
 凡ソヲ聞キマシテ……、私ハ餘リ二階ニ出マセヌモノデアリマスカラ、女中達ニ  
 凡ソヲ聞キマシテ翌日出マシテ、山口サンガ五、六度モ參ツタト云フコトヲ申上  
 ケマシタ、(問)女中達ト云フノハ誰カへ、何ト云フノカへ(答)りよト云フノト、  
 ソレトくにト申シマスノト……、(問)りよトくにカへ、(答)へー、(問)ケレドモ  
 山口ガ來タコトハ承知シテ居ルダラウ、(答)へー、(問)山口ガ春以來夏來タコト  
 ハ承知シテ居ルダラウ、(答)へー、(問)錦織剛清ガ二遍ホド來テ居ルノハ承知シ  
 テ居ルガ名ハ知ラナカッタ、六七月頃ニ二度來タト云フノデアルガ、山口ノ來タ  
 ノハ能ク知ツテ居ラウ、去年ノ六月以來來タコトハ知ツテ居ラウ、(答)左様デゴ  
 ザリマス、御出ニナリマシタラウガ私ハ頓ト覺ヘマセヌ、(問)御出ニナツタラウ  
 デ御坐リマセウガ存シマセヌト云フノカ、(答)ハイ、(問)ケレドモ山口ガ七月以  
 來來タト云フコトハ知ツテ居ルダラウ、(答)御出ニナリマシタデゴザリマセウ

ガ……、(問)知ツテ居ルンデアルニ、ドウカ其方ニ聞クンデアル、(答)へー、(問)  
 七月以來山口ガ來タコトハ知ツテ居ラウ、(答)左様デゴザリマス、(問)……、  
 (問)其事ハ豫審廷ニ出ルマイニ知ツテ居ルダラウ、二十四年カラ月ニ二三度モ  
 來ル人デアアルカラ、去年ノ七月以來山口ガ來テ居ルコトハ知ツテ居ルダラウ、錦  
 織ノ名前ハ知ラヌガ山口淳ト錦織ト其ノ方ノ家ニ……、(答)參リマシタデゴザ  
 リマセウガ、ツイ私ニハ覺ヘガゴザリマセヌ、(問)覺ヘガナカッタノデアアルカ、  
 覺ヘナカッタノデアアルカ、(答)ハイ、(問)覺ヘガナカッタ所ガ自分ノ家ニ居ル女  
 ニ尋子テ聞イテ、サウシテ山口ガ來タト云フコトガ分ツタノカ、又錦織ガ來タト  
 云フコトガ分ツタノカ、ドツチカ、(答)山口サンノ御出ニナリマシタコトガ分リ  
 マシタ、ソレカラ其由ヲ豫審テ申上マシタ、(問)スルト何カヘナ七月以來何遍來  
 テ居ルノカ、山口ヲ調ベタ所ガ去年ノ七月以來……、(答)七月以來何遍ト云フコ  
 トハ誠ニ分リ兼マス、(問)帳面ニ附ケテアルノカナナイノカ其事ガ……、(答)附ケ  
 テゴザイマス、(問)附ケテアルノカ、(答)ゴザイマス、(問)ソナラソレニ山口  
 ガ來タト云フコトハ、名前ガ書テアルカへ、(答)御名前ハ餘リ書キマセヌデゴザ  
 リマス、(問)サウスルト何カへ、歸ツテ自分ノ家ノ雇人ヲ調ベタ所ガ何遍來テ

居ルト云フコトガ分ツタカイ、(答)凡ソラ申上マヌガ……(問)凡ソデ宜シイ、何  
 遍來タカ、(答)凡ソ五六度參リマシタ、(問)其五六度來タト云フハ何月ノ何日ト  
 云フコトハ分ラヌノデアルカ子、(答)ハイ、分リマセンデゴザリマス、(問)ソレ  
 カラ錦織ト山口ト兩人デ來タト云フコトハツレモ取調テ分ツタノカ分ラヌノデ  
 アルカ、(答)頼ト分リマセヌデゴザリマス、何デモ私ガ考ヘマスノニ、山口サ  
 ンガ御出ニナリマシテカラ錦織サンガ御出ニナリマシタノダト思ヒマス、頼ト  
 御坐敷ニ出マセヌカラ能クハ分リマセンデゴザリマスガ、御一緒ニ參ツタヤウ  
 ニハ覺ヘマセンデゴザリマス、(問)山口ト錦織ト來テ會フタコトガアルカソレ  
 フ見タコトハアルカ子、(答)ヘー、(問)錦織ト山口ト會フタコトヲ見タノカヘ子  
 ……(答)ヘー、御突合セノ時ニ錦織サンガ仰ツシヤルニハ、節々行ツタト云フ御  
 話シデゴザリマシテ、(問)其方思出シタト云フコトヲ言フテ居タンダ子、(答)ハ  
 イ、(問)サウシテ見ルト云フト自分デハ知ラヌノデアル、詰マリ錦織カラサウ言  
 ハレテ初メテ言ヒ出シタンダ子、(答)左様デゴザリマス、(問)今言ツタノハ何カ  
 ヘ自分ノ家ヘ歸ツテ召使ニ聞イタト云フノハ山口ダケノコトデアルカヘ、又錦  
 織ノ來テ居タト云フコトモ召使カラ話ガアツタノカ、(答)御連様ガゴザリマシ

タカドウカ御客様ノ名前ハ頼ト分リマセム、(問)錦織ト山口ガ來テ會フタカト  
 云フコトヲ豫審廷デ尋チラレタガ答ヘラレヌデ、宅ヘ歸ツテ女中ニ尋チタノデ  
 アラウ子、(答)ハイ、(問)サウスルト何カヘ、錦織ガ來タト云フコトハ、錦織ニ  
 豫審廷デ逢フマデ思出サナカツタノデアルカヘ、自分ノ家デハ分ラナカツタカ、  
 (答)頼ト分リマセン、女中達モ頼ト知リマセヌデゴザリマス、(問)ソレヲ知ラヌ  
 カイ子、(答)ハイ、(問)ソコデ何カヘ山口ガ五、六度來タト云フコトハ取調ヘテ  
 來テ豫審デ申立テタノデアルカ子、(答)十四日ニ豫審廷ヘ出マスルト直グニ申  
 上ル心得デ十四日ニ出マシテ、山口サンガ五六度御出ニナツタト云フコトヲ申  
 上マシタノデゴザリマス、錦織ハ、ト云フ仰セデゴザリマシタモンデアリマス  
 カラ、錦織ト云フサウ云フ御方ハ存シマセシト申上タノデゴザリマス、(問)豫  
 審ノ方デ申立テアル所ヲ見ルト詰マル所、山口ガ來タノハ承知シテ居ルガ、同  
 人ガ來タト云フコトヲ言ツテハ不都合デアルト思ツテ故ラニ言ハヌヤウニ見エ  
 ルガ、ソレハ……、(答)決シテサウ云フ譯デハゴザイセヌム、(問)サウ云フ譯  
 デハナイト……、(答)決シテサウ云フ譯デハゴザイマセヌ、(問)サウシテ見ル  
 ト詰ル所、斯フナルノカナ、初メ十三日ニ豫審廷ヘ出テ來テ當年山口ガ來タコ  
 七十七

トガアルカト云フコトヲ尋テラレタラ、自分ハ病氣ナドテ其事ハ能ク承知シテ居ラヌカラ知ラヌト言ツタノデアルナ、(答)ハイ、(問)ソレカラ段々尋テラレタニ就テ、ソレナラ尙取調ノ上申立ラヌルト云フテ一應宅へ歸ツテ、又十四日ニ出テ來タノカ、(答)左様デゴザイマヌ、(問)取調タ所ガ五六月以來五六度來テ居ルコト云フコトヲ女中共ニ聞イタラ、五六度來テ居ルコト云フコトデアアルカラ、ソレヲ直チニ豫審廷テ申立テタト云フノデアアルナ、(答)左様デゴザリマヌ、(問)ソレデ錦織ハドウカト云フト、錦織ト云フ人ハ知ラヌカラ知ラヌト云フタ、(問)所デ同人ト突合セニオツタ所ガ節々行ツタト云フノデアアルカラ、ソレカラ考テ見テラニ遍程御出ニナツテ居ルト、斯フ云フ申立デアアルナ、(答)左様デゴザリマヌ、(問)違ヒナイナ、(答)ハイ、(問)豫審判事ニハ斯フ云フテ居ルナ、(答)ハイ、(問)森辯護士 只今被告ニ御確タニナツタ御言葉ノ中ニ於テ、被告ガ先刻來申上タ言葉、ト少シ行違ヒガアラウト思ヒマヌカラ、此点ヲ尙御確メヲ願ヒマヌ、山口ノ參ツタ五六度ト云フモノハ、裁判長ハ七月以後ト申サレマシタガ、被告ノ申立ハ辯護士ニ於テハソウ聞取マセヌ、

○(問) 七月以來五六度ト云フノカ、(答)ハイ、(問)春以來五六ト云フノカ、(答)

ハイ、

○森辯護士 春以來……サウナレバ宜シイノデアリマヌ、ソレデ七月以來ト云フ裁判官ノ……

○(問) 春以來ト云フノ申立ハ分ツタガ、何月ノ何日ト云フコトハ分ラヌカイ、凡ソハ知ラヌカイ、(答)凡ソト云フコトデゴザリマヌデ、二月頃カ……三月頃カ四月ニト申上テ置キマシタ、(問)二月頃、三月頃、四月頃ニ五六度ト云フノデアアルカハ、サウヌルト七月以來ト云フノハ一遍モナイノカ、(答)ソレモ申上ケテゴザリマヌ、(問)春以來ハ何時マデ五六遍ト云フノデアアルカ、(答)ソレモ申上ケテモ、分リマセヌ、(問)凡ソモ分ラヌカ、(答)春以來凡ソ五六回ト云フハ何時頃マデニ五六回ト云フノデアアルカ、(答)四月マデ、テゴザリマヌカ五月マデ、(問)何時マデニ五六度ツ、ト云フノデアアルカ、(答)四月五月マデニ五六回、(問)サウヌルト七月以來ハ一度モ來テ居ラヌコトニナルカ、(答)二度程御出ニ爲ツタト云フコトヲ申上ケテ居リマヌ、(問)春以來七月マデ五六度……

其ノ方ガ豫審判事ノ呼出ヲ受ケテ尋テラレタ時ニ、二度程ト云ツタノデアルガ、二度程シカ覺ヘテ居ラヌカ、(答)ハイ、(問)サウスルト二度ト云フハ七月後呼出シマデニ二度程ト云フノデアルカイ、(答)覺ヘテ居マセシゴザイマス、(問)サウスルト覺ヘテ居ラヌノダチ、七月以來二度程ト云フノモ覺ヘテ居ラヌノカチ、(答)サウ云フコトハ覺ヘテ居マセヌ、何ンデモ豫審廷デモ申上マシタガ、錦織サシノ御出ニナツタノハ、單衣時分ト私ハ考ヘテ居リマス、(問)其通りノ事實デアツタナラバ何ゼ其ノ通りニ申立テナカツタカ、斯クノ如ク言フデアルノハトウダ、今ノ通りノ事實デアラナラバ、其通りニ言ツテ居ラナケレバナラヌガ、豫審ニ於テハ決シテ虚偽リハ言ハヌ、又何事モ隠スコトハシナイ、有様ニ申立マスルト云フノデ式ニ依テ宣誓ヲシテ居ルノデアラウ、若シ其事ヲ偽ルヤウナコトガアツタラバ、偽證罪ニ處セラル、ト云フコトヲ豫審判事ガ申シ聞カシテ居ルダラウ子(答)私ハ病氣デゴザイマシテ二階ニ餘リ出ナイモノデアリマスカラ、ソレ故ニ頼ト分リ兼チマシテ申上ケマシタデゴザイマス、(問)斯フ云フテ居ル故、豫審ノ始メニ、斯フ云フ申立ヲシテ居ル子、寧ソ調書ヲ讀ミ聞カセタ方ガヨカラウ子、斯ウ言フテ居ル(裁判長豫審調書ヲ朗讀ス末項參看)斯フ言

フテ居ルガ此通りニ違ヒナイカ、コレハ十三日デアツテ本年ナドハ一度モ御出ニナラヌト言フテ居ル、所ガ行カヌト云フコトハナイ、一緒ニ二度程行テ居ル、證據ガアルヲ問ヒ詰メタ所、ソレデハ、此ノ事ヲ調ベテ申上ケマス、ト云フコトニナツタノダガ、ソレニ間違ヒナイカチ、(答)頼トツイ……、(問)ソレカラ今度十四日ニ、申立タチ、今其方ガ言フニハ四日ニ直クニ取調べテ、五六度御出ニナツタト御答ヲシタト言フ、所ガ斯フ言フテ居ル子、讀ミ聞カセルカラ聞テ居レ……(書記豫審調書ヲ朗讀ス末項參看)(問)二番目ニ此通り言フタコトハ違ヒナイカイ、十四日ニ出テ來タ時、今讀ミ聞ケタ通り言フタニ違ヒナイノカ、ドフシテ隠シテ居ルノカ、七月以來二遍來タト云フコトヲ尋テ居ル子、(答)ソレ故御出ニナツタト云フコトヲ申上ケマシテ、帳場マデ御出ニナツタト云フコトヲ……(問)一寸帳場マデ來タト云フコトヲ申立テ、居ル子、(答)御出ニナリマシタモトモアリマシテゴザイマス、其前ニ二度程御出ニナリマシタト云フコトヲ申上ケテ居リマス、(問)被告人ニナツタ時ノ、取調書ヲ今讀ミ聞ケルカラ聞イテ居レ、(書記豫審調書ヲ朗讀ス末項參看)(問)今讀ミ聞ケタ此書面ニ據テ見ルト、山口ト錦織ト會ツタコトハ知ツテ居ルガ、山口カラ、弟ト會合ヲシタコト

ハ言フテ呉レルナト云フ、口留メガアルカラ、其事實ヲ言ハナカツタト言フノ  
 デアル、(答)決シテサウ云フ譯デハゴザイマセン、(問)ケレドモ今讀ミ聽カセタ  
 ノニハサウイッテ居ル、(答)弟ト來タノハ言ツテ呉レルナト、頼マレタラウト、  
 ヌツシヤイマスノデ、ソレハ、錦織サンガ、言ツタノデ御座イマス、(問)錦織ガ  
 言ツタノカ、(答)ハイ、尤モ何時カ前ノ處ヘ弟ト行タコトハ言ツテ呉レルナト  
 ……、山口サンハ前ノ方ノ名前モアルニヨツテ、弟ト來タコトハ口留メラシ  
 タガ、モフコレハ、申上ケタ方ガ宜シイト、錦織サンガ、私ニヲツシヤッタノデア  
 リマス、(問)其方ニ山口カラ言ツテ呉レルナト、口留メラシテ居ルガ…誠ニ  
 相濟ミマセヌ、山口ガ來タト云フコトハ言ツテ呉レルナト、仰セラレマシタカ  
 ラ、ソレ故申上ケマセナデ御座イマス、コフ言ツテ居ルデハナイカ、(答)御  
 出ニナリマシテモ、私ノ名前ヲ餘リ書イテ呉ルナト、云フ事ハ、常ニオツシヤ  
 イマスモノデ御座リマスカラ、ソレ故ニ申上ケマセヌデシタ、(問)弟ト來タコ  
 トハ、決シテ言ハヌヤウニシテ呉レド…、(答)錦織サンガ、私ニ申シマシタ、私  
 ハ錦織サンノ言イマシタコトヲ、其儘申シマシタ、色々御尋テゴザリマシタ  
 カラ…、(問)弟ト來タコトハ、決シテ言フテ呉レルナト、言ツタノハ、山口ガ其

方ニ頼ンダヤウニ見ヘルデハナイカ、(答)山口サンカラ、頼マレマシタコトハゴ  
 ザリマセヌ、(問)ソシナラ、錦織カ弟ト來タト言フテ呉ルナト頼マレテ…、(答)  
 弟ト來タコトハ言ツテ呉ルナト云フコトヲ、頼マレタノデ、アラフ云フコトヲ  
 錦織サンガ、私ニ申シマシタ、ソレ故ニソレヲ申上ケマシタ、(問)少シ分ラヌデ  
 ハナイカ、之レマデハ、ナンジャナイカ、實際知ツテ居ルノデアアルケレドモ、山口  
 ニ頼マレタコトデアアルカラ、其人ノ迷惑ニナツテハ、イカネト思ツテ、錦織ニ會  
 フタト云フコトヲ、言ツテハ、イケネト思ツテ、隠シテ居ツタガ、豫審判事カラ、  
 度々説諭ヲ受ケテ居ツタケレドモ、山口カラ、頼マレタコトハ、云フテハナルマ  
 イト、思ツテ、隠シテ居ツタケレドモ、其會フタ、錦織ト云フモノガ出テ居テ、お  
 前サンサウ云フコトヲ言ツテハ、却テ爲メニナラヌカラ、會フタラ會フタト言ツ  
 タラ、ヨカラウト、云フノデ、此所デ言ツテモ、ヨカラウト思テ、否ヤ思ヒ出シマ  
 シタト言ツテソレカラ言ツタデハナイカ、(答)左様ナ譯デハアリマセヌ、(問)ソ  
 レナラ是ハドフ云フ譯ダイ、弟ト云フノハ、錦織カトお尋デゴザリマシタカラ、  
 左様デ御座イマスト言ツテ居ル、是レハドフ云フモンダイ、(答)ソシナコトヲ、申  
 上ケマシタコトハゴザリマセヌ、(問)錦織ガ弟ト會フタト云フコトハ、言ツテ呉



ルナト、山口ガ言ツタト豫審デ言ツタナド、ソウ云フコトハナイダラウ、弟ハ錦  
 織ノコトカト云ハレタラ、左様デゴザリマスと言ツタノハ、ドフ云フタカイ、(答)  
 私ハ錦織サンガ山口サンノ弟ト云フコトヲ聞キマセヌノデ、御坐リマス、豫審デ  
 ソレヲ聞キマシタ、(問)錦織ガ弟ガ山口カ弟カ其人ヲ見テモ、譯ルジヤナイカ、  
 山口ハ年ガ二十三デ、錦織ハ三十九ダカラ、錦織ノ方ガ弟ト云フコトハ見ヘヌジ  
 ヤナイカ……ジヤーマアソウ思フテ居ルナラ、思フテ居ツタニシタ所ガ、左スレ  
 バ、山口ヲ助ケルタメニ山口ノ頼ミヲ受ケテ、是マデ、偽リノ證言ヲ致シタカト  
 スフ尋子タ時ニ、誠ニ相濟ミマセヌト申シタノハドウダ、申シタカイ、(答)左様  
 デゴザリマス、(問)山口ヲ助ケルタメニ偽リヲ言フテ居ツタカト言フタラ、ヘ  
 左様デゴザリマス、誠ニ相濟ミマセヌト言フタガ、アレハ、ドウダ、エー、(答)何ヲ  
 申上ケマシタカ、誠ニ相濟ミマセヌデゴザリマス、(問)何ヲ言イマシタカ、相濟  
 ミマセヌト云フ事ハドウ云フコトニナルカイ……、山口ヲ助ケルタメニ之レデ  
 偽リヲ言ツタノダナ、サウカ、サウカイ、ドウ云フ考ヘデアツタカ、其時自分ノ考  
 フ聞キサヘスレバ宜シイ、豫審廷デアノ通り、言フタノハ、詰マリ山口カラ、金ヲ  
 借リテ居ツタカラ、太事ノ御答サンデ、度々遊ビニ來ル其人ガ、會フタト言フコ

トヲ言フテ呉レルナト頼ンダカラ、山口ヲ助ケルタメニ豫審廷デ偽リヲ云ツタ  
 カ、又ハ、サウデナクテ一向サウ云フコトニ氣モ付カズシテ言フタノデアアルカト  
 言フ事ヲ聞ケバヨロシイ、ドツチダナ、(答)私ハ一向氣ガ付キマセヌデ申上ケマ  
 シタ、(問)山口ヲ助ケルタメデモナインダナ、(答)ハイ、(問)モウ一遍聞テ置カ  
 ナケレバナラヌガ、昨年來、山口ガ度々錦織ト會合シタコトニ就テ、然ラハ其實  
 ヲ申立テヨト申聞ケ、尙家宅搜索マテシテ、山口ガ度々其方ノ宅ヘ行ツタコトガ  
 分ツタニ拘ラズ、尙偽リヲ申シテ言ツタノハ、何か山口ニ縁故ガアルノカスフ云  
 フテ尋子タ時ニ、一昨年ノ十二月ニ二百五十圓山口サンカラ拜借シテ、本年九月  
 時分、返却シマシタノデゴザリマス、斯フ云フテ居ル所ヲ以テ見ルト、詰マリ二  
 百五十圓ノ金ヲ借リテ、居ツタカラ、錦織ニ面會シタコトハ、故ラニ隠シ居ツタ  
 ノデハナイカ、(答)私ノ申上ケヤウガ、ワルカツタノデ、十三日ノ日ニ豫審廷デ  
 預ツタモノガアラフ、山口カラ預ケタラフト、御尋デゴザイマシタカラ、何モ預  
 カツタモノハナイト申上ケテ、家ヘ參リマシテカラお上ノコトデアルカラ、れ金  
 ヲ借リタコトモ、申上ケナケレバナラヌト存ジマシテ、其事ヲ申上ケマシタノデ  
 ゴザイマス、れ金ハ御返濟申シタノデハ、御座イマスガ、如何ニモ一度拜借致シ

マシタモノデゴザイマスカラ、其事モ申上ケナケレハナラヌト存ジマシテ、申上  
 ゲマシタノデゴザイマス、(問)ケレドモマタナンジヤイナイカ、今ノ其緣故ト言  
 フノハ金ヲ借リタ緣故デアラウ、且口留メガアツタカラ言ハナカツタノデア  
 カト言フタラ、誠ニ恐入ルト言フタノデハナイカ、(答)左様デゴザリマス、口留  
 ト云フコトハツイ伺ヒマセンデゴザイマスモンデスカラ……、(問)是ニ依テ見  
 ルトドウモ金ヲ借リタリ口留ガアツタカラ隠シタト自分ガ白狀シテ居ルヤウニ  
 ナツテ居ルガ……、(答)決シテ左様ナ譯デハゴザリマセヌ、(問)此通り言ツタニ  
 違ヒナイカ、(答)御金ヲ借リタ故ニ口留ヲサレテ申上マセン何シカト云フコト  
 ハ更ニ申上マセヌ、又私ニ金ヲ貸シテ遣ルカラ此事ハ黙ツテ居テ吳レト言ツテ  
 御出ニナツタコトハ唯ノ一度ゴザイマセヌ、(問)ソコデ一寸聞クガ子、十四日ノ  
 日ニ錦織ト突合セニナツテ思ヒ出シタト云フノハ何ヲ思ヒ出シタノダドレダケ  
 ノコトヲ……、(答)ソレハ御座敷ガゴザイマセヌデシテ帳場ニ御出ニナツタ時  
 ニ御顔ヲ……、(問)帳場へ來タ時ニ錦織ノ顔ヲ見テ錦織ガ來タト云コトヲ思ヒ  
 出シタ……、(答)左様デゴザリマス、(問)山口ニ會フタト云フコトモ思出シタカ  
 (答)ハイ、(問)何故思出シタ時ニ思出シタト云フコトヲ言ハナカツタ、(答)其時

二遍程御出ニナリマシタト云フコトヲ申上マシタ、大變其前カラ叱ラレテ居リ  
 マシテ、控ヘテ居レト云フ仰セデゴザリマシテ、暫ク腰掛ニ控ヘテ居リマシタ、  
 (問)二遍程カ、(答)ハイ、二遍ホド御出ニナリマシタ、其時モウ宜シイト云フ御  
 意デゴザリマシタ、ソレカラ又御呼出ガゴザイマシテ、止メ置クトカ何ントカ  
 仰ツシヤイマスノデ、錦織サンガ大層御詫ラシテ吳レマシタデゴザリマス、  
 ○裁判長 檢察官ニ於テ何カ事實ニ於テ御尋ニナリマスコトガゴザイマスナラ  
 バ……、

○檢察官 被告人(被告加藤)ハイ(問)今裁判官カラ御尋ニナツタ通り、即チ  
 お前ガ十四日ノ日ニ錦織カラ説諭ヲ受ケテ、誠ニ恐入リマシタ、思出シマシタト  
 言フテ居ル子、アノ先カラ山口ト錦織ト來タコトヲ云ハウト思ツテ居ツタガ  
 ドウダ誠ニ恐入リマシタ思出シマシタト言フテ居ル、アレカラ先キハ山口ヤ  
 錦織ガ來タト云フコトヲ豫審判事ニ申立テ積リデアツタカ、(答)言ハナイデ  
 宜シト思ヒ出シタト云フ、アレカラ先キハ錦織ト山口ト來タコトヲ言ハウト  
 思ツテ居ツタト云フノデアルカ子、(答)ソレハ分リマセンデ……、(問)アレカラ  
 言ハウトシタ所大變御叱リニナツテ言ハナイデ宜シト言ツタト言フノデア  
 ル

カ(答)言ハナイデ宜シイトハ御意ガゴザイマセヌ、(問)誠ニ恐入リマシタ思出シタト云フアレカラ先キハサウズルト言ハウト思ツタノカナ、(答)錦織ノコトヲ思出シタト云フコトヲ申上マシタ、(問)サウスルト思出シタト云フハ何ヲ思出シタノカ錦織ト云フコトヲカ、(答)錦織ノ顔ヲ……、(問)ソレデハ分ラヌ、尋子直スガ、思出シタト云フハ、是カラ先キニ錦織ト山口ガ來タト云フコトヲ言ハウト云フコトヲ思ヒ出シタト云フノデアアルカ、(答)ソレハ御出ニナツタト思出シマシタノデ……、(問)併ナガラ其次ニ調ベラレル時ニ言フテ居ルジヤナイカ、(答)其時ニ思出シタノデ……、

○檢察官 是丈ケニシテ置キマシヤウ、

○裁判長 何ニカ辯護人カラ尋ヌルコトハアリマセヌカ、

○森辯護士 ハ一寸一ツ……、只今檢察官ノ御言葉ニ、思出シマシタト云フタ其時ニ事實ヲ申立テルト、被告ガ答ヘタト云フヤウデゴザイマシタガ、其所ヲ一應御確メヲ願ヒマス、(裁判長)別ニコロト云フ委シイコトハ言ハナカツタヤフデアアルガ子、(森辯護士)ソレデハ、其儘デ、ソレデ、宜シウゴザリマス、別ニゴザイマセヌ、

○裁判長 何ニカイ、其方カラ、今申立テタ外ニ何か申立テルコトモ殘ツテ居ンナラバ、充分申立テ、ヨロシイカラ、言フコトガアルナラバ充分ニ申立テルガヨロシイ、(答被告加藤)別ニ御座イマセン、(問)モウ言フコトハナイカ子、(答)ハイ、  
○裁判長 マダ外ニ、證人參考人ノ調書、小澤さみトカ小西花、其他榊原常吉杯ノ取調ハ、辯護人被告人カラ朗讀ノ請求ガアルナラバ讀聞カセルガ、請求ガナケレバ略スガ、ドウダ子、讀聞カセナクトモ宜シイカナ、○森辯護士宜シウ御座イマス、略シニナツテ宜シウ御座イマス、(裁判長)異議ハナイカ、辯護士ハ讀聞カセナイデモ、差支ナイト云フガ、被告人ハ讀ミ聞カセナクモ差支ナイカ、被告(わか)ハ宜シウ御座イマス、(裁判長)一寸之レヲ……(證書ヲ被告人及辯護人ニ示ス)二百五十圓ノ借用證文ト云フノハソレカイ、(被告わか)左様デ御座イマス、(裁判長)ソレニ違ヒナイ子、(被告わか)ハイ違ヒアリマセン、(裁判長)被告人ノ方ニ於テ利益ニナル證據ガアルナラバ差出スコトガ出來ルノデアアルガ、何か自分ノ方ニ利益ニナル證據ガアルカ、(被告わか)別ニ何モ御座イマセン、  
○裁判長 ソレデハ檢察官辯論ヲ……、

○檢察官 當被告事件ニ就キマシテハ、既ニ公訴ノ趣意ヲ述ブルニ當ツテ、陳述シタ通リテ御坐イマシテ、偽證被告事件トシテ、公訴ヲ求メタノデアリマス、然ルニ、今ヤ、既ニ當法廷ノ審理ヲ了リマシテ、事實モ一層明白ニナツタ次第ト考ヘマス、故ニ本官ハ、刑ノ適用ヲ述ブル前ニ當リマシテ、當被告事件ニ對スル本官ノ意見ヲ一應述ベヤウト思ヒマス、凡ソ此ノ偽證ノ罪ニ就キマシテハ、即チ三ツノ條件ガ必要デアアル、第一ハ、裁判所ヘ證人トシテ呼出サレテ、陳述スルコト、第二ハ、刑事被告人ヲ曲庇陷害スルト云フコトデアアル、第三ハ、即チ事實ヲ知立ヲシナイト云フコトハ、裁判官モ御承知ノ事デアラウト考ヘマス、然ルニ既ニ公訴ノ事實ニ於テモ、述ベマシタ通り、尙被告事件ニ就テハ、詰マリ刑法第二百十八條ノ偽證罪トシテ、本官、訴ヘタゾデアリマス、第二ノ條件ニ就テハ、被告人ガ曲庇陷害スルト云フ事柄ガアレバ宜シイノテ御坐イマス、即チ此偽證被告事件ノ被告人加藤あかノ所爲ハ、果シテ此三ツノ條件ニ該ルモノデアルガ、適合スルモノデアルカ、否ヤ、ト云フコトヲ即チ當被告事件ニ就テ順次ニ述ベヤウト思ヒマス、

即チ第一ノ点ニ就キマシテハ、被告加藤あかハ既ニ先刻朗讀ニ爲ツタ所ノ明治廿六年十一月十三日ニ、豫審判事ガ、即チ發シタル處ノ正式召喚ニ應シテ、出テ來テ、要スルニ東京地方裁判所ノ豫審廷ニ出テ來タ、サウシテ、錦織剛清外六名証告被告事件ニ就キマシテ、證人トシテ取調ベルコトニナツタ、則チ式ニ從テ何事モ隱サヌ、又附加スルコトモセヌト云フコトノ誓イヲシタノデアリマス、既ニ誓ヒヲシテ取調ベテ受ケル以上ハ、第一ノ條件、即チ證人トシテ、取調ベルト云フ、條件ニ無論該ルノデアリマスカラ、此点ニ就キマシテハ、事實ガ簡單デ別ニ辯スベキコトモ御座イマセヌ、

第二ノ点ニ就キマシテハ、即チ廿六年十一月十四日ノ豫審調書デアリマス、其調書ニ於テ誠ニ相濟ミマセヌ、山口サンガ、來タト云フテ、吳レルナト云フ仰セデアリマスカラ、ソレ故申上ケマセシタト云フコトガ、一ツデアリマス、ソレカラ又弟ト來タコトハ、決シテ言フテ吳ルナト言イマシタノデス、弟トハ、錦織デアルカ、ハイ、左様デ御座リマス——左スレバ、山口ヲ助ケルタメニ山口ノ頼ミヲ受ケテ、是マテ偽リノ證言ヲシタノカ、ヘー誠ニ相濟ミマセヌ、金ヲ借リタル緣故ガアルカラ偽リヲ言フタノカ、誠ニ恐入リマシタ——大要斯ノ如キモ

ノデアリマス、

右ノ申立テニ依テ見マヌル時ハ、被告わかガ詰マリ法廷ニ於テ偽リノ陳述ヲシタノハ、嘗テ二百五十圓ノ金ヲ借用シタカラ、山口カラ、錦織剛清ト、香川亭ニ會合シタコトハ、堅ク言ツテ呉ルナト云フ口留メガアツタカラ、ソレヲ守ツテ申立テヲシナカツタノデアアル、斯フ言フ事實ニ過キナイ、詰マリ、右ノ申立ニ依テ考ヘマヌル時ニハ、被告ハ、山口ノ依頼ニ依テ、山口ヲ助ケル爲メニ、事實ヲ申立テヌコトニ詰マリナリマス、既ニ頼ミヲ受ケテ、山口ノ爲メニ、事實ヲ申立テナカツタ、即チわかノ所爲ハ、刑法ノ刑事被告人ヲ曲庇スルト云フコトニ該ル、詰マリ刑事被告人山口淳ヲ、助ケル所ノタメニ申立ヲシナカツタト言フコトニ當リマス、然ルニ當法廷ニ於キマシテハ、被告ハ、山口ヲ助ケルタメデハナイ、實ハ自分ガヨク記憶シテ居ラヌタメニ、顛倒シタ所ノ申立ヲシタト斯ク申シテ居リマス、併ナカラ、豫審調査ニ依テ其順序ナドヲ能ク見マスルト、曩ニ裁判長カラ、問ハレタ通り、弟トハ錦織デアアルカト云ヘバ、左様デ御座イマスト云フテ居ル又其次ニ至テ、山口ヲ助ケルタメニ是マデ偽リヲ言フテ居ルカト云ヘバ、誠ニ濟ミマセヌ——斯フ云フ答モ出テ居ル、シテ見ルト、詰マリ豫審ニ於テ被告ノ申立テ

タ事柄ハ、事實デアツテ、今日ハ其申立ヲ言換ヘタルコト、存ジマス、詰マリ豫審調査ニアル通りノ事實、アレガ確カデアラフト考ヘマス、此点ニ於キマシテモ、被告ノ罪ハ偽證罪構成ノ第二ノ條件ニ當ラウト云フコトハ明カナ次第デアラウト考ヘマス、

第三ニ於キマシテハ、被告わかハ豫審廷ニ於テ、果シテ不實ノ申立ヲシタカ、ドフカト云フ斯フ云フ点デアリマス、即チ明治廿六年ノ十一月十三日ニ、誣告被告事件ニ就キマシテ、被告人ガ、證人トシテ豫審判事ノ取調ヲ取ケタ所ノ第一回ノ調査デアアル、其時被告わかハ、豫審判事ノ尋問ニ對シマシテ、山口サンハ、本年ナドハ碌々御目ニ懸リマセヌ、本年ハ一度モ御出ニナリマセヌ、斯フ云フ申立ヲシテ居ル、既ニ其点ニ就キマシテハ、違ツタ申立ヲシテ居ル、而シテ十一月十四日ノ調査ニ於キマシテ、即チ豫審判事ガ、第二回ニ取調ベタ所ノ調査ニ於キマシテハ、山口淳ハ其方ノ宅ニ行ツテ居ル、何故ニ、偽リヲ申立テタ、ハイ誠ニ恐入リマシタ、濟ミマセヌ、本年二月頃デシタガ、三月頃デシタカ、山口サンガ一人御出ニナツテ、小とめヲ御呼ヒニナリ、其後四月頃御出ニナリマシテ小とめヲ呼デ、四月頃ハ、三人デ御出ニナリマシタト、確ニ答テ居ル、其後七八月頃、御出ニナリ

マシタ時ハ、座敷ガ塞ツテ居マシテ斷リマシタ、本年七月頃御出ニナリマシタケレドモ、座敷ガ塞ツテ居ツテ帳場デ御茶ヲ上ツテ、直クニ御歸リニナリマシタ。斯様ノ申立デアリマス、又山口ト錦織トドコマデモ一緒ニ來タコトハナイト、剛情ヲ張ルノカト云フ豫審判事ノ尋問ニ對シテハ、全ク御出ニナリマセヌ。斯フ云フ陳述ニナツテ居マス、ソレデ第一回ノ調書ニ於テ、山口ト碌々本年面會ヲセヌト云フコトハ、即チ今申述ベタ所ノ此ノ十四日ノ調書ニ於テモ其大半ヲ取消シテ居ル、併ナカラ尙其一部ニ就キマシテハ、矢張不實ノ申立ヲシテ居ル、其一部分ト云フノハ、即チ七月以後ノコトデアアル、七月以後ノコトニ就テハ、矢張山口ノコトニ就テハ、一向來テ居ナイト云フノ申立テヲシテ居ル、又山口ト錦織トハ一緒ニ會合シタコトニ就キマシテモ、矢張何處マテモ、來ナイト云フヤフナコトヲ申シテ、即チ不實ヲ言フテ居ル、ソコデ豫審判事ハ、証告事件ノ事實發見ノ方法トシテ、豫審取調ノ方法トシテ、錦織剛清ヲ豫審廷ニ呼入レマシテ突合セル事ニ相成ツタ、豫審廷へ呼入レテ被告ニ示シタ、被告ニ示シタノハ詰マリ被告ヲシテ記憶ヲ惹起サセ、而シテ事實ヲ述ベシメントスルノ取調ノ方法デアアル、ソレ故ニ錦織剛清ニ於テハ、

被告ニ向テ疑ニ朗讀ヲシタ通りノ説諭ヲシタ、説諭ヲシタニ依テ、被告わかハ、恐入リマシタ、思出シマシタト斯フ申立テタ、然ラバ何故偽リノ證言ヲシタカト云フ豫審判事ノ尋問ニ對シテ、實ハ一昨年デシタカ、山口サンニ少シ拜借ヲシマシテ、御恩ニナリマシタカラ申上ケマセンデ御座イマシタト云フコトノ申立ヲシテ居ル、ソコデ詰マリ被告ハ、錦織剛清ノ説諭ニ服シマシテ、尙豫審判事ノ尋問ニ對シテ、是レマデ自分ガ申立テヲシナカツタ譯ヲ申シタ、詰マリ是レマデ述べ來タ所ノ事實ヲ、殆ト取消シカ、ツタ事實デアアル、事實ノ大要ハ合述ベタ通りデアリマスガ、被告ハ則チ第一回ノ調書ニ於キマシテ、偽ツテ居ル、併ナガラ其ノ末項ヲ見ル時ニハ、能ク記憶ヲシマセンカラ、取調ヲスルト云フノ申立デアアル、ソレデアリマスカラ十三日ニ於テ、被告ハ山口淳ガ碌々本年ハ參リマセンデ御目ニ懸リマセント云フタノハ、詰マリ能ク記憶ガナイカラ取調ベテ申上ケマシヤウ、斯フ云フニ過キナイ、過キナイカラ詰マリ十三日ノ被告ノ證言ト云フモノハ、偽證デナイコトハ明カデアラウト考ヘマス、然ルニ第二回即チ十四日ノ調書ニ於キマシテハ、明カニ錦織ト山口ト會合シタコトハナイト申立テカアリマシテ、偽リノ陳述ヲ言フテ居ル、即チ其偽リト云フノ證言ヲ舉

ゲマスレバ、被告、被告人山口淳ノ十一月廿日ノ調書デアル、其調書ニ「本年七月以後二度程錦織ト参リマシタ」ト云フコトガ、山口淳ノ調書ニ書テアル、又此ノ被告事件ノ参考人トシテ取調ベタル五十嵐ノ調書デアリマス、コレハ香川亭ノ女中デアアル、其調書ニ依テ見ルト「錦織剛清ト山口淳ト一緒ニ参リマシタ、二度程参リマシタ」ト斯フ言クコトガ書テアル、又當被告人即チ加藤わかノ十一月廿八日ノ調書ニハ、山口ト錦織ト當年二度程會ヒマシタト云フ申立テガアリマス、此ノ申立テニ依テ見マスルト、被告ハ偽リノ陳述トシテ居ツタト云フコトハ疑ヒナイ事實デアリマス、

右ノ次第デアリマスカラ、第三ニ於キマシテハ被告ハ偽リヲ言ツタニ違ヒナイ、斯クノ如ク分チマスト云フト……斯クノ如ク論ジ詰メマスルト、被告人ノ所爲ト思フモノハ、恰モ偽證罪即チ成立チノ三ツノ條件ニ當ルモノデアリマス、併ナガラ此ノ第三点即チ事實ノ点デアリマス、今本官ガ述ベマス通りノ事實ハ、偽證罪構成ノ第三ノ條項ニ當ルヤ否ヤ、言ヲ換ヘテ申セバ被告ガ右ニ述ベタ陳述ヲナシタルノハ、偽證罪ヲ犯シタルデアラウカ、偽證罪ハ今ノ陳述ニ依テ既ニ成立シタモノデアアルカト言フ点デアリマス、此ノ點ガ即チ被告事件ノ有罪、無

罪ヲ決スル所ノ要點デアラウト考ヘル、本官ニ於キマシテハ、右述ベタ所ノ事實ニ依ルト、被告加藤わかノ所爲ハ、未ダ偽證罪ヲ成立スルニ足ラヌト考ヘマス、未ダ今述ベタ丈ケデハ偽證罪ヲ成立スルノデハナイ、何故ニ成立ヲシナイカト云フニ、被告加藤わかハ、詰マリ十一月十四日ノ豫審ノ取調ベニ於キマシテハ、豫審判事ノ則チ審理方法事實發見ノ方法ニ依ツテ、錦織剛清ヲ示サレタ、其示サレタ所ノ結果ニ依テ今マデ偽テ居ツタ所ノ申立ヲ止メテ、誠ニ恐入リサシタ、思不出シマシテ下申シテ、既ニ陳述ハ不實ヲ言フタケレドモ、錦織ノ説諭ニ依テ止メテ、尙豫審判事ノ取調ニ於キマシテ、自分ガ不實ヲ言ツテ居ツタ原因モ云フベキ、即チ頼ミガアルカラ、不實ヲ言ツタノデアアル、斯フ言フコトヲ申立テ、居ル、ソレカラ即チ眞實ノ事實ヲ申立テラシタノデアアル、此点ニ就テハ、既ニ當公判廷ニテ裁判長ニ申立テ積リテ、又本官ニ於テ、此點ニ於テハ、頗ル曖昧デアリマスガ、結局是カラ申立ツル積リデアルト云ツタカラ、本官ノ心證ニ合ツテ居ルノデアアル、ソコデ最後ノ陳述、即チ誠ニ恐入リマシテ思出シマシタト云フ陳述ニ依テ見マスルト言フト、被告加藤わかノ申立テノ要點ハ、詰マリ今マデノコトガ、違ツタカラシテ、是カラ眞實ノ事ヲ申立テヤウト云フタ、端緒ヲ

既ニ開ヒタモノデアラウト思ヒマス、詰マリ山口淳ヲ庇陰スルヲ申立テハ、悪  
 ルカツタ下覺ツタカラシテ、是ヨリ眞實ノ事實ヲ申立テヤウトシタノデアリマ  
 シヤウト思ヒマス、然ルニ被告ハ既ニ今マテノ偽リノ證言ヲ止メテ、尙事實ヲ  
 申立テヤウトシタ所ガ、丁度其時ニ豫審ノ調ベガ了ツテ、ソレガタメニ言ハレ  
 ナカツタト云フニ過ギナイ、果シテ右ノヤウニ、本官ガ申立所ノ次第デアレバ、  
 加藤わかハ、未タ偽證シ了ツタモノト云ハレナイ、偽證ヲ試ミタト云ヌ位ノ  
 モノデアラウト考ヘマス、要スルニ被告加藤わかハ、誣告被告人タル山口淳ヲ  
 曲庇スルガタメニ、一旦ハ偽證ヲセント、試ミタレドモ豫審ノ取調ノ執行申ニ於  
 キマシテ、其事ヲ申止シタノデアラウト思ハレマス、詰マリ被告ハ任意ヲ以テ  
 之ヲ中止シタモノトスレバ、其効力ハ恰モ自首ノ如キモノデアラウト考ヘル、又  
 一面ニ於キマシテモ、一旦ハ偽證ヲシタ、併ナガラ裁判官即テ豫審判事ノ取調ベ  
 ニ依ツテ判セラレテ、其眞ノ事實ヲ陳述スルニ至ツタモノデアラウト考ヘマス、  
 ソコデ此點ヨリ論ジマシテモ、被告ノ所爲ハ恰モ未遂ノ如キモノデアアル、既ニ未  
 遂ノ如キモノデアレバ、偽證罪ニ其規定ガナイト云ウコトハ明カナルコトデア  
 リマスカス、本官ニ於キマシテハ、當被告事件ハ到底罪ニナラヌモノデアラウ

ト考ヘマス

右様ノ次第デアリマスカス、刑事訴訟法第二百二十四條、第二百二十六條ニ依  
 テ、被告加藤わかニ對シ無罪ノ判決アランコトヲ希望致シマス、

○裁判長 辯護人ニ讓ルカ、只今檢察官ノ申立テタコトニ就テ、何カ申立ツル  
 コトガアルカ子、(被告加藤)何モ御座イマセヌ、

○森辯護士 此加藤わかノ偽證被告事件ハ、其事實頗ル簡單ノモノデ御座リマ  
 ス、且明瞭ナ事實デ御座イマスカラ、是ニ就テ只今檢察官ノ御論告ヲ承リマス  
 レバ、已ニ公訴權ヲ放棄セラレタノデ御座イマス、併チガラ檢察官ノ公訴權ヲ  
 放棄スルト否トニ拘ハラズ、裁判官ハ相當ノ御判決アルモノデ、萬一檢察官ノ  
 御意見通リニナレバ、辯護人ノ希望モ充ツルノデアリマスカス、辯護人モ檢察  
 官ト同一ノ意見デアツテ、偽證ノ犯罪ハ成立シナイト云フ考ヘデ御座リマス、故  
 ニ此事件ハ如何ニ有名デアリマセウトモ、又如何ニ傍聽人ガ澤山アリマセウト  
 モ、私ハ努メテ贅辯ヲ吐カズ、法律ノ解釋等ニ涉ルガ如キ事柄ハ、成ルベク避  
 ケテ、只偏ニ辯護士ノ責任ヲ盡シ、被告人ノ無罪ヲ希望シテ辯護スルト云フ、即  
 チ事件ノ簡單ナル明瞭ナルト同時ニ、私ハ辯護ヲ簡單ニ致ス積リデアリマス、而



百  
シテ檢察官ノ御意見ヲ茲ニ補フ價直ガアレバ補ヒ、以テ被告ニ對シテ無罪ノ言  
渡ヲ飽クマデ請求致シマス、就キマシテハ、檢察官ハ此僞證罪ノ公訴ノ成立ノ  
コトニ就テ、之ヲ三條件ニ分ツテ論セラレマシタガ、當辯護士ハ尙之ヲ明瞭ナ  
ラシムルタメニ、四ツニ分ツテ聊カ辯スル積リデアリマス、即チ第一ハ刑事裁  
判所ニ於テ證人トシテ呼出サレタルモノナル事、之ガ檢察官ノ云ハル、第一條  
件ト同一デゴザイマス、次ニ第二ト致シマシテ裁判所ニ於テ事實ニ違フタル事  
實ヲ述ベタル事、即チ之ハ犯罪ノ處爲トモ名クベキモノデアルト思ヒマス、第  
三ニ其訴訟事件ニ利害ノ關係ヲ及ボスモノデアル事、第四ニハ即チ故ラニ其事  
實ヲ曲ゲタリト云フ證言ヲ要スル、此四ツニ分ケテ置キマシテ、第一條件ニ就  
テハ更ニ辯スルコトハナイ、法式ノ呼出ヲ受ケ、制規ノ宣誓ヲナシテ此被告證  
人トナル資格ヲ有シタモノデゴザリマス、是ハ何モ論ズル必要ヲ見マセヌ、併  
チガラ第二ノ犯罪ノ處爲トモ云フベキ、裁判所ニ於テ事實ニ違フタル事實ヲ述  
ベタルコト、此點ニ就テハ聊カ辯明ヲシテ置カナケレバナラヌト思ヒマス、即  
チ被告ガ證人トシテ取調ヲ受ケタル十一月十三日ノ證言デゴザイマス、是ハ矢  
張檢察事ノ御意見ノ如ク、其最終ニ至ツテ、最終ノ答ニ左様デゴザリマスガ、ド

ウモ氣ガ附キマセンデシタカラ、篤ト取調ヲ申シマセウト言ツテ、豫審廷ヲ退  
テ居ル以上ハ、十三日ニ僞證ト見ルベキ點ヲナイコトハ明カデアリマス、又僞  
證ノ處爲ト見ルベキ廉ハ更ニナイノデゴザイマス、併チガラ第二回ノ調書即チ  
十四日ノ尋問調書デゴザイマス、其第二回ノ調書ガ果シテ僞證ト云フコトガ出  
來ルヤ否ヤ、即チ僞證ノ處爲アルト認ルコトガ出來ルヤ否ヤト云フノガ、十四  
日ノ第二回尋問調書ニ在ルノデゴザイマス、ソコデ第二回尋問調書ノ第一問答  
ヲ見マス、先刻裁判長ヨリ御讀聞ケニナリマシタ所ノモノヲ見マシレバ、其  
方ハ何故僞リヲ申立テタカ、答、誠ニ恐入リマシタ「斯フ云フ第一問答ヲ以テ始  
メテ居マス、ソレカラ取調ベテ申立テ居ルコトハ即チ山口淳ガ、被告ノ宅へ五六  
回來タト云フコト、及ビ其時ニ呼寄セタル藝妓ノ名前、宿泊人マデ被告人ハ詳細  
ニ答ヘテ居マス、ソレカラ其次ニ至ツテ、山口淳ト錦織剛清ト何所マデモ一緒ニ  
來タコトハナイト剛情ヲ張ルカトノ問ニ、其折ノ答ニハ「全ク御出ニハナリマ  
セヌ」ト此所デ剛情ヲ張ラウトシタデス、此問答ハ即チ之ガ僞證ニナリサウ  
ナモノデアアル、現ニ來テ居ルノニ、飽クマデ剛情ヲ張ルカト言フタラ、全ク御  
出ニナリマセント申シマシタカラ、之ガ僞證ノ處爲トモ云フベキコトデゴザイ

マス、サウデナケレバ、他ノ問答ニ於テ一モ偽證トナルベキ所爲ガ見ヘマセン、然ルニ猶次キニ斯ウ云フ問答ガアル、即チ錦織ヲ呼入レテ、被告人ニ錦織ヲ示シテ尋テ、此人ガ山口ト共ニ來タコトハナイカ、錦織ハ此人デアアルカ山口ト共ニ來タコトハナキヤト再應尋問セラレタニ當テ、被告ハ答テ曰ク、「恐入リマシタ、思出シマシタ」ト答ヘマシタ、如何ニモ此間ニ錦織ガ被告ヘ注意デアアルカ説諭デアアルカ種々申述タ事柄ガアリマス、兎ニ角其問答ト云フモノハ豫審判事ガ錦織ヲ呼入レテ、錦織ヲ示シテ被告ニ問フテ言フニハ、此人デアアルガ、山口ト共ニ來タコトガアルカナイカト尋テマシタ其折ノ答ニ、「恐入リマシタ、思出シマシタ、山口淳ト錦織剛清ト御出ニナツタコトガアリマス」ト云フコトガアル、此言葉ノ中ニ明カニ現ハレテ居ルノデアリマス、ツレカラ其次ニ何故ニ今迄言ハザリシト言フ問ガアリマス、「是ハ斯フ言フ譯デ私ガ言ハナカツタノデアリマス、即チ山口ニ對シテ借金ガアリマス、假令ヒ其金ハ返シタニセヨ、御金ヲ借テ恩義ガアリマスカラ言ハナカツタノデアリマス」、斯フ云フ申立ガゴザイマス、ソウシテ見マシレバ、十四日ノ調書ト云フモノハ、其證人トシテ調ヘラレタ最初ニ誠ニ恐入リマスト云フコトヲ以テ始マリ、山口ガ來ナイト剛情ヲ張ツ

タガ、錦織ヲ呼入レテ突ギ合サレタ時、其次ニ豫審廷ニ於テ其時即チ自ラ十分ニ證言シテ居マス、即チ山口サント錦織サント來マシタト言フコトヲ申立テタソレハ「恐入リマシタ思出シマシタ」ト云フ言葉デ明デゴザイマス、然ラバ何故ニ之ヲ偽證ノ所爲ト云フコトガ出來マセウカ、既ニ當辯護士ノ解シ得ナイ所デゴザイマス、抑モ此事ガ其ノ當時ノ檢事、其當時ノ豫審判事モ御氣ガ附カレナカツタノデアアル、豫審判事ハ只今當辯護士ガ申述ヘマシタ、「恐入リマシタ、思出シマシタ」ト云フ言葉ヲ果シテ御注意ニナリ、果シテ御記憶ニナツタナラバ、此訴ハ起ラヌ、今日此法廷マデ此被告ガ引キ出サレテ、斯様ナ耻辱ヲ受フル必要ハナイ筈デアリマス、然ルニ即時十四日ニ告發セラレタル豫審判事ハ又偽證事件ニ就テノ取調ノ主任官トナツテ、即日調ベラレタル十四日ノ被告尋問調書ノ中ニ在ルノデゴザイマス、其折ニ其事實ニ御氣ガ附カレナイノデアアル何ゼ御氣ガ附カレナイカト言フト、斯フ云フ無理ナル問ヲ發シテ居ル、先刻ヨリズウト拙者ガ言葉ヲ盡シテ事實ノコトヲ申立ヨト云フニ、偽リヲ申立テ錦織ヲ呼入レテ山口ト會合シタルコトヲ屢々訊問シタルノニ、尙知ラズト申張ツテ言ツタノハドウ云フ譯デアアル、即チ第一ニ錦織ヲ呼入レテ山口ト屢々其宅ニ行

ツタコトヲ訊問スルノニ、尙知ラズト申立タハドウ云フ譯カ、即チ前述ベマシ  
 タ通り錦織ト突合セタ時ニ、思出シマシタ恐入マシタト言フテ居リマス、然ル  
 ニ尙知ラズト申立タト云フ言葉ガアル、是ニ依テ見マスルト先キニ云フ恐入リ  
 マシタ、思ヒ出シマシタト云フ言葉ヲ忘レ、此事實ニ豫審判事ガ御氣ガ附カレ  
 ナカツタカト思ヒマス、サウシテ見マスレバ既ニ第二ノ條件、犯罪ノ所爲トモ  
 言フ可キ裁判所ニ於テ、眞實ノ事實ニ違ツタルコトヲ述ベテ居ラナイ、却  
 テ事實アツタコトヲ述ベテ居マスカラ、偽證ノ所爲ナシト茲ニ辯護人ハ斷言シ  
 テ憚カラヌ所以デゴザイマス、ソレカラ第三デゴザイマスガ、  
 第三、是ハ此先ノ陳述、即チ偽證ノ事實ガ其訴訟事件ニ、利害ノ關係ヲ及ボス  
 事柄デナケレバナラヌト云フ意見デゴザイマス、  
 此第三點ハ即チ當辯護士ガ當被告事件ヲ辯護スルニ於テ、最モ力ヲ盡シ最モ辯  
 護ノ主要ノ點ト致ス所デゴザイマス、尙此ノ第二ヲ言葉ヲ言替テ申シマスレバ、  
 此偽證ヲシタル詐欺ノ陳述ハ、其訴訟ノ論局若シクハ尋問ニ必要ナル直接ノ事  
 實デナケレバナラヌト云フノデアリマス、即チ之ガ却テ事實デナケレバナラヌ、  
 其尋ラレテ答タフハ最モ其コトガ事實デナケレバナラヌ、是ハ當辯護士ガ喋々

述アルマデモゴザイマセンガ、山口ト錦織ガ會合シタカドウカト云フコトハ、如  
 何ニモ事實違ヒアリマセンカラ、事實ト云フコトニ就キテハ當辯護士モ更ニ疑  
 ヒマセヌ、併ナガラ其事實ハ訴訟ノ論局ノ上、若クハ爭點ニ於テハ、若クハ尋問ノ  
 上ニ於テ緊要ナル利害ノアル必要ノ事實デアルカ否ヤト云フ事ニ就キテハ、研  
 究ラシテ見ナケレバナラヌコトデアリマス、モウ一ツ言直シテ申シマシタナラ  
 バ即チ山口ガ被告ノ宅へ來リシヤ否ヤト云フ事柄ハ、此事實ハ證據ト名クマ  
 キ事實ノ上ニ屬スベキモノデアルヤ否ヤト云フ問題デゴザリマス、即チ其事實  
 カ證據トナルベキ事實デナケレハナラヌ、若シ證據トナルベキ事實デナカツタ  
 ナラバ、罪ハ成立ヌノデ御座イマス、ソレ故ニ被告ノ申立テ鑑定人ノ言ツタニ  
 トニシロ、即チ凡ソノモノガ違ツタナラバ、偽證罪ガ成立ツモメデハナイガ、必  
 ズ僞リト言フタ先キノ陳述ハ、證據ト名クベキ範圍ニ這入ツナ居ラナケレハナ  
 ラヌ、モウ一ツ一例ヲ申シマスレハ、即チ吉原ノ歸途ニ殺害セラレタモノヲ目  
 撃シタ其者ガ、裁判所へ呼出サレテ、殺害ノ事實ヲ尋テラレタ時ニ、吉原カラ  
 ノ歸途ト云フテハ身分上名譽上憚ル故之ヲ僞ッテ淺草觀音へ參詣ノ歸途ト僞リ  
 ラ言フテ、殺害ノ事實ヲ申立テマシタ、此僞リデ御座イマス、吉原ノ歸途ト云

テノガ事實デアツテ、淺草觀音へ參詣ノ歸途ト云フノハ、偽リノ事實ヲ御座リマス、併ナガラコレハ偽證罪ニハナラヌ、何トナレハ其訴訟ニ於テ、緊要ナル事實ニ關スル點テナイ、其證據ト名クベキ點テナイ、故ニ吉原ノ歸途ト云フノハ、淺草觀音へ參詣ノ歸途ト言ツタ所ガ、罪ニハナラヌモノデ御座リマス、果シテ然ラバ、本件ノ主點ハ山口カ來タト云ヒ、若クハ來ナイト云フコトガ、是ハ錦織ノ誣告事件ニ付テ果シテ緊要ナル事實デ御座リマシヤウカ、或ハ之レガ事實ト名クベキ證據ノ中ニ屬スル間デ御座リマシヤウカ、山口及錦織ノ調書ヲ見マスト、香川亭ニ於テ集會シクト云フコトハ、如何ニモ一ヶ所カニテ所アリマス、アリマスケレトモ、香川亭ニ集會スルト云フコトハ、更ニ彼ノ事件ニ於テ緊要ナル事實トナツテ居ラス、調書ノミナラズ、豫審決定書ヲ……、彼ノ長イ豫審決定書ヲ見マシテモ、香川亭ニ於テ云々ト云フコトハ更ニナイ、シンナ必要ノナイコトデアアル、此調書ノ山口ガ自白ニ係ル豫審決定書ノ中ニ被告淳ガ云々密會シ、書面ヲ往復シテ居ル日本橋區茅場町香川亭ニ會合シタ、二百圓ヲ收受シタリ、茲ニ始メテ香川亭ニ於テ山口ガ直温カラ賄賂ヲ取ツタト云フヤウナコトガ現ハレテ居マス、併シ此事實ヲ被告ニ尋チマスコトガ研究デアツタノ

デハナイ、當時尋問ノ際ニハドウ云フコトヲ尋チタカ、何故ニ被告ガ斯クマテ答辯ニ苦シダカ、實ニ當時ノ豫審判事ノ心中ヲ想像シマスト、何方暗中ニ物ヲ探スカ如キ勢ヲ以テ御取調ベニナツタ、何カ此所イラ邊リニハ居リヤセンカト云フ鹽梅シキヲ以テ御調ベニナツタ、ソレ故ニ尋問書ヲ見ルト一トシテ順序カ立テ居ラス、或ハ帆足清萃カ行ツテ居ルカドウカ又麻布ノ後藤新平ハ行ツタカドウカト云フヤウニ、斯ノ如キ種々ナル問ヲ發シテ、少シモ一定シタ所ノ尋問ハナイノデアリマス、是ハ假令山口ガ行ツタニセヨ、凡ソ何月ノ何日ニ行クカト云フコトヲ尋チラレタノデハナイ、只漠然シタ問イナンデアリマス、既ニサウシテ見ルト、前ニ申シマシタ通り、山口ガ來タカ來ナイカ、ト云フノナラバ、幾ラカ色ガ付キマスガ、只錦織ガ行ツタデアラウナド、云フ單純ナル尋デアアル、ソレヲ來ナイト言フテ隱シタ、此事柄ハ訴訟ノ論局ノ上ニ於テ、尋問ノ上ニ於テ、決シテ證據ニナスベキ事實ニ屬スベキモノテナイト、當辯護士ハ堅ク信スルノデアアルソレカラ、尙ホ此點ニ就テ論究シテ置カナケレバナリマセンガ、只今檢察官ニ於テ御論告ニナリマシタ通り、刑法第二百十八條ニ此ノ曲庇スルト言フコトガ必要デアアル、既ニ之ヲ曲庇シテ事實ヲ隱蔽スルト云フコトニナレバ、

曲庇シタル事柄ハ少シモ結果ハ生ゼヌデモ、曲庇ノ結果ヲ發生スル能力ヲ持ツテ居ラナケレバナラス、即チ錦織ト山口トカ會合ヲシタトカ、山口ガ來タトカ云フ事柄ガ、果シテ曲庇ノ結果ヲ發生スル能力ガ御座イマシヤウカ、發生ハシナクテモ構ハヌ、發生シタ時ハ罪ヲ一等加ヘラレルノデアル、第二百十九條ニ依テ加ヘラレルノデアル、ソレデ發生スルトセザルハドウデモ宜シイガ、發生スル丈ケノ能力ヲ曲庇ノ事實ニ持ツテ居ラナケレバナラス、然ルニ山口薄ガ來リシヤ否ヤト云フコトハ、此被告事件ヲ曲庇スル丈ケノ能力ハナイノデアル、何故ニナイカ、證據トナルベキ緊要ナル證言デナイカラ即チ曲庇スルノ能力ガナイノデ御座リマス、既ニ其能力ガナケレバ、曲庇ノ結果ガ發生セヌノデアル、曲庇ノ結果ヲ發生セヌモノデアレバ、法律上罰スベキモノデハナイ、即チ刑法第百二十八條并ニ第二百十九條ノ制裁ヲ加フベキモノデナイト云フコトハ明瞭デアラウト思ヒマス、

ソレカラ第四デ御座リマス、是ハ檢事ヨリ詳細ノ御論告ガ御座リマシタ、即チ被告ガ故ヲ故意ヲ以テ山口ヲ曲庇セントシタト云フコトデアル、實ニ此被告人ハ誠ニ軟弱ナル所ノ一ノ婦女子デアリマシテ、殊ニ營業ハ待合營業ヲシテ居

ル、然ルニ被告ガ既ニ數十日ノ久シキ、鐵窓ノ下ニ閉チ籠メラレテ、尙此法廷ニ於テ多數ノ人ノ前デ耻辱ヲ受テモ、山口ヲ斯クマデ曲庇シテナケレバナラヌト云フ意思ヲ持ツテ居ツタカト申シマスルニ、決シテサウ云フ意思ハ持ツテ居ナイ、併シ先キノ豫審決定書ニ就テ見マサルト二百五十圓ノ借金ガアツタカラト申シマス、ナル程即チ借リタハ借リタ、借リタ折リニハ恩義ガアルニ相違ハナイガ、ソレニ對シテハ、證文ヲ入レ、又相當ノ利息ヲ拂ツテ返済シ了ツタ今日、此金ヲ借リタト云フダメニ、被告ガ何モ關係ガナイ山口ノタメニ、自分ノ身ヲ忘レテ之ヲ曲庇スル意思ガアツタトハ到底推測ハ出來マセヌ、思フニ即チ第四ノ點ニ於テモ、犯罪ノ意思ノ見ルベキモノハナイト考ヘルノデ御座イマス、故ニ被告ニ對シテハ檢察官閣下ノ御論告ノ如ク、當辯護士ニ於テモ徹頭徹尾被告ノ所爲ハ罪トナラス、犯罪トシテノ證據ハ不十分ナルモノデアルト思ヒマスカラ、被告ニ對シテ無罪ノ宣告アルベキヲ希望致シマス、

次ニ僞證罪ニ就キマシテハ特別ノ自首ノコトガアリマスカラ、ソレヘ論究致シマス考ヘデアリマシタガ、此點ハ檢事ヨリモ既ニお述べニナリマシテ、當辯護士ノ意見ト同一デアリマス、ソレデ先キニ述べマシタ通り、即チ犯罪ノ所爲モナ

タ、又犯罪ノ意思モナク、又曲庇セントシテ事實ガ更ニ能力ガナイ事實ト致シマシテモ、先ニ申述ベマシタ通り恐入リマシタ、思出シマシタト云フ言葉ヲ以テ、特別ノ自首ノ刑ヲ全免ヲスル範圍ニ言入ルベキモノデアラウト思ヒマス、是ハ檢事ノ主タル御論告ト思ヒマシタカラ、此點ハ申シマセヌ、依ツテ被告ニ對シテ一ニ無罪ノ宣告アラントテ希望致シマス、就キマシテハ、本件ハ既ニ檢察官モ公訴ヲ放棄ニモナツテ居リマスシ、當辯護士モ斯克マデニ申述ヘテ居リマスカラ、之ヲ最終ノ辯論トシテ被告ハ昨年十一月十四日以後今日マデ拘留ニナツテ居マス、居マスカラ、本日即決ノ判決アラントテ偏ニ本辯護人ヨリ希望致シマス、

○裁判長 加藤あか何ニカ申立テルコトガアルカ、言ヒタイゴトガアレバ辯論スルコトガ出來ル、(被告あか答)ハイ、何ニモ御座イマセヌ、(問)ソレデハ少シ此所テ待テ居レ、

是ニテ係官ハ評議決定ノ爲メ暫時退席シ再ビ出席ノ上裁判長ハ左ノ申渡ヲナシタリ、

判決書

被告加藤あか偽證被告事件公訴遂審理處、加藤あかハ明治廿六年十一月十三日同十四日錦織剛清、山口淳等ノ誣告被告事件ニ付東京地方裁判所豫察廷ニ於テ證人トシテ訊問ヲ受クルニ當リ、錦織剛清ト山口淳ト被告ノ宅ニ於テ會合シタルコトナシト當初嘘偽ノ陳述ヲナシタルモ其最終ニ至リ剛清ヲ被告ニ示シタルニ思出シタリト申立タルモノニシテ未タ偽證罪ヲ構成セサルモノトス依テ刑事訴訟法第二百二十四條ニ據リ無罪ヲ言渡スモノナリ

○裁判長 右ノ裁判ノ判決ノ謄本ヲ請求スルコトガ出來ル左様心得ヨ、

午後零時四十五分 閉廷

○被告入加藤あか豫審調書

(明治廿六年十一月十三日東京地方裁判所ニ於テ豫審判事ハ錦織剛清外六人事件ニ付證人ニ對シ取調ベテ爲ス處左ノ如シ)

(問)其氏名年齢身分職業住所ハ如何(答)氏名ハ加藤あか年齢ハ三十七年、身分ハ平民、職業ハ待合住所ハ日本橋區南茅場町四十二番地、於是刑事訴訟法第二百二十三條等ニ記載セル條件ニ付取調タル處其抵觸ナキヲ認メタルヲ以テ證人トシテ訊問スベキ旨ヲ告ケテ從テ宣誓セシメタリ

(問)香川ト云フカ(答)屋號ヲ香川ト申シマス(問)山口淳ヲ知テ居ルヤ(答)知ツテ居リマス(問)何日頃カラ知リ居ルヤ(答)一昨年頃デアリマス(問)其レヨリ前其方ガ藝妓ヲシテ居ル頃ヨリ知テ居ル

カ(答)私の方デハ驚アリマセンガ藝妓ヲシテ居ル頃呼ンテ下サレタト言フコトヲ山口サンが後チ仰  
 セラレマシタ(問)度々來ルカ(答)度々參リマセン本年杯ハ碌々御目ニ掛リマセン(問)一昨年昨年頃  
 ハ月々何度位來タカ(答)來ナイ月モアリ一度位來ル月モアリ又二度位來ル月モアリマシタ(問)何時  
 モ一人ナルヤ又ハ連レカアルヤ(答)連レアル時モアリマシタガ二人ノ方が多ウ御座リマス(問)何ト  
 云フ藝妓ヲ始終呼ンテ居タカ(答)小こめデアリマス(問)其外ハ如何(答)其外ノ藝妓御座リマ  
 セン(問)一昨年カ其方方ヘ遊ビニ來タ度數キ出スコトガ出來ルカ(答)ソレハ分リ兼子マス  
 (問)本年ハ何度參リタルヤ(答)本年ハ一度モ御出ニナリマセン(問)行方オコトハナイ山口ト共ニ本  
 年ニナツテ行タモノガアル而カモ二度行ツテ居ルト言カラ知ラヌ答ハナイ(答)左様デ御座リマスカ  
 何ウモ氣が付キマセンデシタカラ寫ト調ベテ申上マシヤウ(問)其方ハ又山口ヨリ何ニカ預リ居ルベ  
 シ(答)何モ預リタルモノハアリマセン

右讀聞云々

証人 加藤 あか

裁判所書記 清水 藤

豫審判事 西川 漸

(完)

○平沼專藏偽證被告事件公判

(結了)

二月十七日午後二時三十分開廷

○裁判長(問)是ヨリ開廷ヲ致ス——被告人ノ姓名ハ何ト申ス、(答)被告(平沼)、  
 平沼專藏、(問)年齢ハ幾歲、(答)被告(平沼)五十九歲ニナリマス、(問)何月何日  
 生レ、(答)被告(平沼)一月ノ  
 二日ニ生レマシタ、(問)身分  
 ハ何ダ、被告(平沼)生系賣込  
 商、銀行頭取ヲ致シテ居リマ  
 ス、(答)被告(平沼)原籍ハ横  
 濱本町二丁目デゴザイマス、  
 (問)何番地、(答)被告(平沼)  
 二十七番地、(問)生レタ所ハ、  
 (答)被告(平沼)生タ所ハ崎玉  
 縣飯能町ト申シマス、(問)ソ  
 レカラ被告人ハ位ガアルナ、  
 (答)被告(平沼)從五位ノ位ガアリマス、(問)勳等ハナイカ——勳何等ト云フコ  
 トニ叙セラレナイノカ、(答)被告(平沼)左様デゴザイマス、(問)年金等ハナイカ



ナ、(答)被告(平沼)ゴザイマセヌ、

○檢察官 公訴ノ趣意ヲ陳述致シマス、被告事件ハ偽證被告事件デゴザイマス、被告專藏ハ山口淳、帆足清萃ノ官吏收賄、詐欺取財被告事件ノ證人トシテ、明治二十六年ノ十二月十八日東京地方裁判所ニ喚出サレマシテ、豫審廷ニ於テ式ニ依ツテ宣誓ヲ爲シ、豫審判事西川漸ノ取調ヲ受クルニ際シマシテ、被告專藏ハ、嘗テ判事山口淳、帆足清萃ト會合シマシテ、當時密室ニ監禁セラレテ居ツタ山村德藏ニ忌避ノ申請書草稿ヲ送リタルコトハ、役目ニ障ルカテシテ今後決シテ口外シテ呉レルナト云フコトヲ山口淳カラ依頼サレマシテ、其依頼サレタコトヲ固ク守リマシテ、同人ヲ曲庇スルノ目的ヲ以テ、明治二十四年ノ十二月七日山村德藏ガ、河井庫太郎、土井嘉藏、堀和田正榮、黒須清助、山崎浪藏等ノ私印私書偽造、詐偽取財被告事件ノ共犯トシテ拘留ニナリマシテ、同月ノ十五日ニ密室監禁ヲ豫審判事ヨリ言渡サレタルニ就テ、德藏ノ妻及其親戚デアル所ノ飯田榮造ガ一日モ早ク德藏ノ歸宅スルヤウニ取計ツテ呉レト云フコトヲ帆足清萃ニ頼ミ、帆足清萃ハ此事ヲ被告專藏ニ告ケマシテ、明治廿五年一月四日、被告專藏ハ山口淳、帆足清萃ト横濱本町二丁目二十七番地ノ自宅ニ會合シマシテ、尙ホ

同月ノ下旬頃ニ東京市麴町區三番町四十一番地ノ被告專藏、妾デアツタ所ノ市倉まん方ニ會合致シマシテ、同家ニ於キマシテ山口淳ハ山村德藏ノ忌避申請ノ草稿ヲ認メマシテ之ヲ飯田榮藏ニ渡シ、飯田榮造ヨリシテ警視廳ノ監獄署看守渡邊直賢ニ液シ、同人ヲシテ密室監禁ニ在リシ所ノ山村德藏ニ送ツタ事實ハ、悉ク被告ニ於テ隠蔽シマシテハ豫審判事ノ訊問ニ對シ更ニ承知シナイ存ジナイト云フ旨ヲ陳述シテ、被告ハ偽證ヲ爲シタモノデアリマス、

右ノ事實ハ豫審判事ノ告發狀、被告ノ調書、山口淳ノ調書、山村德藏ノ調書、並ニ山口淳ノ官吏收賄帆足清萃ノ詐欺取財被告事件ニ於テノ山口淳ノ調書、飯田榮藏其他渡邊直賢、山村なみ等ノ調書ニ依ツテ明カデアリマス、右ノ山口淳並ニ帆足清萃ノ被告事件ノ書類ハ、當被告事件ト同一ニ公判ニ廻シタモノデアリマスカラ、當被告事件ニ其儘證據書類トシテ提出致シマス、

○裁判長 一寸辯護士ニ申シマスガ、渡邊直賢、山口淳、帆足清萃ノ被告事件ノ書類デアルガ、只今檢察官ノ申サレル所デハ、是ハ其儘證據ニナツテ居ルト云フガ、書類寫取リノ時分ニ或ハ平沼專藏ノ偽證事件ノ書類丈ケヲ辯護人ノ方デ寫取ヲサセテ、萬一此山口外二人ノ書類ヲ寫シテ居ラヌト云フヤウナコトデ



モアルマイガ一寸尋キル、

○礎部辯護士 寫シテアル向キモアリマシ、被告平沼ニ關係シテ居ル丈ケヲ寫シテ居ルノモゴザイマス、

○齋藤辯護士 山口淳、帆足、渡邊、飯田榮造、ソレカラ山村徳藏、同なみ、是丈ハ大概ゴザイマス、

○裁判長 若シ寫シテ居ラヌト云フヤウナコトガアツテ、今日ノ辯論ニ差支デモアルト不都合ト思フカラ念ノタメ尋キル——ソレデハ宜イナ、

○辯護士 一同宜シウゴザイマス、

勇將ノ下  
ニ弱卒ナ

○裁判長 被告人ハ是迄處刑ヲ受ケタルコトハアルカナイカ、被告(平沼)ゴザイマセヌ、(問)山村徳藏ト云フハ被告人ノ雇人デアアルカナ、(答)左様デゴザイマス、(問)何時カラ雇入レテアルカ、(答)年月ハ確ト覺ヘマセヌガ凡ソ二十五年位ニナリマス、(問)二十五年カラカ、(答)ハイ二十五年位勤メテ居リマス、(問)二十五年程勤メテ居ルノカ、(答)左様、(問)山村徳藏ガ河井庫太郎杯ト共ニ私書偽造私印偽造、詐欺取財ノ被告事件ニ就テ拘留ニナツタト云フコトハ間違ナイナ(答)拘留ニ山村徳藏ガナリマシタノデスカ、(問)左様、(答)ソレハ二十四年ノ

十二月七日デゴザイマス、(問)七日ニ拘留ニナツタカ、(答)ハイ、(問)其事ハ何時承知シタノカ、拘留ニナツタト云フコトヲ承知シタノハ——被告人ノ承知シタノハ何日デアアル、(答)左様デゴザイマス、ソレハ横濱ト東京ノ間デゴザイマスカラ直キ交通ガゴザイマシテ、承知致シマシタ、(問)サウスルト拘留ニナツタ其日トカ翌日トカニ承知シタノダナ、(答)左様デゴザイマス、(問)山村徳藏ガ拘留ニナツテ其後密室監禁ヲ受ケタト云フ其事ハ何時承知ヲシタカ、(答)其事ハ日ハ覺ヘマセヌデゴザイマス、密室監禁ニナリマシタト云フコトハ承知致シマシタガ、段々其後ニ承リマスト、十六日カラ監禁ニ入レラレマシタ趣ヲ承知致シマシタ(問)十一月ノ十六日ダナ、(答)ハイ十二月ノ……、(問)徳藏ガ其私印私書偽造、詐欺取財ノ事件ニ就テ密室監禁ノ言渡ヲ受ケテ、當時ノ係リ判事安藝豫審判事ヲ忌避スルニ就テハ、其申請書ヲ差出ス、其申請書ヲ差出スニ就テハ山口ナリ帆足ナリ飯田榮造ナリ被告人ニ相續シテ、サウシテ差出シタト云フコトハ事實相違ナイカナ、一應其事實ヲ申立テルヤウニ——ドウ云フ事實デアアルチ、(答)其ハ一体ノ事實ヲ申上ゲマスルト、河井庫太郎ニ金ヲ貸シマシタノデ信用致シテ居リマス、徳藏ノ申シマス河井庫太郎ハ誠ニ手堅イモノデ

アツテ、私が行ツテモ澁茶ヲ一ツ位シカ飲マセヌト申シテ、如何ニモ手堅イヤ  
 ウニ同人ガ申シテ居リマスカラ、同人ノ周旋シテ呉レルコトハ確カナコト、私  
 モ承知致シテ居リマス、ソレデ山村ノ云フコトハ……、(問)一寸……今ノ河井  
 庫太郎ニ金ヲ貸シタト云フ事實ハ別ニ必要ハナカラウト思フ、申請書ヲ差出ス  
 トキノ事實ヲ申立テルヤウニ——徳藏ガ拘留ニナツテ引續イテ密室監禁ノ言渡  
 フ受ケタ、ソレニ就イテ掛リ判事ヲ忌避スル、忌避スルニ就テ其書面ヲ出ス、其  
 出シタマデノ手續ヲズツト言フテ見ヨ、(答)同人ガ拘留ニナリマシテゴサイマ  
 ス山村カ……、私ハ誠ニ召使デハゴサイマスガ、其時ハ公明正大ノ裁判ヲ受ケ  
 マス積リデゴサイマシテ、同人ガ入牢致シマシテモ更ニ構ハズニ……不實ナヤ  
 ウナ思召ヲ受ケテハ恐入リマスガ、何故ト申シマス十萬餘ノ金額ト云フモノ  
 ハ同人ニ負担サセマシテ、抵當物ハ私ガ見テヤツテ、同人ニ金ノ取引ヲサセマ  
 シタノデゴザイマス、ソレデ事實ハ本人ニ會ヒマセズニ金ヲ渡シマシタノデゴ  
 サイマス、故ニ私ハ徳藏ノ拘留サレマシタコトハ一向ドノヤウニモ實ハ思ハズ  
 ニ居リマシタノデ——居リマシタ所ガ一体細カク申上ケマスト、帆足ト云フ人  
 ハ木更津ノ裁判所ニ奉職ヲシテ御出ナスツタサウデゴザイマス、ソレデ其木更

此人元來  
 不實ノ人  
 ニ非ス

津ノ豪家デゴザイマスガ梶野善助ト申スノガゴサイマス、此善助ノ家ヲ下宿ニ  
 致シテ居リマシタサウデゴザイマス、ソレ故ニ其善助ノ妹ガ山村ノ家内ニナツ  
 テ居リマス、故ニ家内……先ッ弟ト云フテ宜シウゴザイマセウカ、榮造ハ弟デ  
 コサイマス——徳藏ノ兄ノ女房ノ弟デゴサイマス——弟デコサイマスカラ、弟  
 ト女房ガ一生懸命ニナリマシテ、此帆足清草ニ頼ンダモノデゴサイマス、(問)  
 ドウ云フコトヲナ、(答)ドウカ同人ノ歸ツテ參リマスマヤウニト頼ンダト云フコ  
 トデゴザイマス、(問)歸ツテ來ルヤウニ……、(答)ハイ、(問)サウスルト、(答)  
 サウ致シマスルト帆足ト云フ人ガ種々心配ヲ致シマシタ趣キデ、ソレデ私ハ一  
 向構ハズニ居リマシタガ、二十五年ノ一月四日ニ其山口サンヲ同道シテ私ノ宅  
 ニ參リマシタノデ、私ハ其折ハ三日ニ東京ニ出マシテ年始ヲ勤メズシテ、四日  
 ニ歸マリシタノデ、ドウモ時間ヲ確ト存ジマセヌガ、暮レ方デゴザイマスカラ、  
 四時位ノ汽車デ私ハ横濱ニ歸リマシタ、歸リマスト誠ニ本町ハ狭イ所デゴザイ  
 マスガ、一ト座敷ガ些ト廣ウゴザイマスカラ一ト座敷ニ客ヲ皆ナドナタガ御出  
 ニナツテモコレニ招キマス、ソレデ歸ツテ參マスト云フト帆足サント最ウ一人  
 知ラス御方ガ御出ニナツテ居テ、番頭共ガ之ヲ御取持ヲ致シテ居リマス、故ニ

私モ歸ツテ參リマシタカラ、儘デ其座敷ニ出マシタ所ガ、帆足サン仰ツシヤルニハ此人ハ豫審局ニ居ル山口ト云フ人デアアル、是ハ腕利ノ方デアアル、一体コツチマデ來ルト言ハズニ實ハ新橋カラ汽車ニ乗セテ私ガ連レテ來タ、一度會ツテ置イタ方ガ宜カラウト思フノデ連レテ來タ——斯ウ仰ツシヤルコトデ、私モ近付キニナリマシテ、最ウ私ノ歸リマシタ頃ニハ帆足サンハ酒ヲ飲ミマスト居眠ノ出ル方デ、居眠ナドナサル位ニナツテ居リマシタ、其折家内ガ……勿論コレハ十一年程病氣デ居リマシテ、二十四年ノ暮レニハ到底六ヶシイト云フ程ノ病氣ヲ致シマシタ、ドウカ致シマシテマア亡クナリハ致サズニ居リマスノデゴザイマス、マダ夕景ニナツテモ召使バカリデ御膳ノ支度モゴザイマセヌカラ、其坐敷ノ上ニ家内ガ寐テ居リマスノデ下デ噪カレルノモ困ル、併シ御膳ノ支度モナイト存シマシテ、殊ニ山口ト云フ人ハ初メテゴザイマスカラ、兎モ角モト言ツテ袴ヲ取りマシテ佐野茂ト云フ料理茶屋ニ私ガ案内ヲ致シマシタ、サウシテ湯ニ這入ルト仰ツテ湯ニナド御這入リナスツテ、ソレカラ御酒ヲ一ツ上ケテ御膳ヲ上ケル、其中ニ少シ最ウ酔潰レタヤウナ鹽梅デゴザイマシテ、山口サン仰ツシヤルニハ、今日ハ懇親會ガアルカラ早ク歸ラナクテハナラヌト仰ツシヤ

リマシタケレトモ、帆足サンハ酔ツテ御出ナサルモノデスカラ、トツ／＼一番仕舞デハゴザイマセヌ、其前ノ車デ歸宅ヲナサイマシタノデ、ソレカラ其……  
 (問)一寸ソコデ事實ハ後ニ再ビ聞クケレドモ、序デアアルカラ尋テルガ其席ニ於テ帆足ガ何か山村徳藏ノ被告事件ニ就テ話シデモアツタカ、(答)何モゴザイマセヌ、殊ニ其席ハ甚ダ此席デ申上ケルノモ恐人リマスガ、正月ノコトデスカラ、お酌モ二人參ツテ居リマシテ——湯ニ這入リマシテソレカラ酒ガ出マシテ、中々左様ナコトデハゴザイマセヌ、(問)何モ話ガナイナ、(答)へい、(問)豫審判事ノ安藝哲三郎ガ徳川家ノ方カラ賄賂ヲ取ツテ、其金ヲ以テ土田地方ニ於テ地面ヲ買取ツテ居ル、ソレデ徳藏ノ取調ヘ方ガ甚ダ苛酷デアアル、サウ云フコトヲ言ツタコトハナイカ、(答)ゴザイマセヌ、(問)帆足ニ話シテシタコトハナイカ、(答)ゴザイマセヌ、(問)ソレカラドウシタ、(答)ソレカラ其後ハ二十二日ニ番町ニ私ガ寄リマシタガ、其二十二日ニ寄リマシタノハ、私ハ一休出府致シマスト用ヲ仕舞ヒマシテカラ番町ニ始終泊リマシタノデ、何分其山村杯ガ少シ身上ノ悪イコトガゴザイマシテカラ、是ハイケヌト存ジマシタカラ、どんたくノ前日ニ行ツテ泊リマシテ、どんたくニ歸ルヤウニバカリ致シテ居リマシタノデ

ゴザイマス、ドウモ此間調ベマシタ所ニ依リマスト、ドノせんたくニモ參ツテ居リマセヌカラ、臨時ノ用デ二十二日ニ參リマシタノデスガ、ソコデ其二十二日ニ會ヒマスト云フコトヲ申サレマシタカ、暫クノ間牢内ニ這入ツテ居リマシタカラ種々考ヘマスガハツキリ分リマセヌ、ドウ致シマシテモ分リマセヌガ、私ノ想像デ考ヘマスニハ、固ヨリ帆足サンガ種々心配シテ吳レマスシ、又榮造ト申スモノハ私ガ參ルコトハ一日前ニ小舟町ノ店ノ方ニ案内ヲシテ置キマス、ソレヲ待合シテ寄りマシタモノデゴザイマセウガ、ソコノ所ハ私ガ考ヘマシテモ、ドウモ彼所ニ寄ル所ノ点ハドウ致シマシテモ分リマセヌ、是ハドウモ考ヘマスト多分私ガ一月ノ二十日ハ横濱デ年始物ガドツサリゴザイマス、其年始物ヲ集メマシテサウシテ福引ヲ致シマスノデ、二十日ハ屹度東京ニ來ナイデ二十二日ニハ行クト云フ案内ヲ榮造ガ知ツテ、皆サンニ御通知申シタモノデゴザイマセウカト考ヘマスル、何分之ヲハツキリ申上ケマスルト、私ノ申上ケマスコトハ甚ダドウモ不分明ニナリマス、ドウシテモ是ハ分リマセヌ、ドウモ多分此帆足サンニ榮造ノ方デ最ウ始終一生懸命ニ早ク歸宅ヲスルヤウニト云フテ頼ミ、帆足サンモ盡シテ吳レタモノデゴザイマスカラ、兩人ノ間デ私ノ參ルノヲ知ツテ參

ツタカト存シマス、二十二日ニハ私ガ番町ヘ參リマセヌ中ニ、山口サンモ帆足サンモ最ウ御出ニナツテ居リ、榮造モ參ツテ居リマシタノデゴザイマス、(問)何時頃ニ行ツタカ、(答)私ガ參リマシタノハ其日ハ能クハ存ジマセヌガ午後四時頃デモゴザイマセウ、(問)サウスルト此山口ナリ帆足ナリ飯田榮造ナリ行ツテ居ル所ニ行合セタ——ソレカラドウ云フ話シニナツタ、(答)ソレカラ取敢ヘズ私ハ玄關カラ上リマスカラ、マダ榮造ノ來テ居ルコトハ知リマセンデ玄關カラズツト上リマシタラバ、奥ニ御兩所ガ御出ダト云フカラ御目ニ掛リマシテ、ソレカラ其忌避ノ申立ヲ致セバ宜イト云フコトヲ御話ニナリマシテ、ソレカラ……(問)忌避ノ申立ヲスルガ宜イト云フケレドモ、何カ其前ニ話シガナケレバナラナイ、(答)左様デゴザイマス、其前ハ通常ノ暑イトカ寒イトカ云フコトデ山村ノ御話ハ……(問)山村ノ話シガアツテ山村ガ大變苦ンデ居ルカラ出シテ吳レトカ何トカ言ツタコトガアツタロウ、(答)其邊ノ所ハ誠ニ妙デゴザイマシテ、能ク御話シノ通ジテ居ルモノト見ヘマシテ、私ニハ話ガソコデゴザイマセヌデモ、御話ガ出來テ居リマシタ、併シナガラ何ンデゴザイマス山村ノ書面ヲ渡邊ガ持ツテ來タ、其書面ノコトハ知ツテ御出デゴザイマシテ……(問)最ウ一遍、(答)知

山ニナリマシタ。(問)何ヲ。(答)山村ノ書面ヲ送りマシタ書面ノコトハ、  
 御出デゴザイマス、マダ出サヌ中ニ知レテヲリマス。(問)忌避ノ申立  
 書ニ就テノ書面ダナ―其書面ト云フノハ何處デ出来タ。(答)ソレハ山村ガ書面  
 ヲ拵ヘマシテ宅ニ送りマシタカラ、其宅ニアツタ書面ヲ榮造ガ持ツテ參ツテ居  
 リマシタ、ソレハ唯ダ難澁ナコトガ書イテアル書面デゴザイマス。(問)サウダ  
 ラウナ、唯ダ山村徳藏ガ密室監禁デ困マルト云フ書面デアツタロウ。(答)ヘイ其  
 書面デゴザイマス、ソレカラ榮造ガ來テ居ルカト云フテ尋チマシタラ來テ居リ  
 マス――臺所ニ居リマシタ、ソレカラ臺所カラ呼ビマシテ其書面ヲ取リマシテ  
 私ハ山口サンニ出シマシタ、出シマスト是ハモウ忌避ノ申立ヲスレバ必ズ最ウ  
 斯ウ云フ密室監禁ニナルヤウナコトハナイ、氣ノ毒ナコトダカラシテヤラウト  
 斯ウ仰ツシヤルコトデ、氣ノ毒ナコトデアアルカラ早速忌避ノ申立ヲスル方ガヨ  
 カラウ……。(問)申立ヲスル方ガヨカラウ……。(答)左様デゴザイマス、ソレカ  
 ラ鉛筆ヲ御取寄セニナリマシテ、ソレヲ拵ヘマシテサウ致シマシテ出来上ツタ  
 所デ、一應御讀ミナサル所ヲ御聞キ申シタ所ガ、ドウモ私ガ自分ノ心得デゴザ  
 イマスト云フト、唯ダ同人ガ歸ツテ來ル丈ケノ書面ト云フヤウニ心得テ居リマ

シタ所ガ、マルデ安藝サント云フ人ハ官ニ御出ニナツテモ……御承知ノナイヤ  
 ウナコトガ書イテアル。(問)官ノ何ヲ……。(答)官ノ御取扱デゴザイマス。(問)  
 官トハ監獄カ。(答)監獄ノ御取扱ヲ御存ジノナイヤウナ書面ガ出来マシタ、私モ  
 ソレデ驚キマシタ、是ハドウモ餘リ酷イ書面カト存シマシテ、何カ巨細ニハ覺ヘ  
 マセヌガ、其中ニハ何日ニハ何度調ヘルトカ、或ハドウモ寒イノニ夜中何時マデ  
 寒風ノ吹ク所ニ立タセテ置イタトカ云フヤウナコトガゴザイマス、若シ此事ガ  
 御取上ケニナラスト云フト、此上モナク山村ハ大變ナコレハ難澁ヲスルノデア  
 ラウト云フノデ驚キマシタノデソレカラソレヲ聞キマシテ、私ハ玄關ニ榮造ヲ  
 呼ビマシテ、私ハ此話シハドウカ私ハドウモセワシクモアルシ止ス方ガ宜カラ  
 ウト思フ、お前次第デお前ガヤルナラバヤルモ宜イガ、ドウモ私ハ餘リ酷イカラ  
 ト申シマシタ所ガ、私ハ最ウ山村ノコトナラバドウナリマシテモ宜シウゴザイ  
 マスカラヤリトウゴザイマス、お前ガサウ決心シテヤルト云フナラ、私ハ知ラヌ  
 コトお前ガヤラウト云フナラヤレ、斯ウ申シマシテ其書面ヲ山口サンノ所カラ  
 戴キマシテ、サウシテ同人ガ參ツテ……山口サンモ私ガ驚イタ故ニ御心付キニ  
 ナリマシタカ、其書面ヲ直クニヤツテ呉レチャイケナイ、オレノ手が知レルカラ

返シ、其ウイ、シヤイマシク、ソレ、  
 取リマシテ、寫ス中モ長イ書面ヲゴサイマスカラ、手モ出來マセズ致シマスカラ  
 一時間餘リモ掛リマシテ其間ニハ最ウ私ノ方デハ正月ノコトデ、時分トキニカ  
 リマスカラ、御膳ノ上デ御酒ヲ一ツ差上ケテ置キマシテ、ソウ、ウ致シマス中ニ  
 其書面モ寫シ上リマシテ御手許ニ戻シマシタ、(問)鉛筆デ、  
 云フノカ、(答)左様デゴサイマス、其時分ニ私ノ役目ニ障ル、  
 トハ言ハヌテ吳レロト云フコトヲ仰ツシヤイマシタ、勿論酒ノ座敷ノコトデゴ  
 ザイマスカラ女中モ居リマスシ、私ニ言ツタコトヤラ女中ニ言ツタコトヤラ女  
 中ノ井戸端詰シニサセラレヌヤウニ言ツタコトヤラ分リマセヌガ、ソレハ私ガ  
 同人ヲ一時信用致シテ居リマス時分ニソレガ腹ニ這入ツテ居リマシタ次第デゴ  
 ザイマス、(問)サウ言フコトニナレバ忌避ヲシタラ宜イト言ツテ山口カラ話シ  
 ノアツタトキニ、其席ニ雇人ハ居リハシマイナ、今ノ座敷デ徳藏ガ今ノヤウニ  
 難澁ヲシテ居ルナレバ忌避スルガ宜カラウト云フコトノ話シガアツタ、山口ガ  
 其話シヲスル時分ニ其席ニハ今ノ雇人杯ハ居リハシマイナ、女中杯居リハハ  
 シマイ、(答)御茶デモ持ツテ參ル位ノコトデゴサイマス、(問)ソナラバ其話シ

ハ聞イテ居ラナラウ、(答)ソレハ誠ニ巨細ニ申上ケ兼テマス、御茶ヲ持ツテ  
 參リマス、御酒モ持ツテ參リマスカラ、何ントモソコノ所ハ……、(問)山口ガ今  
 ノ口留ヲシタト云フモノハ、全ク被告人ニ對シテ言ツタノデハナイカ、給仕ヲシ  
 テ居ル女ニマデ山口ガソナコトヲ言ツタカチ、(答)私ニ斯ウ言ツテ吳レルナ  
 ト頼ンダ趣意デハゴサイマセヌ、(問)言フテ吳レルナト云フコトハ被告人ニ山  
 口カラ頼ンダノカ、(答)私ハ頼マレタト云フ趣意デハゴザイマセヌ、(問)其方ハ  
 頼マレタノデハナイカチ、(答)頼マタレタノデハゴザイマセヌ、(問)ソレカラ  
 次ハ……、(答)ソレデ其中ニ榮造ガ認メマシテゴザイマスカラ、ソレヲ持參致シ  
 マシテ歸リマシテ、後トハ兩人トモ酒ヲ飲ミ、随分酔ヒマシテ、ソレカラ別レマ  
 シタ次第デゴサイマス、(問)ソレカラ榮藏ハ何時頃出シタ、(答)榮造ノ出シマシ  
 タ時日ハ自分ニハ分リマセヌ、(問)愈ヨ徳藏ノ方ニ渡スコトガ出來タトカ、或ハ  
 出來ナカツタトカ云フヤウナコトヲ榮造カラ話シガアツタ、ロウ子、(答)私ハ  
 ソコマデハ聞キマセンデゴザイマス、(問)榮造カラ何トカ話シガアリサウナモ  
 ノダナ、結果ガドウナツタト云フコトヲ……、(答)私ハ……後ニハ聞キマシテ  
 スガ、其返事ガドウナツタト云フマデハ聞ク何モゴザイマセヌ、(問)其當時何ト

カ榮造カラ話シガアツタノカ、(答)其時分ハ渡シタラウト思フテ居リマシテ、何トモ沙汰ハゴザイマセヌガ、出タコト、承知致シテ居リマシタ、徳藏ノ方ニ渡シタコト、承知シテ居リマシタ、渡サナケレバ何カ話シガアルダラウト存シテ居マシタ、(問)榮造ガ徳藏ノ方ニ渡スニドウ云フ手續デ渡スト云フ話シガアツタラウ、榮造ガ受合フテモ監獄ニ居ル人ニ渡スコトハ出来ナイ有様デアアル、(答)ソレハ渡邊ト云フ人ガ使ヒヲ致シマシテゴザイマス、故ニ同人ニ頼ミマシタコトハ聞イテ居リマス、(問)頼ンダト云フコトハ聞イテ居ルケレドモ、渡邊ニ頼ムト云フコトハ初メニ言ハナイノカ、(答)ソレハ申シマシタ、渡邊ト云フ人ガ使ヒヲシテ呉レルカラソレニ頼ム——ソレハ承知シテ居リマス、(問)ソレカラドウナツテ居ル、渡シタコト、思ツテ居タ——其後ハドウナツテ居タ、(答)其後ニナリマス、其書面ガアチラニ届キマシテゴザイマスカ、御役替ニナリマシテゴザイマス、ソレデ彼ノ書面ガ届イタコト、承知シテ居リマス、(問)ソレカラ徳藏ハ責付ニナツタ、(答)左様デス、(問)何時歸ツテ來タ、(答)月日ハ存シマセヌガ一寸坂本辯護士ニ御尋下サイマシタラ……、(問)凡ソデ宜イ前ガ記憶シテ居ルダラウ、(答)二月頃デゴザイマセウカ、(問)何時免訴ニナツタ、(答)左様デゴ

ザイマス、四月頃デゴサイマシタカ、(問)ソレカラドウナツタ、(答)左様デゴザイマス、出テ參リマシテカラ私ガ山口サンノ宅へ禮ニ出マシタ、(問)ソレハ何時ダ、(答)ソレハ五月下旬デゴサイマスカ六月デゴザイマスカ、(問)何ノタメニ禮ニ行ツタカ、(答)ソレハ山村モ歸ツテ參リマシタモノデスカラ、菓子ヲ持テ出マシタノデゴザイマス、(問)山口ノ係リニナツタノハ被告ハ承知シテ居ルナア、安藝判事ガ忌避セラレテソレカラ其後山口ノ係リニナツタト云フコトハ承知シテ居ツタナア、(答)ヘイ承知シテ居リマス、(問)ソレハ何時頃承知シタカナ、(答)恐入りマシタガ先頃モ西川判事ノ御尋ノ時分ニモ、自分ノ身ニ引受ケマシタノデゴザイマスト明瞭ニ申上ケマシタガ、横濱ト東京ノコトデゴザイマシテ折節參ルコトデゴザイマスカラ、誠ニ何カト云フ一休サウ云フコトヲ存ジマセヌカラ、圖ラズ私ガ今日ノヤウナ次第ニ相成リマシタ、(問)ケレドモ山口カラ話ガアルトカ、飯田カラ話シガアルトカ、帆足カラ話シガアルトカ、誰レカラカ山口ノ係リニナツタト云フコトヲ聞イタニ相違ナイ、サウスルト自分ノ相談ヲシタ判事ガ係リニナツタラ、ヤレ嘻シヤト云フ心ガ起ツタデアラウ、(答)ドウモ……、(問)ソレハドウシテモ言ツテ行カナケレバナラナイ、(答)承知ハ致シ

テ居リマスガ日ハ存ジマセズ、(問)山口ガ係リ官ニナツタ當時ハ知ツタラウ  
 ナア、(答)當時知リマシタニ相違アリマセズ、(問)知ツテ居タカラ五月ノ末ト  
 カ六月ノ頃ニ行ツタト云フコトニナルノダナア、ソレカラドウナツタ、(答)禮ニ  
 参リマシテ暫ク話シテ居リマス中ニ、同人ノ申サレマスノニ、誠ニ私モ數  
 年來東京ニ居ルケレドモ……判事ヲシテ居テモ、未タ佛參モシナイヤウナ話デ、  
 私モ其中辯護士ニデモナツタラ佛參位ハ出來ルダラウト云フ御話デコサイマシ  
 タ、其節ニ私ノ持合ヒ居リマス金二百圓ヲ、ソレデハコレヲ御持チナスツタラ  
 宜シカラウト申シテ差上ケマシタノデゴザイマス、(問)佛參スルニモ佛參スル  
 コトガ出來ナイカラ、金ヲ貸シテ呉レト言フノカ、呉レト言フノカ、(答)ソレ  
 ハ呉レトモ仰ツシヤイマセマガ、詰マリ呉レドゴザイマス、マアサウ云フ  
 何ンデアルナラバ私が借リテ置カウト云フヤウナ御話ニナリマシテ……、(問)  
 マア何ンダチノ向フカラ金ヲ呉レトモ言ハヌケレドモ、ソコヲ察シテ出セト言  
 ハヌバカリニ言フタト云フコトニナルカナ、(答)左様デゴザイマス、(問)ソコデ  
 氣ノ毒ダカラ渡シタ……、(答)左様デス、(問)今申立ニ依ルトサウ聞ユルガサウ  
 カチー、(答)左様デゴザイマス、(問)サウスルト高ハイクラ、(答)二百圓、(問)向

算ナ誤ル  
 人ニ非ス  
 シテ五圓  
 加フ  
 カニ山口

フカライクラト云フコトハ言ハナカツタナ、イクラト云フコトハ、二百圓  
 呉レトカ三百圓貸セトカ云フコトハ言ハヌナ、(答)貸セトモ言ヒマセヌガ早  
 ク言フト上手ニ仰ツシヤツタヤウナ譯デ……、(問)證文ハ取ツテナイナ、(答)  
 左様デゴザイマス、(問)貸シタカ上ケタノカ、(答)私ハドウモ上ゲタ心持テゴザ  
 イマス、(問)ソレカラ其次ニ其後又……、(答)其後ニナリマシテ番町ニ御出ニナ  
 リマシテ十月ノ二十日デゴザイマス——御出ニナリマシテ、他カラドウモ願ハ  
 レルコトガアルカラ、是非金ヲ二百圓呉レト斯ウ仰ツシヤイマス、大變困ル至  
 急ノ用ダト斯ウ仰ツシヤル、ソレカラ番町ノまんニ聞キマシタラ百圓ナラゴザ  
 イマス——斯ウ申シマス、ジャ一時百圓丈御持チナスツテハ如何デゴザイマス、  
 斯ウ言ツテ上ケマシタ、ソレカラ後トノ百圓ハ直キニコチラカラ御届ケラシマ  
 セウ——斯ウ申シテ置キマシタ、ソレカラ後トノ百圓ヲ取りニ御出ナスツタト  
 キニ金ヲ五圓御持チナスツテ、先達テ百圓金ヲ借リタケレドモ、勘定ガ違ツテ  
 ハ居ナイカ、百五圓アツタト言ツテ五圓返シテ、ソレカラ五圓受取りマシテ百  
 圓ヲ貸シテ上ケマシタ、其事ハ徳川家ニ係リマシテ、私訴ヲ起シタウ存ジマス  
 カラ、ソレヲイロく心配シテ見テヤラウト仰ツシヤイマシテ、イロく御奔



チ試ムル  
非ザルカ  
カサル人  
ニシテ五  
巧ミテ直  
平沼ヲ欺  
ハ非サル  
カ  
まん、  
く何レニ  
シテモ人  
ノ妾タル  
者ノ名ヲ  
シイ

走下サイマシテ、ソレカラ金ハ御貸申シタノデゴザイマス、ケレドモ其辯護士  
ノ何トカ申シマシタ青地トカ申ス——彼ノ人ガ御周旋下サイマシテ、イロく  
私訴ノコトハ彼ノ人ニ……宜カラウト仰ツシヤルコトデ、イロく御心配下サ  
リマシタモノデスカラ、詰マリ其報酬ト云フヤウナモノニ貸シテ呉レト云フ  
コトデ、事實ニ據リマシテハ先ツ報酬デゴザイマス、(問)サウスルト何ンダナ  
ア、此初メニ百圓貸シタ所ガ五圓多クアルカラト言ツテ五圓返シタ、其百圓ト  
云フモノハ矢張番町ノ市倉さん方ニ於テ渡シタノカ、(答)左様デゴザイマス、  
(問)まんが宜イノカいくガ本當カ、(答)いくガ本當デゴザイマス、まんハ幼少  
ノトキノ名ダサウデゴザイマス、(問)サウスルト此處デ渡シタナ、(答)白圓渡  
シマシタ、(問)是ハ何時渡シタ、(答)ソレハ二十日デゴザイマス、(問)ソレハ六  
月ノ二十日カ、(答)十月ノ二十日デゴザイマス、(問)其二十日ニ渡シタノハ徳川  
家ニ對シテ私訴ヲ起シタニ就テ周旋ヲシテ呉レタ報酬ニ渡シタノカ、(答)左様  
デゴザイマス、(問)又其後ニ百圓渡シタカ、(答)二百圓ト云フノデスケレドモ有  
合ヒマセヌカラ百圓丈ケ渡シマシタ、(問)後ニ百圓渡シタノハ何時カ、(答)日ハ  
覺ヘマセヌガ、至急ノ御入用ト仰ツシヤルノデスカラ、大方一日モ置キマシテ、

直クニ番町ニ届ケテ置キマシタ、所ガ五圓返シニ御出ナスツテ……、(問)此二  
百圓ハ詰マリ私訴ニ就イテ奔走シテ呉レタ報酬ニナルナア、(答)左様デゴザイ  
マス、(問)一寸言ツテ見ルト私訴ニ就イテドンナコトヲシテ呉レタ、(答)自分、  
誠ニ一向……、(問)唯ダロバカリデハ二百圓ノ報酬ハ出來ヌダラウ、(答)ソレハ  
私訴ノ起キマシヤウニ萬事御計ヒ下サイマシテ、サウシテ代言人ヲ御頼ミ下ス  
ツテ……ト云フコトデシタケレドモ、トウく私訴ハ起スコトガ出來マセヌデ  
シタ、(問)此時分ノ徳川家ニ對スル私訴ノ被告ハ誰カ、(答)徳川、(問)徳川誰レ、  
義禮カ、(答)徳川義禮デゴザイマス、(問)サウスルト徳川義禮ニ對シテ告訴狀デ  
モ被告人ガ出シタノカ、(答)ソコノ所ハ暗ラウゴザイマスガ、私ハ私訴ヲ起ス  
ト云フコトハ承知ヲ致シテ居リマス、(問)告訴ハシタノカセヌスカ、(答)告訴ハ  
致シマセヌ、(問)告訴ヲセヌノニドウシテ私訴ガアルカ、(答)其事ニ就キマシテ  
ハ素人デアリマスカラ知リマスマイ、自分ガ其時分告訴シタコトガゴザイマス、  
其關係ガ御必要デゴザイマスレバ……、(問)ドウ云フ譯デ渡シタノカ、其原因ガ  
分ラナイカラ聞クノデアアル、(答)其事ハ……、(問)其後又二百五十圓渡シタノカ  
(答)其二百五十圓ハ……、(問)最ウ……三百圓ト云フノガアル、(問)三百圓ハゴ

ザイマセヌ、(問)サウカナ三百圓ト云フノガ八九月中ニアルダラウ、(答)ソレハ私ハ存ジマセヌ、(問)サウカチー……、(坂本辯護士)一寸便宜上申上ケマセウ、今ノ三百圓ト云フノハ、矢張二百圓ノ誤リデ、山口淳第一回ノ調書ニ依ツテ……是ハ二百圓デアラウト思ヒマス、九月カ八月デアリマスガ是ハ第二回ノ金ニ相違アリマセヌノデゴサイマス、(答)恐入リマスガ若シ山村トノ間違デハゴサイマスマイカ、山村ト私ノ方ト……、(答)三百圓ハ外ノ事件ダ、ソレカラ二百圓カ、(問)極月押詰リマシテカラ山村カラノ案内デ、山口サンガ是非御目ニ掛リタイガ幾日頃御出府ニナルカト云フコトデ、中々會ツテナドハ居ラレナイト云フコトヲ申シテヤリマシタラ、十二月ノ二十九日ニ私ノ方カラ出テ行クカラト云フコトデゴサイマシタ、其節ニ佐野茂ニ山口サンガ御出ニナリマシテ自分ヲ呼ビニ御遣シニナリマシタ、ソレカラ行ツテ御目ニ掛リマシタ、致シマスルトドウモ至急金ノ入用ガ出来タカラ——此短刀ヲ預ケルカラ金ヲ五百圓是非實シテ吳レト斯ウ仰ツシヤル、私ハ銀行杯ヲ致シテ居リマスカラ、ナイト云フコトハ出来マセヌガ、際限モナイコトデゴサイマシタカラ斷リマシタ——ソレハ困ル、短刀ヲ持ツテ斯フシテ來タモノデアラカラ、之ヲ預ケルカラ五百兩是非

地所カ家  
屋デナケ  
グレハ面白  
グナイ

貸シテ吳レ——私ハ又短刀杯ヲ預ルコトハ一体嫌ヒデモゴザイマスシ、旁々致シマスルカラ斷リマシタガ、ドウモ段々御話ガ詰マリマシテ、二百圓貸シテ御上ケ申サウト云フコトヲ申シマシタ、二百圓ノ了簡デ居リマシタ所ガ、先頃西川サンノ御調ノ節ニ二百圓ト申上ケマシタガ、佐野茂ニ紹介ヲ致シマシテ返事ヲ取リマシタ所ガ、二百五十圓デゴサイマシテ、ドウモシツカリ分リマセヌガ、二十九日カニ二百五十圓貸シマシタ、是ハ全ク彼ノ衆ガ既ニ短刀ヲ持ツテ參リマシテ、之ヲ預ケテ借用シタイカラト云フコトデゴザイマスカラ、是ハ最ウ彼ノ衆ニ御貸申シタニ違ヒゴザイマセヌ、其節ニ證書ヲ取ラウト存ジマシタガ、印影ヲ持參セヌカラ後トカラヤラウト斯ウ仰ツシヤリマシタ、コレガ二百五十圓デゴザイマス、ソレデ其節ニ随分御話申上ケラレマセヌガ、ドウモ案外ニ強イ御話ガゴサイマシタカラ、私モ少シモ信用ヲ得マセヌ、サツバリ其後ハ參リマセヌ、宅ニデモ參リマシテ調べマスト分リマスガ、私カ彼ノ衆ノ官宅ニ御越シ遊バシマシタノハ何月デゴザイマスカ記憶致シマセヌガ、確カ二十五年デゴザイマセウカト存ジマス、其二十五年ニ一度宅ヲ尋チマシテ、サウ致シマシテ其時ニ一度參リマシテ、都合彼ノ衆ノ御宅ニ私ガ參リマシタノハ三度シカ參リマ

セヌ、牛込ニ一度官宅ニ二度ゴザイマス、其後トノ一度ト申スノハ、  
 圓ゴザイマス、其二百圓ト申スモノハ……(問)今ノ外ダナア、(答)ヘイ其  
 ゴザイマスノデ、昨年ノ十月デゴザイマス、ソレデ昨年ハ確カニ佐  
 シデ少シ先キ様モ御立腹デセウ、私モ實ハ立腹致シテ居リマス、  
 云フ何ガゴザイマシテ、確カ昨年ハ十月マデ御目ニ掛ラヌカト  
 マス、私ノ記憶ノ違ヒカ知リマセヌガ、ソレニ参リマシタト云フ  
 ハ矢張酒ヲ少シ飲ム方デスカラ、時々御目ニ掛ツタラウカト  
 酒井家ニ株券ヲ引當ニ金ヲ貸シタコトゴザイマス、(問)酒  
 家ノ件ノコトヲ確カ山村ト山口サント御相談ガアツテ、御心  
 見ヘマス、ソレデ是非御目ニ掛ツテ酒井家ト見タイト云フ  
 ……(問)山口ガ、(答)ヘイ、ト云フモノハ錦織サント極ク  
 シカラ、岡野サンニ話シヲサセマスルト示談デ追付カウカラ、  
 會ヒタイト云フコトヲ言ツテヨコシマシタ、斷リマシタガ又  
 ガソレカラ参リマシタ、参リマスルト先キハ大家ノコトデア  
 ノトお前損ヲスルノハ何ダカラ扱ツテ見ヤウ——斯ウ仰ツシ  
 ャツテ、ソレカラ

私ガ申シマスニ、ソレハ負ケ續ケニ負ケテ居リマスカラ、最  
 ガ相當ノ扱ヒモ出来マス、御頼ミ申サナイデハゴザイマセ  
 一時御見合セナスツテ下サイ、何レ是ヨリ控訴ヲ願ヒマス  
 破毀ニデモナツタラ扱ヒラ御頼ミ申シタイ——斯様ニ申シ  
 ト其時ニ私モ牛込ニ居ルトキハ宜カッタケレトモ、ゴチラニ  
 置カナクチャナラズ、書生モ置カナクチャナライ、費用ガ多  
 斯ウ云フ御話デゴザイマス、殊ニ又彼ノ山崎治敏ノ貸シモ  
 ……ソレカラ私ガソレヲ申シマシタ、山崎治敏ノ貸シト云フ  
 マスルト一萬數千圓ニナリマス、ソレヲ何ゾヤ無利息年賦  
 千圓五ケ年賦デ二千圓取ツテ、千三百圓金ヲ取ツタト云フ  
 私ハ濟マス積リデハナイケレドモ、山崎家ガ前ガ勘辨シテ  
 フコトヲ、舊臣ガ此所ニ居リマス辯護士ノ坂本サンノ所ニ  
 コレデ濟マシテ呉レリヤ山崎家ガ立ツカラト言ツテ、私ハ不  
 シタノデスカラ、ソレ等ニ就イテ私ハ何スルコトハ出来ナイ、  
 ガ又控訴シテ破毀ニデモナツタト云フナラバ、二百圓位ノ金  
 ハ上

ケマセウ、上ケマセウケレドモ今御扱ヒ下サルコトハ止メテ貫ヒタイド斯ウ申シテ、二百圓上ケマシタノデゴザイマス、(問)向フガ扱ハウト云フノヲ斷ツタノカ、(答)私ガ斷リマシタノハ、控訴デ破毀ニテモナリマシタナラバ——控訴デモ濟ミマシタナラバ頼ミマセウ……(問)何ノタメニ二百圓ノ金ヲ渡シタノカ、(答)其方デ心配ヲナスツタ趣キデ、私ガ參ツテ斷リマシタ……(問)心配ヲシタト云フノハドウ云フ心配カ、山村カラデモ聞イテ居ルノカ、山口ガドンナ心配ヲシテ居ルカ、(答)ソレハ是非斯ウ〜デ以テ濟方ニシテ吳レト申シマシタラ、私ガ扱ハウカラト言ツテ盡シタ趣キデゴザイマス、(問)サウスルト豫審廷ニ於テ示談ヲシタト云フコトカ、(答)ソレハゴザイマセウ、(問)ソナラ山口ハドンナ扱ヒヲシタノカ、(答)ソレハ私ハ能ク分リマセヌガサウ云フ次第デゴザイマス、(問)扱ヒヲシヤウト云フケレドモ、其實扱ヒヲシテ居ルカ居ラヌカ被告ハ知ラヌノカ、(答)ソレハ私ハ巨細ニ聞キマセヌ、(問)聞カナイデ金ヲヤル、斷ツテ金ヲヤルト云フノハドウ云フモノダラウ、向フデ扱フト云フヤツヲ止メテ吳レ——扣訴ニデモナツタラ、シテ吳レト云フノニ金ヲヤルノハドウ云フ譯デアラウカ、(答)ソレハ同人ガ困リマスカラ、ソレデ金ハ上ケマセヌ、ケレドモ今

扱フノハ斷ルト言ヒマシタノデ、(問)ソレハ證文ハ取ツテ居ルノカ取ツテ居ラヌノカ、(答)證文ハ取ツテ居リマセヌ、(問)先ノ百圓ノ方モ……、(答)左様デゴザイマス、(問)二百五十圓ノ分モ……、(答)二百五十圓ハ事實貸シテゴザイマスカ、證書ハ後トテヨコスト申シマシタ、(問)返金ヲ受ケル積リテ居ルノカ、(答)二百五十圓——是ハ是非返サナケレバナラヌコトデ、受取ル積リデゴザイマス、(問)一ト通り分ツタガチー、何ハドウダラウナア、其忌避ノ申請ヲスルト云フノハ今ノ山村徳藏ノ家内カラ飯田榮造ノ方ニ手紙ヲ——徳藏カラ飯田榮造ニ手紙ヲ出シテ、其手紙ヲ被告人ノ家ニ持ツテ來テ大變徳藏ガ困ツテ居ルト云フコトヲ聞イテ、ドウカ心配シテ吳レト云フコトハ徳藏ノ家内カラ被告人ニ話シガアツタノカナイカ、(答)心配シテ吳レト云フコトハ、私ニ對シマシテハ十萬圓餘ノ損害デゴザイマスカラ、ちみや榮造カラ言フコトハ出來マセヌ、併シ嘆クノハ歎キマシタ、誠ニドウモ困ルトハ申シマシタ、(問)ソレカラ其手紙ハドウ云フ譯デ徳藏カラ今ノ牢内カラヨコシタト云フコトハ其時分ニ聞イテ居タラウチー、ソレハ矢張渡邊ガ取次イダト云フコトハ聞イタカチー、(答)實ヲ申セバ私ニドウシテモ聞カセナクテハナラヌコトヲ……(問)ドウ云フ譯デ徳藏カラ

斯ウ云フ手紙ガ來タカト云フコトヲ……(答)ソレハ先刻申上ケマス通り……、  
 (問)渡邊ト云フモノガ取次イダト云フコトヲ言ツタナリ、(答)左様デゴサイマ  
 ス、(問)サウスルト山村徳藏ガ何ダナリ、豫審判事ヲ忌避スルニハ——山口ハ、  
 忌避スルヨリ外ニ仕方ガナイ、併ナガラ牢ノ中ニ交通スルコトガ出來ヌト言ッ  
 タトキニ、ソレハ斯ウ云フ譯デ交通スルコトガ出來ルト云フコトヲ被告ハ  
 言ツタト云フガドウカ、(答)ソレハ私ヨリカ先キニ知ツテ御出デゴザイマス、私  
 ノ方ハ二ノ次デゴザイマス、能ウ知ツテ居リマスノハ最ウ……皆テ御話シガシ  
 テアリマス、帆足サンガ……、(問)安藝豫審判事ヲ忌避シテ、ソレカラ山口ニ  
 ヤツテ貰ヒタイト云フコトハ、前以テ頼ンデ置イタノデハナイカ、(答)左様ナ  
 譯デハゴザイマセヌ、(問)ソレヲヤツテ呉レタカラ後トデ禮金ノ二百圓ヲ持ッ  
 テ行ツタノデハナイカ、(答)左様ナ譯デハゴザイマセヌ、(問)前以テ頼ンデ置イ  
 タカラ、持ツテ行ツタ、ソウ云フ風ニ見ヘルガサウデハナイカ、(答)ソレハソウ  
 デハゴザイマセヌ、(問)ソレナラソレデ宜イ、初メノ事實ハソレデ大抵分ツタ  
 ガ、ソレデ此事件ニ就イテ豫審判事カラ呼出シヲ受ケタナア、呼出シヲ受ケタ  
 トキニ六月ニ菓子ヲ持ツテ山口ニ禮ニ行ツタ、其時ニ金ヲ貸シテ呉レト悟レガ

横濱ノ某  
 心中火ノ  
 如シハ面  
 白イ

シニ言ツタカラ持合セノ二百圓ヲ渡シタト云フ申立テヲシテ、其後今申立ヲシ  
 タ金ヲ渡シタト云フコトヲ言ツテ居ル、ソレデ初メニ會合シタ事實ト云フモノ  
 ハ、豫審判事ノ訊問ニ對シテ隠シテ居タヤウデアアルガサウカチ、(答)ソレハ  
 誠ニ私ハ如何トモ此前後ヲ致シマシテ、金ノ六ヲ先キニ御調べニナリマシテ、四  
 月ト五月ト六月ト——五月下旬カラ六月ト云フコトヲ申上ケテ、其後トデ大變  
 ニ御小言ヲ戴キマシタ、私モ當時ハドウカ御案内ノ通り横濱ノ某ト云ハレルモ  
 ノデアリナガラ、誠ニサウ云フコトニ立至ツタカト存シマシテ、同人ヲ庇フ積  
 リハ毫モゴサイマセヌガ、如何センドウモ何トモ心中火ノ如クニナリマシテ、一  
 向仰ツシヤルコトモ耳ニ入りマセヌヤウナ次第デ、自分デ愧チマシテ、何トモ  
 彼トモ言ヒ様ガゴザイマセンデ、實ハ此假牢ニ這入りマスマデハ道モ存シマセ  
 スヤウナコトデ、殊ニ私ハ今年デ獨立致シマシテカラ二十一年ニナリマスガ、此  
 裁判所ニハ唯タノ一度モ證人トシテ——今度デ三度出マシタ丈ケテ、故ニ一向  
 其事ヲ存ジマセヌモノデスカテ、殆ド前後シテお小言ヲ戴イタノデ、段々自分  
 デ考ヘテ見マスルト云フト、自分ニ愧チテ申上ケマセヌノガ却テ官ニドウモ濟  
 マスト云フコトヲ自分デ考出シマシテ、ゴザイマスカラ、ドウカ裁判ノゴザイ

斷斷斷斷

マセヌ中ニト存ジマシテ、其夜ハ一ト夜假牢下ノ方ニ窓ガゴザイマシテ、硝子ガハマツテ居リマセヌカラ——吹抜キニナツテ居リマスカラ、ソコニ立ツテ、其夜ハ横ニナラズニ一ト夜暮シテ居リマシテ、明クル日ニ篤ト考ヘマヌト云ツト、如何センドウモ官ニ對シテ何トモ彼トモ申上ケヤウガナイ、彼ノヤウナモノニ一時信用ヲ置キマシタト云フノガ心身ニユタヘマシタ故ニ……私ハ文モ存ジマセヌカラ、御係リ豫審判事様へ大至急上申仕度儀有之候間御取次ノホドヲ願フト云フ……(問)ソレハ何時出シタ、(答)ソレハ二十日ニ出シマシタ、ドウカ裁判ノゴザイマセヌ中ニト存ジマシテ出シマシタラ、早速二十日ニ御呼出シニナリマシテ……(問)大至急上申ノ儀ガアルカラ呼出シテ呉レト云フノハドウ云フコトヲスル積リデ其書面ヲ出シタノカ、(答)ソレハ前ニ申上ケ損ヒガゴザイマスノデ、何トモ彼トモ考ヘテ見マスルト云フト、實ニビツシヨリ汗ヲカイテ仕舞ヒマシテ、相談ヲスルコトモ何モ出来マセズ一人居リマシタ、ソレ故ニ考付キマシテソレヲ出シマシタノデゴザイマスカラ……(問)申上ケ損ヒガアル其申上ケ損ヒヲ改メテ申ス積リデ書面ヲ出シタ——斯ウ云フノダナ、(答)左様デゴザイマス、(問)併ナカラ豫審判事カラ、偽リヲ申セバ偽證罪ニ處セ

ラレルト云フコトハ二回モ注意ヲシタ、ソレデ被告人ハ固ヨリ其事ヲ承知シテ居ルト云フコトヲ言ツタ趣キダガドウカ、(答)ソレハ仰ツシヤイマシタカ知リマセヌガ、私ハサウ云フコトハ一向慣レマセヌカラ——ドウト云フコトノ存ジガゴザイマセヌモノデスカラ、私ハソレヲ承知致シテ居リマスルヤウデゴザイマスレバ、自分デ書面ヲ出シマスマヤウナコトハゴザイマセヌ、仰ツシヤイマシタノデゴザイマセウガツイ私ノ耳ニ漏レテ居リマス、(問)斯ウ云フ譯デアツタウナコトハアルマイト思フテ偽リヲ言ツテ居タケレドモ、偽證罪ヲ告發スルヤラナイコトダト思ツテ、ソレデ至急上申シタイト云フ書面ヲ出シタノデハナイカ、(答)ソレヲ存シテ居リマスレバ、今日金銭上替ヘラレマセヌ私ノ不名譽ニナリマシテ、先ツ私ノ身分ハ半分死ンダモ同様ニナツテ居リマス、世ノ中ニ對シマシテ……存ジテ居リスレバ、第一回ノ金ノコトヲ申上ケマシテ……彼ノ席デ言直シガ出来マスノデゴザイマシタデセウ、只今ニナツテ考ヘマストソレヲ存ジマセヌ故ニ右様ノコトヲ致シマシタ、ソレデ此自首ト云フコトガアルト云フコトヲ存ジマシタ故ニ私ハ……(問)自首……(答)先キニ御呼出シノナイノ

ニ自分カラ其事ヲ申上ゲマシタ、(問)ドウ云フ所カラサウ云フコトガ分ツタカ  
 法律書ニデモ見タカ、(答)法律ハ見マセヌガ、能ク世ノ中ニ御尋ノナイ中ニ自分  
 カラ言ツテ出テ……、ドウモ私ガ思ヒマスノニ段々何ゾ致シマスト、ソレカラ  
 ニ番仕舞ヒノトキニドウ私ヲ爲スツテ下サルノデゴザイマセウカト言ツテ伺ヒ  
 マシタラバ、トウデモ宜イトコツチニ行ケト仰ツシヤツテ連レテ御出ナスツテ、  
 這入ツテ仕舞ヒマシタ譯デゴザイマス、(問)今ノコトヲ聞イテ置クガソウスル  
 ト十八日ノ日ニ拘引ニナツテ居ルノダナ、(答)ヘイ十八日ニ何ンデゴザイマス  
 九時ニ御呼出シデゴザイマスカラ、九時十分前ニ御本廷ニ出マシタ、(問)十八  
 日ノ日ニ取調ベラ受ケテ、十八日ノ日ニ警視廳ノ牢ニ留メラレタナ、(答)十九日ニ  
 ……、(答)ヘイ、(問)十九日ノ日ニハ書面モ何モ出サナイナ、(答)十九日ニ  
 ハ前ノ夜ハ臥セリマセンデ、極ク寒イ所ニ立ツテ居リマシタカラ、何ノ考モゴ  
 ザイマセヌデシタガ、段々考ヘテ見マシテ二十日ノ日ニ夜ノ明ケルノヲ待チマ  
 シテ出シマシタ、(問)書面ガ出テ居ルノカ、(答)書面ハアリマセヌ石盤デゴザイ  
 ス、(問)豫審ニ於テ斯ウ云フ申立テヲシテ居ル一應一寸聞クガナ、(答)ヘイ、  
 (問)必要ノ所ヲ讀ンデ見ヤウ、

(裁判長豫審調書ヲ朗讀ス末項參看)

○裁判長 先ツ一番最初ノ訊問ニ斯ウ云フヤウニ二遍注意ヲ受ケテ居ル、アト  
 ハ書記ヲシテ全部ヲ讀マス、(書記豫審調書ヲ朗讀ス末項參看)  
 (問)豫審廷ニ於テ只今讀聞カセタ通りノ申立テヲシタニ相違ナイカ、(答)私ハ  
 何トモ申上ケヤウハゴザイマセヌ故ニ二十日ニ……、(問)ソレハ分ツタガ此通  
 リノ申立テヲシタコトハ間違ナイナ、(答)私ハ誠ニ……、(問)ドウ云フ心持デ  
 スウ云フコトヲ言ツタ、能ク承知シテ居ルニ拘ラズ、豫審判事ガ度々注意ヲシ  
 テ居ルニ拘ラズ、何故ニ斯クノ通りノ偽リヲ言フタ、(答)誠ニ何ントモ自分ガ  
 愧チマシテ、斯様ナコトハ如何ニモ私ガ愧チマシテ、何トモ官ニ對シテ濟ミマ  
 セヌ、一向……早ク云フト無中ノヤウニナリマシタモノデゴザイマスカラ、二  
 十日ニ……、(問)自分ガサウ云フコトヲ言ツテ愧チルカラ言ハナカツタ——斯  
 ウ云フコトニナル、併シ豫審ノ方デハ山口ニ頼マレテ、身分ニ障ルカラソレヲ  
 守ツテ言ハナカツタ——言フコトガ二ツニナツテ居ル、自分ノコトヲ愧チタ、愧  
 チタガタメニア、云フコトヲ知ラヌト言ツタ、今日ノ申立テハサウデアル、前  
 ハ調ベデハ山口カラ頼マレタコトデアルカラ同人ノ身分ニ障ルト思フテ言ハナ

カッター、今日ノ申立トハ違ツテ居ルガドチラガ本當デアル、(答)ソレハドチ  
 ラモゴザイマスノデ、ア、云フ男ニ……、彼ノ男ノ御蔭デ斯ウ云フ目ニ會ツタ  
 ト云フ……、實ニ何ヲ致シマシタカ一番先ニ申上ケマシタ金ノ話シハ……、お小  
 言ガアリマシテカラ後ト云フモノハ、實ニ自分ハ御尋子ニ遇ツテ御返答ニモ差  
 支マスヤウナ次第デゴザイマス故ニ……、(問)ソレハ宜イ双方アツタト言フナ  
 一、山口ノ申立書ヲ二遍讀聞カセルカラ……、(書記豫審調書ヲ朗讀ス末項參看)  
 (問)此通り言ツテ居ルガドウダ、(答)只今ノ中ニ佐野茂デ話シテ致シマシタコ  
 トハ一向載ツテ居リマセヌ、ソレカラ二百圓ノ金ヲ百圓渡シタトキニ、平沼ガ  
 何か訴訟事件ヲ頼ミタイト言ツタ、所ガソレハ徳川ノ私訴ノコト、思ヒマスガ、  
 金ヲ貸シタイト私ガ言ツタト云フコトハソレハ齟齬致シテ居リマス、ソコデ百  
 圓ノ金ヲ渡シタガ五圓返シテ又百圓持ツテ行ツテアリマス、是ハ私ノ手バカリ  
 デナク、いくノ手マデ經テ居リマスカラ、是ハ確乎トシテ居リマス、又ソレニ  
 ハ渡邊某ニ書面ヲ送ツタトアリマスガ、自分ハドウ云フ考デアリマスカ其……  
 寫シテ持ツテ歸ツタト云フコトハ……、役目ニ障ツテハイケヌカラ言ツテ吳レ  
 ルナト云フコトハゴザイマセヌノデス、(問)辯護人ハドウデス、事實上聞クコト

ガアリマスカ、(坂本辯護士)此帆足ト被告トノ間ニ別ニ約定シタヤウニモ見  
 マセヌケレドモ、約束デモシテアツタカドウカ、コチラカラ態々出テ行クカラ  
 會フカ會ハヌカト云フ約定ノヤウナコトハ……、(問)横濱ニ山口ナドニ來テ吳  
 レト云フ約定ガアツタカラ歸ツテ行ツタノカ、歸ツテ行ツタ所ガ圖ラズ來テ居  
 タカト云フノカ、(答)ソレハ一向存ジマセヌコトデ、私ガ同日ニ歸ル位ナラバ斷  
 ラナケレバナリマセヌ、毎月三日ニ出マシテ四日ニ歸リマス、ソレヲ暫ク待  
 ツテ居テ酒ノ廻ルマデ番頭ノ御取持チデ……、(問)ソレ丈デ宜イ、(坂本辯護士)  
 最ウ一点餘リ必要ナ点デモゴザイマセヌケレドモ、第四回ノ金ノ云々ニ就イテ  
 示談ノコトヲ頼マナイ、先キニ延バシタノニ何故二百圓ノ金ヲ渡シタカ——斯  
 ウ云フ裁判長ノ御問ヒノトキニ、ソレハコレマテ心配サレタコトガアルカラダ  
 ト云フコトヲ被告ハ御答シタ、此御答ハ裁判長ノ方テハ山崎家ノ事件ノ方ト御  
 聞取リニナツタト私ハ考ヘマシテ、ドウモ平沼ガ答ヘマシタ心配ヲスルト云フ  
 ノハ、矢張此酒井ふみ子ノ事件ノコトダラウト考ヘマス、  
 ○裁判長、山崎事件ト云フノテハナイ詰マリ徳川ノ方ノ私訴ト云フコトデス、  
 ○坂本辯護士、第四回デス、示談ノ何ニドウシテ金ヲヤツタカト云フ御訊問ガ



アツタ、被告ハ斷ルマデモ心配ニ預ツタコトガアル、其心配ニ預ツタコト云フコトハドウシテ知ツテ居ルト云フト、山村カラ聞イター斯ウ云フ御答ヲシタ、ソレカラ其心配スルト云フノハドウ云フコトヲ心配シタト云フト、ソレハ矢張酒井事件ノコトデアルト云フヤウニ被告ハ御答シタト私ハ聞イテ居リマシタ、裁判長ノ其時ノ御聞込ハ山崎事件ノコトノヤウニ御聞込ガアツタト斯ウ思ヒマス是迄心配ヲ受ケタト云フゴトハドウシテアツタカ之ヲ確カニシタイ、(問)下チ多デアルカ專藏ニ尋テ、一番仕舞ニ心配ヲ受ケタト云フノハドウ事件ニ就テ心配ヲ受ケタノカ、確メテ置ク、(答)私ハ其矢張酒井家ノコトヲ示談ヲシタ方ガ宜カスウト存ジマシタカラ、入用ナラバ金ハ上ケマセウガ、ドウゾ控訴ノ濟マス中ハト申シテ置キマシタ、(問)酒井ふみ子ノ方カ、(答)ヘイ、坂本辯護士(答)分リマシタ、

○裁判長 ソレデハ明讀ハ……異議ハアリマセヌカ、

○檢察官 辯護人ニ異議ハナケレバ……

○辯護士一同 書類ハ寫シテアリマスカラ、朗讀ハ宜シウゴザイマス——異議ハアリマセヌ、

○裁判長 被告人ニ飯田榮造トカ、参考人山村徳藏トカ、市倉いくトカ、渡邊直賢、山崎ふみノ取調書ハアルガ讀聞カセル等デアルケレドモ、各辯護士エ於テ讀聞カセヌデモ異議ガナイト云フコトデアルカラ、被告人ニ於テモ異議ガナケレバ讀聞カスコトハ略ス、(答)ヘイ、(問)宜イカ、ソレカラ又被告人ニ於テ、只今マデ申立テタ外ニ尙ホ申立テルコトガアルナラバ申立テルヤウニ……、(答)別段ゴザイマセヌ、(問)ソレカラ又自分ノ利益ナルコトノ證據ヲ差出スコトガ出來ルガナイカ、アルナラバ差出シテ宣イ——別ニソレハナイカ、(答)別ニゴザイマセヌ、(問)ソレデ……、

○檢察官 當被告人ノ取調モ最早終決ニナリマシタカラ、是カラシテ當被告事件ニ就テ本官ノ意見ヲ述ベマス、既ニ先刻モ事實ノ陳述ニ於テ述ベテ置キマシタ通り、當被告事件ハ偽證ノ所爲アルモノトシテ公判ヲ求メタモノデアリマス、委シク言ヘバ刑法第二百十八條ニ該ル犯罪トシテ當法廷ノ公判ヲ求メタル次第デアリマス、今刑法第二百十八條ニ規定スル所ノ偽證罪ニ就テハ如何ナル要件ガ必要デアルカト云フト、即チ同條ニ規定ズル所ノ偽證罪ニ就テハ、凡ソ三ツノ條件ヲ必要トスルモノデアラウト考ヘマス、第一ハ裁判所ニ呼出サレテ證人

トシテ取調ベラルコト、第二ハ不實ト知ツテ事實ヲ隠蔽シテ偽リノ證言ヲ爲スコト、第三ハ被告人ヲ——刑事被告人ヲ曲庇スルコト、此三ツノ條件ヲ有ツテ第二百十八條ノ偽證罪ハ成立スルモノデアラウト考ヘマス、故ニ本官ニ於キマシテハ是ヨリ當被告事件ヲ三段ニ分チマシテ——當被告事件ノ事實ヲ三段ニ分チ、順次ニ意見ヲ述ベヤウト考ヘマス、

第一ハ證人トシテ裁判所ニ呼出サレタルコト、此第一ノ條件ニ就キマシテハ至ツテ簡單ナル事柄デアリマスカラ別ニ喋々ト辯スル丈ケノ必要モナイ、即チ被告專藏ハ明治二十六年ノ十二月十四日附ノ豫審判事ノ呼出狀ヲ同十六日ニ受取ツテ居ル、即チ十二月十八日ニ東京地方裁判所ニ出頭スヘキ呼出狀ヲ受取ツテ居リマス、而シテ明治二十六年ノ十二月十八日ニ當地方裁判所ノ豫審廷ニ出頭シテ、法律ニ定メタ所ノ式ニ從ヒマシテ宣誓ヲ爲シタ、既ニ宣誓ヲ爲シテ取調ベラレル此上ハ證人タルコトハ疑ナイ、事實デアリマス、此点ニ就キマシテハ被告ノ所爲ハ此條件ニ該ルト云フコトハ疑ナイ事實デアリマス、

第二ハ不實ト知ツテ詐欺ノ陳述ヲ爲スコトデアリマス、當偽證被告事件ニ就キマシテハ、本官ハ曩ニモ申シタル通り、刑法第二百十八條ノ犯罪トシテ公訴ヲ

求メテアル、ソコデ被告專藏ハ果シテ不實ト知ツテ、即チ故意ヲ以テ事實ヲ隠蔽スルガタメニ、不實ノ陳述ヲ爲シタモノデアルカ否ヤト云フコトヲ明カニシマスレバ、ソレデ十分デアラウト考ヘマス、今被告ハ故意ヲ以テ事實ヲ隠蔽シ、虚偽ノ陳述ヲ爲シタルト云フ点ヲ豫審調書ニ據ツテ説明ヲ致シマス、即チ被告專藏ハ明治二十六年ノ十二月十八日、山口淳收賄被告事件、及帆足清華ノ詐僞取財被告事件ノ證人トシテ豫審判事西川漸ノ取調ヲ受クルニ際シマシテ、其訊問ニ對シテ第一ニ被告ハ山村德藏ノ拘留ニ付キ帆足ニ物ヲ頼ミ、或ハ金ヲ贈リ、又山口ニモ都合好キ調ベラシテ吳レト頼ミ置イタコトハナキヤ、明細ニ申立ヲ致セト云フ訊問ニ對シテ、山村拘留ノコトニ就イテ頼ンダコトハアリマセヌ云々ト答ヘテアリマス、又昨年一月四日ニ帆足、山口兩名ガ横濱ノ其方宅ニ參リ、其時山村德藏ノ話シヲ致シ、其方ハ山村ノコトニ就イテ何カ頼ミハセザルヤト云フ問ヒニ對シマシテ、是ハ年始ニ來タ丈ケデアリマス、續イテ豫審判事ガ、山口ニ遇ツタノハ昨年六月ガ初メダト言ツテ居ルデハナキヤト云フ問ヒニ對シテ、被告ハ一月來タノハ本年一月デアリマセウ、昨年一月ハ來タコトハアリマセヌ——斯ウ答ヘテアリマス、又第二點ニ於テハ昨年二三月頃其方ノ

妾宅ニ於テ、帆足、山口ニ面會セサルヤト云フ問ヒニ對シテ、被告ハ面會ハシマセスト答ヘテアリマス、又三番町ノ妾宅ニ於テ山村徳藏忌避申請書ノ草稿ヲ山口ヨリ受取り、飯田榮造ニ渡シ、同人ヲシテ監獄ノ看守渡邊ナルモノニ金ヲ渡シ、其忌避申請書ノ草稿ヲ監禁中ナル山村ニ渡サシタルコトハナキヤト云フ訊問ニ對シマシテ、被告ハ私ハ存ジマセスト答ヘテ居リマス、右ノ如ク被告專藏ハ豫審廷ニ於キマシテ第一第二ノ點ニ於テ不實ノ陳述ヲ爲シテ居リマスル、即チ言ヲ換ヘテ言ヘバ其事實ヲ隱蔽シタノデアリマス、今其事實ヲ隱蔽シテ不實ノ陳述ヲ爲シタリト云フ證據ヲ擧ケマスレバ、明治二十六年十二月二十日被告專藏ノ偽證被告事件ノ豫審調書デアリマス、故ニ當豫審調書ニ據ツテ其要點ヲ擧ゲテハ、被告ノ陳述ハ不實デアルト云フコトヲ明カニシマス、第一點ニ就キマシテハ被告專藏ハ、山口淳ガ自分宅ニ來ツタノハ即チ自分宅ニ來ツタノハ本年ノ一月デアアル、山村ノ話シハ決シテセヌ頼ンダゴトモナイ、斯ウ云フ陳述ヲ致シテ居リマス、然ルニ被告專藏ガ偽證被告事件ノ豫審調書ニ據ツテ見マスルトキハ、山口淳ハ帆足ト共ニ昨年一月四日ニ來タニ相違アリマセヌト明白シテ居リマス、ツレデアリマスルカラシテ、被告ガ明治二十五年ノ一月四日山口、帆

足ト會合シタ事實ハ隱シテ居タニ違ヒナイ、隱シテ居テ本年ノ一月デアルト言ツタニ違ヒナイ、又被告專藏ノ豫審調書ニ據ツテ見マスルト、一月四日會合ノ節即チ被告專藏ノ宅ニ帆足ト山口ガ行ツタトキデアリマス、山村徳藏拘留ノ一件ニ就テ山口淳及帆足清萃ニ何事モ依頼シタコトハナイ、單ニ帆足ノ考デ横濱ノ自分ノ宅ニ山口ヲ同行シタノミデアル、斯ウ云フ陳述デアリマス、然ルニ明治二十六年ノ十二月十二日ノ即チ官吏收賄被告人山口淳ノ申立書ニ據ツテ見マスルト、一月四日佐野茂ニ於テ專藏ヨリ變應ヲ受ケタル節、山村ガ拘留サレテ居ルト云フコトノ話シヲ聞イタト申立テ、又帆足ヨリ安藝判事ガ徳川家ヨリ賄賂ヲ受ケテ、山村、平沼ヲバ河井ノ共犯トシテ徳川ヲ助ケル積リデアルト云フ話シヲ聞イタ、大要斯クノ如キ陳述ヲ爲シテ居ル、是ニ依ツテ考ヘテ見マサルト、被告專藏ハ山村拘留ニ就テ帆足、山口ト一月ノ四日ニ横濱ノ自宅ニ會合シ、速ニ山村ノ拘留ヲ解クコトノ相談ヲシタノデアラウト本官ハ考ヘマス、相談シタコトハ勿論デアラウト考ヘマス、何故ニ本官ハ斯クノ如キ疑ヲ持ツカト云フト、若シ被告專藏ニ於キマシテ山村ノコトニ就イテ何事モ相談セヌ、何事モ依頼セヌト云フオラバ、嘗テ一面識ノナイ山口淳ガ何ノ理由モナクシテ、突

然平沼ノ家ニ行クト云フコトハナカラウト思フ、加之被告專藏ニ於キマシテモ、山口淳ヲ佐野茂ニ案内シ、酒食ヲ饗應シ、且ツ藝者ナドヲおこるト云フコトハナカラウト思フ、此點カラ見マスルト、詰マリ山口淳ガ曩ニ述ベタ所ノ即チ二十六年ノ十二月十二日ニ申立テタル所ノ陳述ハ、眞實ノ事實デアラウト本職ハ考ヘマス、又第一點ニ就キマシテハ被告專藏ハ二番町ノ妾宅ニ於テ帆足、山口ニ面會シタルコトハナシト答ヘテ居リマス、同豫審調書ニ據ツテ見ルト、三番町ノ妾宅ニテ帆足、山口外飯田榮造ト會合シ、密室監禁ノ山村ガ手紙ヲ書イテ私ニ渡邊ト云フ人ニ頼ミ、山村ノ宅ニヨコシ、其中ニ安藝判事ノ惡ルイコトヲ書イテアツタノデ、ソレヲ山口ニ見セルト、山口サンガ忌避ノ申請書ヲ書イテソレヲ飯田ニ渡シ、ソレカラ渡邊ノ手ヲ經テ山村ニ通スルヤウニ致シタノデアリマス云々ト自白シテアリマス、此點ニ就キマシテハ、明治二十六年十二月二十一日ニ山口淳ノ收賄事件ニ就イテ、證人トシテ取調ベタ飯田榮造ノ申立ニ據ツテモ、又被告今日ノ申立ニ據ツテモ明カデアリマス、又被告專藏ハ忌避申請書ヲ密室監禁中ナル山村ニ渡シタル件ニ就キマシテモ知ラヌト述ベテ居リマスケレドモ、明治二十六年十二月二十日當偽證事件豫審書ニ於テ、昨年春、三番町

ノ妾宅ニ於テ山口、帆足ト會合ノ節、山口ガ書々タモノヲ飯田榮造ニ渡シ、飯田榮造カラ渡邊ナルモノニ渡シ、ソレカラ密室監禁中ナル山村ニ渡スコトニナツタノデアリマスト申述ベテ居リマス、果シテ斯クノ如キモノデアレバ、第二點ニ於キマシテモ、被告ハ不實ノ陳述ヲシテ居ツタト云フコトハ明カナル事實デアアル、斯クノ如ク不實ノ陳述ヲ爲シテ居タト云フコトハ明カデアリマスガ、此事實ノ點ニ就キマシテハ、往々世ノ學者ハ二ツノ區別ヲ爲シテ居ル、即チ本質的ノ事實デナケレバナラナイ、附從的ノ事實ハ僞ツテモ僞證ニナラナイ、斯ウ云フ説ガアルノデアリマス、斯クノ如キ學說ハ今此法廷ニ於テ辯シテ置クノ必要ハアリマセヌカラシテ、詰マリ本官ニ於キマシテハ其事實ニ於テ區別ヲスルノ必要ノ當否ハ姑ク措キマシテ、當被告事件ノ即チ僞證ノ事實ヲ——事實ヲ隠蔽シタルノ點ハ、全ク本質的ノ事實デアルト考ヘル、詰マリ委シク申シテ見マズレバ、證據トシテ主タル事實デアアル、又訊問ノ要點デアアル、被告人ノ有罪無罪ノ決スル——即チ刑事被告人ノ有罪無罪ノ決スル所ノ主要ナル事實デアアル、尙ホ委シク申シマスレバ官吏收賄被告人山口淳ノ被告事件ノ有罪無罪ノ岐ル、所ノ事實ニ就テノ僞證デアルト考ヘマス、何故ニ本官ハ斯クノ如キコトヲ申ス

カト問マズレバ、被告山口淳ノ犯罪ハ刑法第二百八十六條ノ犯罪デアリマス、詰マリ被告山口淳ガ刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ受ケタノデアルカ否ヤト云フコトヲ明カニスルノガ、即チ證人平沼專藏ヲ取調ベル主點デアアル、然ルニ被告專藏ノ當事件ノ證人トシテノ申立ハ、全ク山口淳ガ河井庫太郎、外數名及山村德藏ノ私印私書偽造詐偽取財被告事件ニ關係シタル事實ヲ隱蔽シタルデアアル、尙ホ言ヲ換ヘテ言ヘバ、詰マリ山口淳、帆足清萃ト會合シテ終ニ忌避申請書ヲ密室監禁中ノ山村ニ送ルニ至ツタ所ノ事實デアアル、山口淳カ詰マリ河井庫太郎等ノ私印私書偽造、詐欺取財事件ニ關係シタルノ事實デアリマス、蓋シ山口淳ガ山村德藏ノ刑事被告事件ニ關係セシヤ否ヤト云フノ點ハ、同人ノ收賄ノ罪ヲ決スルニ最モ必要ノ問題デアアル、最モ必要ノ點デアアル、既ニ必要ノ點デアリマスレバ、第二點ニ於テハ被告ハ即チ偽證セシ事實ニ於テ最モ明カテアラウト考ヘマス、第三ノ條件ハ被告ヲ曲庇スルコトヲ要スル、被告專藏ハ官吏收賄被告人山口淳ヲ曲庇シタルモノデアリマス、山口淳ヲ曲庇スルタメニ、彼レ山口淳ガ裁判官トシテ刑事ノ事件ニ關係シテ居ル所ノ事實ヲ隱蔽シタ、曲庇ト云フ點ニ就キマシテハ刑事被告人ノ利益ノタメニ、詰マリ其被告人ヲシテ犯罪ヲ免レシメル

ト云フノ事柄デアル、被告ハ即チ山口淳ヲ曲庇スルタメニ事實ヲ隠蔽シテ詐欺ノ證言ヲ爲シタモノデアルト云フコトノ證據ヲ擧ゲマシム。明治二十六年ノ十二月二十日ノ被告專藏ノ豫審調書デアリマス、同調書ニ於キマシテ、不實ノ申立ヲ爲シタルニハ誠ニ恐入ツタ、山口ガ役目ニ障ルカラ申立ヲ致サズニ吳レト申サレタ、故ニソレデ一昨日ハ申立ヲ爲サヌノデアリマス云々、又三番町ノ妾宅ニ會合シタ節、山口淳ヨリ此事ハ役目ニ障ルカラ言フテ吳レルナト言ハレタノデアリマスト斯ウニ同既ニ申立テ、アリマス、果シテ右本官ガ證據トシテ引ク所ノ事實デアレバ、被告專藏ハ取りモ直サズ官吏收賄被告人山口淳ノ依頼ヲ受ケテ、其約束ヲ固ク守ツタノデアリマス、既ニ其約束ヲ守ツテ其事實ヲ隠蔽シタト致シマスレバ、是レ即チ刑事被告人タル山口淳ノ利益ノタメニ——山口淳ヲ保護スルタメニ、不實ノ陳述ヲ致シタルモノト言ハナケレバナラナイ、既ニ保護スルタメニ不實ノ陳述ヲシタトスレバ、刑事被告人山口淳ヲ曲庇シタルト云フコトハ明カデアルト考ヘル、果シテ曲庇シタリトスレバ、第三ノ條件ニ被告ノ所爲ハ該ルト云フコトハ明カデアラウト考ヘル、此點ニ就キマシハ當法廷ニ於テ被告人ハ自分ノ行爲ヲ愧チタカラシテ、事實ヲ言ハナカツタト云フヤ

ウナ申立デゴザイマスケレドモ、尙ホ裁判官ノ訊問ニ對シテドチラモト云フヤ  
ウナ極ク曖昧ナル答デアリマス、併ナガラ本官ニ於キマシテハ、既ニ豫審調書  
ニ於テ二回マデモ山口カラ役目ニ障ルカラ言フテ吳レルナト頼マレタノデアリ  
マスカラ、先ツ豫審調書ヲ以テ正確ナル事實ト考ヘマス、  
右ノ如ク辯シマストキハ被告專藏ノ所爲ハ、悉ク偽證罪成立ノ條件ニ該ル、既  
ニ偽證罪成立ノ條件ニ——構成ノ條件ニ該ルモノトスレバ被告專藏ハ固ヨリ偽  
證罪ヲ以テ罰スベキモノデアルト考ヘマス、然ルニ本日ハ見渡ス通り既ニ辯護  
士モ澤山附イテ居ラレルシ、定メテ名論卓説モアルデアラウト考ヘマス、殊ニ  
或ル二三ノ点ノ如キニ就テハ十分ノ議論ガ出デアラウト考ヘル、故ニ本官ハ豫  
メ或二三ノ点ニ就キマシテ辯明シテ置クコトガ最モ必要デアルト考ヘマス、  
即チ此偽證罪ニ就テノ或二三ノ点ヲ是カラ辯明シテ置カウト考ヘマス、  
第一ニ本官ガ辯明シテ置キタイト云フノ点ハ、凡ソ刑事被告事件ノ證人トシテ  
取調べラル、場合ニ於テ、其證人ガ自ラ刑ニ陥ル恐レノアル場合、又ハ眞實ノ  
事實ヲ吐露スルトキハ自分ノ名譽ヲ傷ケラル、場合、或ニ之ノ場合ニ於テハ己  
レノ刑罰ヲ免レルタメニ又ハ己レノ名譽ヲ保存シ己レノ名譽ヲ防衛シ、己レノ



醜態ノ曝露センコトヲ恐レテ不實ノ陳述ヲスル——其事實ニ反シタル虚偽ノ陳述ヲシテモ、法律ハ罰ハ罰スルモノデナイ斯ウ云フ説ガアリマス、故ニ或ハ辯護士諸氏ニ於キマシテモ、被告專藏ハ當時位階ヲモ有シテ居ル、又社會ニ重要ノ地位ヲ占メテ居ル、詰マリ決局紳士デアル、既ニ紳士デアルナデバ、本人ニ於テ山口淳ノ被告事件ニ就キマシテ證人トシテ事實ノ申立ヲシナカツタノハ、已レノ名譽ヲ保全スルガタメデアル、已レノ名譽ヲ防衛センガタメニ不實ノ陳述ヲ爲シタノデアル、故ニ其所爲ハ罪トナルモノデハナイ、僞證罪ハ成立シナイ——斯ウ云フ議論ガ定メテアルカモ知ラスト本職ハ考ヘマス、斯クノ如キ説ガ果シテ正當デアルカ、又法理ニ適フモノデアルカ否ヤト云フ點ニ就キマシテハ、別ニ此處デ研究スル必要ハナイ、官ニ本官ハ假リニ此説ニ賛同スルモノトシテ、此説ヲ正當ノモノト誣メマシテ、已レノ名譽ヲ防衛シ、保全セントスルノ意思ヲ以テ不實ノ陳述ヲ爲シタルトキハ、僞證罪ヲ構成セスト云フコトニ致シマシテモ、尙ホ本件ニ於テ被告專藏ノ所爲ハ犯罪タルヲ免レヌト云フノ意見デアリマス、何故ナレバ被告專藏ガ山口淳收賄被告事件ニ就キマシテ證人トシテノ陳述ハ、已レノ名譽ヲ防衛シ已レノ名譽ヲ保全セントスルノ意思デハナイ、

卑風紳士  
ノ所專藏  
ル所專藏  
ニシテ之  
ハ卑風紳  
士ニ非サ  
ルナリ

百六十  
即チ其理由ヲ是カテ述ヘマス、ソコデ彼ノ山口淳ノ收賄被告事件ニ就キマシテ、  
果シテ如何ナル點ガ紳士タルノ名議ヲ傷ケル所ノ事實デアラウカ、此點ヲ定ム  
レバ十分デアリマス、本官ノ考ニ於キマシテハ、即チ被告專藏ガ紳士ノ一分ト  
シテ、其山口淳ノ收賄被告事件ニ就テ最モ其名譽ヲ傷ケルベキ點ハ、被告專藏  
ガ河井庫太郎事件ニ就キマシテ、山口淳、帆足清萃等ト集ツテ、山口ヲシテ刑  
事ノ即チ其事實ニ關係セシメテ、終ニ山村ヲ免訴スルニ至リ、然ル後山口ノ家  
ニ禮ニ行ツテ金ヲ贈ツタト云フ事實ハ、此被告事件ニ就キマシテ、被告人專藏  
ノ紳士タル一分ヲ傷ケタルモノデアラウト考ヘル、即チ人ニ賄賂ヲ贈ルト云フ  
コトハ——即チ己レガ關係スル訴訟事件ニ就テ、人ニ賄賂ヲ贈ルト云フコトハ  
裁判官ヲシテ法ヲ枉ケシメルト云フニ當ル、裁判官ニ宣イヤウニ取計ツテ貫ハ  
ウト云フノニ當リマス、然ルニ苟モ紳士ノ一分トシテ、裁判官ヲシテ其訴訟事  
件ニ關係セシメ、是ニ金ヲ贈ルト云フヤウナコトニ至リマシテハ、最モ不名譽  
ノコトデアラウト思フ、最モ醜態ナコトデアル、然ルニ被告專藏ハ此點ニ就キ  
マシテハ、唯タ山口淳ト帆足清萃等ト會合シテ、忌避ノ申請書ヲ密室監禁ニ送  
ツタコトハ隠シテ居リマスケレドモ、山口淳ノ家ニ金ヲ持ツテ行ツタト云フコ

名譽ヲ重  
ハ高利貸  
ノ常態ナ  
ル

百六十一  
是ニ就キマシテハ一寸モ隠シテ居ナイ、豫審廷デ陳述ヲスルニ就テ毫モ頓着シ  
テ居ナイ、自ラ進シテ其申立ヲ爲シテ居ル、即チ先刻モ當法廷ニ於テ申立テタ  
テ、山村德藏ガ出獄ノ後ニ、山口淳方ニ免訴放免ノ禮ヲ述ベルタメニ葉子折ヲ  
持ツテ行ツタト云ウ其節ニ、涙ノ出ルヤウナ話シガアツテ、イロ／＼山口ノ困  
難話シヲ聞イタウラ、持合セノ二百圓ヲ贈ツタ——斯ウ云フコトヲ申立テ、居  
リマス、又第二ニハ山口ガ短刀ヲ持ツテ來テ、今度山村ノ死又所ヲ助ケテヤツ  
タト云フヤウナ強ミノ談判デ、金ヲ二百圓カニ二百五十圓ヤツタト申立テ、居ル、  
是等ノ事實ハ當法廷ニ於キマシテモ、又豫審廷ニ於キマシテモ、自ラ進シテ陳  
述シテ居ル、然ルニ此專柄ト云ラモノハ、詰マリ山村德藏ガ免訴セラレタカラ、  
其禮ニ贈ルト云フコトニ當ル、現ニ今日山口淳ハ右ノ金ヲ受ケタルタメニ、官  
吏收賄トシテ當法廷ニ訴ヘラレテ居ル位ナ次第デアル、シテ見ルト云フトソレ  
ハ即チ賄賂ト云ハナケレバナラナイ、其賄賂ヲ贈ルノ事實ヲ陳述スルニ就テハ、  
毫モ頓着シテ居ナイ、若シ被告專藏ニ於テ已レノ名譽ヲ保全シ已レノ名譽ヲ防  
衛スルタメニ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルモノトスレバ、斯クノ如キ陳述ノアルベキ

筈ガナイ、然ルニ山口淳ガ河井庫太郎外數名ノ私印私書詐欺収財被告事件ニ關係シタル事實ニ就キマシテハ、曩ニ言フ通り却ツテ之ヲ隱蔽シテ居ル、豫審判事ガ再三再四説諭シタニ拘ラス——其當時本官ハ係檢事デアリマシテ豫審判事ノ相續ガアツタ、ソレデモウ一應説諭シタラ宜カラウト本官ガ注意シタ、ソレデ三度モ四度モ注意シタケレドモ、被告人ハ如何ニモ剛情デアツテ其事ヲ申立テナイ、斯ノ如ク剛情デアツテ不實ノ陳述ヲ爲シタルハ、全ク已レノ名譽ヲ保全スルノデナクシテ、詰マリ前ニ本官ガ述べタ所ノ、刑事被告人山口淳ヲ曲庇スルタメノ陳述デアアル、偽證デアアル、是故ニ本官ニ於キマシテハ被告專藏ハ、紳士ノ一分トシテ已レノ名譽ヲ保全スルタメニ偽証ヲ爲シタモノデナイト云フコトハ明カデアラウト考ヘマス、加之若シ被告專藏ニ於キマシテ、自分ノ行爲ヲ保護スルタメニ、即チ自分ノ名譽ヲ保全スルタメニ不實ノ陳述ヲ爲シタルモノトスレバ、被告專藏ハ偽證事件ニ就テ取調ベラレタル豫審調書ニ、山口カラ役目ニ障ルカラ言フテ吳レルナト云ラカラ、自分ハ申サナカッタト云フコトハ、被告事件ガ起ツテ豫審廷ニ於テ、ソシナコトヲ言フ譯ハナイ、

(以下ハ第二卷(續ク))

### 錦織誣告事件

左ニ記載ヌルモノハ、錦織剛清ガ曩ニ謀殺事件ノ告訴ヲ提起シタルハ即チ相馬順胤子外七名ニ對シ、誣告シタルモノナリ、トテ相馬家ヨリ告訴シタル告訴狀ニシテ、此告訴狀ハ、誣告事件ノ發端ナルヲ以テ附屬證據書類ト共ニ、參考ノ爲メ、先ツ茲ニ掲載ス、而シテ、錦織剛清ガ拘留前既ニ工藤檢事正ニ對シテ陳述シタル口供、及ビ東京地方裁判所檢事ガ、連累者ノ家宅搜索押收物件ノ調書、墳墓發掘、及ビ遺骸解剖、分析ノ檢斷書、誣告事件豫審廷ノ調書、其他關係ノ書類ハ、卷ヲ逐テ、悉皆本項欄内ニ連載シ、勉メテ錦織剛清ガ謀殺ノ告訴ヲ起シタル當時、前後ノ顛末ヲ知悉セシメンコトヲ欲ス、

○誣告ノ告訴

告訴狀

東京市麴町區内幸町壹丁目六番地華族  
 告訴人 子爵 相馬 順胤  
 同市芝區西久保櫻川町九番地士族醫業  
 中井 常次郎

同市麴町區內幸町壹丁目六番地士族 泉田胤正  
 前同番地士族 青田綱三  
 前同番地士族 遠藤吉方  
 前同番地士族 石川榮昌  
 同市芝公園地十一號士族 志賀直道  
 同市麴町區內幸町一丁目六番地士族 西山リウ  
 同市京橋區八官町二十番地平民辯護士 右代理人 星  
 前同斷士族辯護士 齋藤二郎  
 同市麻布區笄町百三番地寄留埼玉縣士族 被告 錦織剛清 四十歲許  
 全 被告 人

右告訴代理人星亨同齋藤二郎左ニ告訴ノ要領開陳仕候

事實

被告人錦織剛清ハ告訴人八名ヲ以テ故相馬誠胤ヲ謀殺シタルモノト爲シ明治二十六年七月十七日ヲ以テ告訴狀ヲ東京地方裁判所ニ提起セリ  
 今錦織剛清ノ供述スル所ノ事項若クハ提出スル所ノ書類ヲ見ルニ一モ事實ナルモノナシ即チ全然無實ヲ構造スルモノトス  
 故相馬誠胤ノ精神病タルコトハ附屬書第一號診斷書ニ照シテ明確ナリ又同人ノ死亡ハ病死タルコト附屬書第二號死亡届ニ據テ正確確又疑フヘキモノナシ  
 然ルニ被告人剛清ハ前掲ノ事實ヲ知リナガラ今回ノ如キ無實ノ告發ヲナス是レ即チ不實ノ事ヲ以テ告訴人等ヲ誣告シタルモノニシテ剛清ノ所爲ハ刑法第三百五十五條ニ該當スヘキ犯罪ナリト思料ス依テ被告人御召喚御取調ノ上至急御起訴ノ御處分相成度此段及告訴候也

明治二十六年七月二十七日

右 全 星 亨 齋 藤 二 郎

東京地方裁判所 檢事正工藤則勝殿

同市麴町區內幸町壹丁目六番地士族 泉田胤正  
 前同番地士族 青田綱三  
 前同番地士族 遠藤吉方  
 前同番地士族 石川榮昌  
 同市芝公園地十一號士族 志賀直道  
 同市麴町區內幸町一丁目六番地士族 西山リウ  
 同市京橋區八官町二十番地平民辯護士 右代理人 星亨  
 前同斷士族辯護士 齋藤二郎  
 同市麻布區笄町百三番地寄留埼玉縣士族 被告人 錦織剛清 四十歲許

右告訴代理人星亨同齋藤二郎左ニ告訴ノ要領開陳仕候  
 事實

被告人錦織剛清ハ告訴人八名ヲ以テ故相馬誠胤ヲ謀殺シタルモノト爲シ明治二十六年七月十七日ヲ以テ告訴狀ヲ東京地方裁判所ニ提起セリ  
 今錦織剛清ノ供述スル所ノ事項若クハ提出スル所ノ書類ヲ見ルニ一モ事實ナルモノナシ即チ全然無實ヲ構造スルモノトス  
 故相馬誠胤ノ精神病タルコトハ附屬書第一號診斷書ニ照シテ明確ナリ又同人ノ死亡ハ病死タルコト附屬書第二號死亡届ニ據テ正確確又疑フヘキモノナシ  
 然ルニ被告人剛清ハ前掲ノ事實ヲ知リナガラ今回ノ如キ無實ノ告發ヲナス是レ即チ不實ノ事ヲ以テ告訴人等ヲ誣告シタルモノニシテ剛清ノ所爲ハ刑法第三百五十五條ニ該當スヘキ犯罪ナリト思料ス依テ被告人御召喚御取調ノ上至急御起訴ノ御處分相成度此段及告訴候也

明治二十六年七月二十七日

東京地方裁判所  
 檢事正 工藤則勝殿

百六十五

第一號

● 附 屬 書 寫

● 診 斷 書

麴町區内幸町壹丁目六番地東京府華族  
從四位 相 馬 誠 胤  
嘉永五年八月生

右ハ明治二十年四月十日帝國大學醫科大學第一醫院エ入院シ同年四月十九日ニ至ル在院中ノ病狀并ニ既往症ニ依リ左ノ如ク診定ス  
(遺傳歴) 遺傳歴ハ青田綱三ヨリ出サシメ猶ホ誠胤ニモ訊問シテ定ムル所ナリ即チ誠胤ノ血族中殊ニ母方ニハ精神及ヒ腦病ノ系統アリ父方ノ祖父ハ弘化二年ニ於テ中風症ニ罹リ五十歳ニシテ卒ス又母方ニテハ誠胤ノ祖父母共ニ卒中症ニテ死シ母ハ二十六歳ノ時ヨリ發狂シテ治セス終ニ四十歳ニ至リ卒中症ニテ死シ其妹(即チ誠胤ノ叔父)ハ平素狂人ニ齊シキ所行アリテ明治十七年六月ヨリ發狂シ十八年九月本郷癲狂院ニ於テ死シ其妹(叔母)ハ明治七年發狂シ後癩ニ同十一年肺炎症ニテ死去スト  
(既往症) 幼時ノ際數回痙攣ヲ發セシメアリ又性來癩癩ノ氣質アリテ小事ニ付憤怒シ易シト云フ其他脚氣及背癱ヲ除クノ外會テ重症ニ罹リシコナシ  
明治九年頃ヨリ此事ニ疑心ヲ起シテ憤怒シ往々亂行アリ愛憎喜怒常ニ定ラズ侍

士侍女ヲ呵責シ憤怒スルコト枚擧ニ違アラヌ若年ノキ頻リニ飲酒セシモ此時ヨリ禁酒セリト云フ十二年春以來病狀大ニ増進シ其四月一室ニ鎖錮スルニ至レリ檻内ニテハ平時ハ沈黙シテ人ト接スルヲ忌避スルカ如シト雖モ發作時ニ至レハ器具ヲ擲チ高聲ニ朗吟シ佛經ヲ誦スル等總テ躁狂狀ヲ呈ス十七年中頻リニ獨語シ人ヲ殺サントスルノ狀アリト云フ明治二十年三月十日醫科大學第一醫院へ入院ス

(現在症) 三月十日検査スル所ニシテ唯々其要點ヲ擧ク  
体格中等榮養佳良ニシテ皮下脂肪良ク發育シ顔面ハ稍ヤ蒼白ニシテ容良少シク怒氣ヲ合ヒモノ、如シ頭蓋ハ稍ヤ屋背形ヲ爲シ膝蓋髓反射機全ク消失ス又精神ノ異狀ヲ擧レバ記憶力ノ僅ニ減衰スルト感情ノ遲鈍ナルトノ他別ニ病狀ナシ  
(入院中經過) 自最初六日間ハ別ニ癲狂狀ノコナシ只タ夜間安眠セザルト便秘アル等ヲ訴フルノミ午前ハ主ニ臥床ニ在テ新聞等ヲ讀ミ或ハ何事ヲモ爲サス獨リ安臥シ午後ハ遊歩沐浴等ヲナス十六日ニ至リ舉動活潑トナリ音聲稍ヤ高ク多辯トナル加之夜間往々幼聽ヲ起ス例之天井ニ男女ノ聲アリテ雜話セリト云フカ如キアリ身体ノ居動甚ダ不安トナリ或ハ廊下ニ走出シテ急ニ便所ニ至リ或ハ室ニ歸リテ足踏ス若シ其故ヲ問ヒハ今日ハ空氣濃厚トナリ咽喉部ニ苦悶ヲ覺ユ故ニ此行ヲ爲スト云ヘリ顔面ハ紅ヲ潮シ眼光銳クシテ濕潤セルカ如ク脈ハ百二十搏ヲ數フルニ至レリ此症狀漸々増進シ二十二日ノ夜卒然看護人(大學ノ小使)ノ

而耳ヲ捕ヘ爪ヲ以テ外傷ヲ負ハシメ甚ク出血セシム又暫時ニシテ再ヒ顔面ニ負傷セシム其故ヲ問ヘハ曰ク彼ノ小使ハ顔良狸ノ如クニシテ時々室内ヲ窺フヲ以テ如此所置セリ別ニ原因アルコトナシト廿五日諸症減退シ彼ノ暴行ヲ悔悟セリ四月二日頃再ヒ幼聽ヲ發シ精神活潑トナル四日夜起テ暴行セント欲ス依テ投藥シ種々說解ヲ加ヘテ漸ク安靜ナラシム夫ヨリ病勢稍ヤ減退セリト雖トモ十日ノ夕刻ニ至リ一ノ原因ナクシテ飯杓子ヲ以テ看護人(患者方ヨリ附添ヘ)ノ頭部ヲ打チ負傷セシメ出血甚ク終ニ外科施療ヲ行フニ至レリ其后精神常ニ復シ大ニ悔悟ノ狀ヲ呈ハシ今日迄暴行ナシ(診斷) 以上掲載スル者ヲ總括スレハ誠胤ハ神經病家ノ血統ニ屬シ齡廿六歳ノ時ヨリ發病シ今猶ホ精神病ニ罹ル者トス之ニ醫學上ノ名稱ヲ附スレハ時發性躁暴狂ナル者トス而シテ遠因ハ遺傳歴ニ依リ明瞭ナレモ近因ハ不明ナリ

右之通診斷仕候也

明治二十年四月十九日

主任醫 帝國大學醫科大學教授

俶 印

右ハ拙者共ニ於テモ同意ニ候也

正七位 神 帝國大學醫科大學教授

ル ツ

第三十六號 帝國大學總長渡邊洪基殿

從六位 帝國大學醫科大學教授 佐々木 政 吉 印

右ハ明治廿年四月十九日帝國大學總長ヨリ華族局長官ヘ回付シタル正本ニ照ラシ相違ナキコトヲ證明ス

明治廿四年十二月一日

爵位局長公爵 岩 倉 具 定 印

第二號

● 死 亡 届

麴町區内幸町壹丁目六番地華族

相 馬 誠 胤

四十年

一時發性躁狂兼尿崩及糖尿病

一經過十五年

一心臟麻痺ニ由リ當月二十二日午前六時死ス

右御届候也

明治二十五年二月二十二日

宮内大臣子爵土方久元殿  
麴町區長 與倉東雄殿  
右之通り相違無之候也  
明治二十六年七月廿二日

主治醫 中井常次郎  
醫學博士 榊  
百七十

告訴代理人

全 星 亨  
齋藤二郎

東京地方裁判所

檢事正工藤則勝殿

明治廿六年七月十八日

主任

正印 不起訴理由

相馬 順胤  
外七名

(不起訴第二二三號)  
右八名ニ係リ錦織剛清代理岡野寛ヨリ相馬誠胤ハ謀殺セラレタルモノナリトノ

告發書ヲ提出シタリ因テ之ヲ檢案スルニ其要領ハ本人相馬誠胤ノ身上ニ危害且  
タニ迫ルノ恐アルヨリ控訴院へ上訴中明治廿五年二月廿二日午前九時本人出頭  
ス可キノ召喚狀ヲ送達セラレ云々誠胤ハ被告人共カ相馬家ヲ横領センカ爲メ誠  
胤學業成リ歸邸ノ後ニ於テ瘋癲病ト唱ヘ常ニ出閉スル所ノ者ナルガ一朝正明ナ  
ル判官ノ訊問ヲ蒙ルトキハ彼レ誠胤ハ眞實ヲ吐露シ被告人等ノ有害トナルコト  
勿論ナリト思考シタルヤ彼レ被告人等ハ不正ニモ恐レ多クモ本人誠胤ヲ謀殺ス  
ルニ若クハナシト遂ニ誠胤ハ出頭期日ナルニ廿五年二月二十二日午前第七時死  
去ノ趣云々誠胤ノ死去ハ被告人等ノ謀殺ニ係リタルコト發覺シタリト云フニ歸  
ス抑相馬家ノ紛擾ノ一事ハ今日ニ始マリタルニ非ラス遠ク十年前ニ起因シ已  
ニ瘋癲ニ非ラザルモノヲ瘋癲ナリト稱シ私擅ニ監禁シタリトハ告發ヲ提起セシ  
コト三回悉ク不起訴トナリタルノミナラス仍ホ當時ノ狀況如何ヲ審査スルニ告  
發ニ記載事實ノ相違セシコトハ第一誠胤カ控訴院出頭期日ハ明治廿五年三月三  
日ニシテ誠胤ノ死去セシハ其出頭期日ヨリ十數日以前即チ明治廿五年二月廿二  
日ナリ第二誠胤ハ心臟麻痺ニ罹リ病死シタルコトハ醫學博士榊主治醫中井常  
次郎カ區長ニ呈出シタル死亡屆其當時臨檢セシ麴町警察署警部内藤昇ノ死体檢  
證調書警視廳ニ於テ執行セシ細井修吾ノ誠胤ノ鼻口ヨリ流出セシ液汁鑑定書及  
ヒ帝國大學教授醫學博士隈川宗雄ノ全液汁檢査成績及ビ檢査成績ニ據リ明瞭ナ  
リ且其死去以前ノ狀況ニ溯リ審接スルニ瘋癲者ナルコトハドクトルスクリバ及



三宅秀原田豊ノ鑑定アリ夫レ己ニ斯ノ如ク瘋癲ナルコト及ヒ尋常ノ死去ナリト認め得ヘキハ勿論告發狀中別ニ信ス可キ憑據ナシ因テ本件ハ不起訴トス

●呼出狀

控訴人錦織剛清ヨリ被控訴人相馬順胤ニ對スル假處分當否口頭辯論申請ノ控訴事件ニ付本人訊問ヲ要シ候條來ル三月三日午後第一時當院民事第一號認廷へ出頭之事  
受取人ノ署名捺印 相馬誠胤家令  
若シ能ハサル時拒 泉田胤正  
ミタルトキ又ハ受 三月十九日  
取ラサルトキハ其 後一時十分  
事由送達ノ年月日 本人住所  
送達ノ場所 本人不在ニ付  
親屬雇人營業使用 家令泉田胤正  
人筆生代理人會社 二渡ス  
ノ首長等ニ送達シ  
タルトキ又ハ市町 村長ニ預置キタル  
トキ等ノ事由  
右之通取扱候也

明治廿五年二月十九日

東京控訴院民事第四部

裁判所書記青木金彦

麴町區内幸町壹丁目

六番地

相馬誠胤殿

麴町區裁判所執達吏内田恭藏代理  
明治廿五年二月廿日 鈴木傳之助

右原本ニヨリ騰寫スルモノ也

明治二十六年七月十八日

(印)

●死亡届

東京地方裁判所檢事局  
裁判所書記 小池常 謹印

麴町區内幸町壹丁目六番地華族

相馬誠胤

四十年

一時發性躁狂

兼尿崩及糖尿症

一經過十五ケ年

一心臟麻痺ニ因リ當二月廿二日午前六時死ス右ハ拙者等治施ノ患者ニ候處頭書ノ通死去候ニ付此段及御届候也

明治廿五年二月廿二日

芝區櫻川町九番地

主治醫 中井常次郎

本郷區西片町拾番地

醫學博士 榎 俣

麴町區長與倉東雄殿  
右原本ニヨリ謄寫スルモノ也

明治二十六年七月十八日

東京地方裁判所檢事局

裁判所書記

小池常靜

印

○自訴狀

此ハ即チ世ニ自訴狀ト稱シ當時ハ提出者不明ナリシモノナリ

上申書

自分ハ元來相馬家ノ舊臣ニシテ其相馬家御屋敷ニ住居仕候者ニ御座候錦織剛清ナル者明治十七年ヨリ舊君公之御身之上ニ付キ種々ノ證據ヲ以テ裁判ヘ訴ヘ候然ルニ御屋敷方ニテハ舊君公之御一身上御病氣ト申觸ラセ候一條ハ大ニ望アル事ノ次第自分モ一味致シ明治廿六年ノ今日迄一味ノ者共盡力致シ候私共ハ他ニ望ト申テハ無御座金錢之自由一家族ノ安樂而已ヲ此上モチキ幸福相待舊君公ノ御死去モ思ヒ通リニ參リ候者ト喜ヒ一味ノ舊家來共トノ約定ノ通リニ至リ候事ト存居候案外違約能ク相考候ニ不忠不義ヲ致シ候而永代安樂者ハ決而無之舊君公御死後ノ始末ヲ見分スルニ一味ノ者ノ心配容易ニ無之候政自分モ子孫ノ事ヲ相思ト姓名アラハシテ御役所ヘ訴出候得ハ不忠不義ノ名高キハ勿論人面獸心タ

ル事柄故日本中相分リ申候依テ姓名ヲ不申上候テ相馬家ノ騷キヲ悉ク上申致シ候一味ノ者共ノ惡事ヲ其儘ニナシ置候儀殘念ニ御座候ニ付一味致シ候次第不包上申致シ候得バ一同御喚出シ御吟味ニ相成候事ト奉存候ニ付左ノ通り申上候一明治七年中天朝之御用達井筒屋善助ト申大商人アリ一番頭ニ古川市兵衛ト行岡庄兵衛ト申者御座候相馬家ノ御政事ニ時々相談致シ候事東京表ヘ御永住ト相成候故何事モ金錢ノ義ハ萬端相談致シ候富田久助ト申者元家來有之其外ニ木村彌惣左衛門大槻吉直志賀直道青田綱三岡部綱紀西内善右衛門杯申人々相馬御内務ノ御金ヲ一時元手ト致商法見込古川行岡等ヘ相談早速同意シテ御内務ノ古金十七万兩ヲ井筒屋善助方ヘ相預ケ候事ニ相談致シ候此次第ハ井筒屋近々破産ヲ幸ヒニ表向ハ御預ケ金十七万兩モ合而破産ノ分ニ相加ニ候間御内務ヘハ井筒屋ヨリ御預リ金破産致シタル故永年賦御返金カ又ハ所有之地面ニテ御取上ヲ願フ事ニ志賀其他ト相談相纏リ候爲メ預ケタル月未ニ破産ノ次第ヲ以テ十七万兩ヲ千五百圓程ノ地面ト相成候得者各々見込通リニ相成候此十七万兩ヲ早速三井銀行大藏省向所ヘ持參シテ兩替ヲナシ百二万圓ノ紙幣ヲ受ケタリ百万圓ヲ以テ足尾銅山ヲ相開キ營業致シ居事ニ相談ヲナシタリ間モ無久井筒屋ノ形付ニヨリ古川市兵衛ト申者之表面ニ而右銅山ヲ始メ候行岡ハ少々相談不届シテ立服ノ上他ニ別業ヲ相始メ候事ニ御座候其後志賀青田ノ發起ニテ御屋敷御文庫藏ニ納メ置タル大判五十枚古金五百兩壹歩銀千兩ヲ同年

大風ノ時盜人ニ持去ラレタルコトニ致シ右金銀ヲ下谷根岸村御行ノ松ノ隣リニ  
 懇意之者有之此者へ相頼ミムカヘ候テ神田徳力ト申金銀商其他大坂へ送真  
 拂候其他不都合ノ事共澤山有之依テ亡君誠胤公ハ慶應義塾ヨリ御歸宅ノ際家  
 來ノ不都合ヲ御立服御自分ニテ御家ノ御改革ヲ被仰出候事ニ御座候處一隊ノ  
 面々ハ大ニ驚キ早速内々相談シ御親類様方へモ其々取成御發狂ト申觸シ御座  
 敷ニ押込候事ニ取極タルハ十年四月ナリ亡君ヲ日光御見物ト偽リテ御留守中  
 ニ御座敷ニ御普請ヲナシ織田様へ相頼ヒ押込申上タルハ同年六月ノ事ナリ其  
 年ヨリ亡君誠胤公ノ御實印ヲ取上ケ一味ノ面々種々ノ惡事ヲ御實印ニテ取斗  
 ヒ其内ハ五ヶ條ハ赤阪一ツ木町ノ地所賣買三井銀行へ三萬圓ノ借用金第一銀  
 行へ預ケ金麴町三丁目茶商へ利廻シ金石卷相馬屋へノ資本金御國元ノ貸金諸  
 株金等凡ソ七十萬圓程有之候モ皆一味ノ者共ニ名前致シ候其内三萬圓借用  
 金ハ亡君ノ御名前ニ相成候趣極々密々ニ致シ置候由ニ御座候其ヨリ錦織ナル  
 者ヨリ裁判所相ねコリ候タメ警視廳ノ方ハ鈴木清總ヲ宜様ニ致シ裁判所ハ  
 山田司法卿へ岡部綱紀ヲ以テ同様取成宮内省へハ北條氏恭殿ヲ以テ申入其際  
 一味ノ面々ヨリ差出候金子ハ司法卿へ三萬圓警視廳へ一万六千圓外ニ錦織ナ  
 ル者ノ入檻ノ際野崎敬三へ二千圓豫審掛リ佐倉廣則へ千圓檢察官關義幹へ千  
 圓鈴木貞順へ五百圓送り候扣訴院へハ岡部綱紀ヲ以テ宜敷爲取斗致候大審院  
 ハ見合置候東京府之癡狂院へ入院ノ際芳川東京府知事ヲ以テ院長中井常次郎

へ年給ノ約定取極メ相願候尤モ五百圓宛芳川知事へハ三千圓獻納致シ候宮内  
 省ノ方ハ香川敬三へ五千圓中島へ五百圓大凡其々ノ掛官員へ五千圓合一萬五  
 百圓總テ持參人ハ志賀岡部青田鈴木清總ナリ農商務省ニテハ柳谷謙太郎へモ  
 相送り盡力ヲ受タリ鈴木亂ト申而相馬家ノ家扶相務メ居候者モ發覺ノ恐レ有  
 故此ハ毒殺ノ事ニ致シ候引續キ老君公モ御死去被遊候方宜敷ト一味ノ者申合  
 乍恐毒殺仕候御藥者皆中井常次郎へ相頼申候柳椒橋本網常戶塚文海岩佐純三  
 宅秀佐々木政吉佐藤進外國入へるつノ人々へ内々御相談申候所佐藤橋本戸塚  
 ノ三名ハ御斷ニ相成其他ノ醫師方ハ私共ノ願意御承諾被遊候故何事モ御相談  
 申候依テ神へ其他五千圓宛差置岩佐へハ別段外國へ出立ノ際二千圓相増相送  
 リ候亡君公御病氣御全諭トシテ御屋敷ニ而御養生ノ際錦織ナル者ノ議論ヨリ  
 不得止御召遣ノ女京橋ノ出入紙屋ノ口入ニテ神田區向柳原町古道具商東明タ  
 ケ長女シゲト申者一月金六圓衣服料トシテ五拾圓遣シ相雇候間モナク妊娠仕  
 候然レニ世間ニテ狂人ト申觸サセ亡君ノ御召遣之孕理ナシトシテ相馬家ノ舊  
 家來ノ内ヨリ書生ニ參リ居候岩崎ト申者右ノ亡君ノ召遣ノトけへ通シ孕タル  
 トト申觸レ候所トけ大ニ立服御邸内大騒キトナリ御親戚方へモ御集會ヲ相願  
 遂ニ亡君公ノ被仰如ク御實子トナリ大ニ失策仕無余儀書生へ右ノ策略ノ口止  
 メ金トメ三百圓相遣シ候事ニ後見人淺野公御立會トシテ相濟タリ是ヨリ淺野  
 家之御家令ト深密ニ相成淺野家へ御用立金ニ候様ニ相成候又々引續キ錦織ヨ

リ裁判追々ニ負ヲ取ル様ニ相成候爲メ東京地方裁判所長大島殿へ密願ノ手續  
 キヲ相始メ長崎縣人ニテ曰井哲夫ト申人へ相頼所長へ五千圓差出御手納ニ相  
 成裁判向都合宜敷様ニ取斗ヒテ相願候又御同人ヨリ御内話ニヨリ松室致ト申  
 人へモ壹千圓差上他ノ檢察官方へハ大島殿ヨリ御相談ニ相成候事ニ御約定  
 致シ候曰井哲夫へ盡力ノ禮トシテ金子相送度申込候曰井ヨリ申出ニハ生來御  
 家ニ該願ノ次第モ御生候故拙者ノ及御盡力ヲ仕候トテ金子ハ手納不仕候然  
 ルニ長崎へ出立ノ際金四百圓青田ヨリ相遣候様其際ハ一時御借用ト申テ手納  
 仕候又々議會相始リ候節曰井上京青田ヨリ遣シ候金四百圓返金シテ一事業ノ  
 金主タルコトヲ依頼サレタル故青田其他一味ノ者へ相談ノ上秘密ノ發覺恐ル  
 爲メ無余儀總武鐵道ノ發起者并ニ金主ト相成候事ニ御座候錦織ヨリ相馬家御  
 財産差押ノ際ニ殊更大島松室野崎ノ三名非常ノ御盡力ヲ相請亦阪八百勤へ御  
 集會ヲ願ヒ野崎大嶋ノ方御言葉ニ依リ錦織ノ所持スル委任狀ヲ無功ニスル方  
 至極ト亡君へ私罷出御性名ニ御書ヲ相願候處三君ヨリ何ノ入用ニテ余ノ姓名  
 ヲ申入ルヤト御意ヨリ宮内省へ御届出有之爲ト偽リ漸々御出被遊是ヲ大嶋野  
 崎兩人差出錦織ヲ告訴スル手續ヲ致候依テ代言人山田喜之助へ青田綱三參リ  
 壹ヶ月五十圓ニ相定メ告訴ノ手續キヲナセリ然ルニ錦織ハ拘留ト相成大ニ安  
 心仕候所豫審掛ハ本人相馬誠胤之再ヒ取調ヲ爲サレタルヲ以テ發覺シ遂ニ錦  
 織ナル者ハ放免トナリ是ハ大嶋野崎兩氏ノ失策トナリ爲其再度御財産差押ト

外裁判三ツニナリタリ密會日々ニテ私共モ一致候テ先非後悔仕候乍然堅ク約  
 定ノ事ナレハ不得止奔走仕候控訴院ヨリ本人誠胤出頭可致御達シニ大ニ驚キ  
 又々密會ヲナシ無余儀中井常次郎兩醫ニモ相談シテ毒殺ト決シ目黒御遊歩  
 ニ亡君ヲ御誘ヒ申上御書ニ際御服藥ヲ申上早速御承知御服藥被遊翌日控訴  
 院御出頭前ニ御死去存候其日中井兩醫ノ診察證ヲ相願候兩醫ノ御意見ニハ  
 萬一かへはふノ恐レアレハ片山モ調印願置候得者大丈夫ト被申候ニ付早速相  
 頼翌日朝六時頃ニ至リ亡君公者翌日御死去ノ模様無之只吐血非常ニテ大ニ驚  
 入候控訴院へ御出頭之時刻ニ相成候タメ御急死之趣キ相願診斷書相添兩裁判  
 所へ差出置歸宅仕候ニ午前十二時頃ニ至リテモ御死去ノ模様無之不得止ムト  
 んヲ以テ密ニ一味ノ者ト押殺シタマツリ候其ガ爲全ク御死去ニ相成候ハ午  
 後四時三十分比ト奉存候翌日警視廳ヨリ死体御検査ノ官更御出張ニ相成一味  
 ノ者一同切腹ト内決致シ御検査ノ際吐血ノ殘リ相アラハレ醫官警察官ノ御差  
 圖ヲ以テピンニ吐血ノ殘リヲ御取入御持歸リニ相成候ニ付一味ノ面々死ヲ決  
 シテ鈴木青總ヲ以テ警視總監園田殿へ密々該願大島野崎ノ兩氏モ大盡力ニテ  
 内濟ニ先決シ麴町署長へモ同様總監ヨリ御申送リ密ニ謝儀トシテ總監へ壹萬  
 圓署長へ壹千圓出張醫員方ニハ總監ヨリトシテ御約束申上相濟候折柄錦織ヨ  
 リかへはふ願出又々心配致シ并ニ葬儀執行ヲ差止メ願出大ニ驚キ此度一同死  
 ニ決シタリ又々大島野崎ノ兩人ノ盡力ニ因リ葬儀ヲ出内々裁判ノ御通知有